

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ	カギヨクホクジン スギヤマヨクケン							
設置者	学校法人 椋山女学園							
フリガナ	スギヤマヨクケンダクイナク							
大学の名称	椋山女学園大学 (Sugiyama Jogakuen University)							
大学本部の位置	愛知県名古屋千種区星が丘元町17番3号							
大学の目的	<p>本学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、深く専門の学術を教授研究し、もって高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人間を育成することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>【外国語学部】 複数の外国語習得による複眼的視点を身につけ、専門とする言語圏ならびにグローバル社会について深く多面的に理解し、地球規模の課題に取り組む能力を有する人材を養成する。</p> <p>【英語英米学科】 世界共通語としての英語の実践的運用力を身につけ、英語圏の文化や社会について深い知識を有し、「英語を用いて」仕事ができる人材、英語を活かした文化の交流や創造に寄与し、地球規模の課題に取り組むことのできる人材を養成する。</p> <p>【国際教養学科】 英語に加えてフランス語、ドイツ語、中国語など各国語の実践的運用力を身につけ、ヨーロッパ、あるいは日本を含むアジアの地域と文化を多面的、重層的に理解し、グローバルな課題に取り組む能力をもち、欧州あるいはアジアの視点から文化の交流や創造に寄与する人材を養成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	外国語学部	年	人	年次人	人	学士 (英語英米)	年月 第 年次	愛知県名古屋千種区星が丘元町17番3号
	英語英米学科	4	115	3年次 10	480	令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次		
	国際教養学科	4	85	3年次 10	360	学士 (国際教養)	令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次	
	計		200	3年次 20	840			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>人間関係学部 人間共生学科 (90) (3年次編入学定員) (2) (令和5年4月届出予定)</p> <p>情報社会学部 情報デザイン学科 (100) (3年次編入学定員) (2) 現代社会学科 (120) (3年次編入学定員) (2) (令和5年3月認可申請)</p> <p>現代マネジメント学部 現代マネジメント学科〔定員増〕 (10) (令和6年4月)</p> <p>看護学部 看護学科〔定員増〕 (10) (令和6年4月)</p> <p><u>国際コミュニケーション学部(廃止)</u> 国際言語コミュニケーション学科 (△115) (3年次編入学定員) (△ 10) 表現文化学科 (△ 95) (3年次編入学定員) (△ 10) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p>人間関係学部 人間関係学科(廃止) (△100) (3年次編入学定員) (△ 2) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p><u>文化情報学部(廃止)</u> 文化情報学科 (△120) (3年次編入学定員) (△ 2) メディア情報学科 (△100) (3年次編入学定員) (△ 2) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p>							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	外国語学部 英語英米学科	140 科目	63 科目	7 科目	210 科目	126 単位			
外国語学部 国際教養学科	122 科目	80 科目	7 科目	209 科目	126 単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	外国語学部 英語英米学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			人	人	人	人	人	人	人
			7 (7)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	141 (141)
			4 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (11)	0 (0)	147 (144)
			6 (7)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	12 (13)	0 (0)	122 (121)
			5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	126 (126)
			7 (10)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (15)	0 (0)	120 (117)
			29 (36)	18 (18)	11 (11)	0 (0)	58 (65)	0 (0)	— (—)
			7 (7)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	14 (14)	8 (8)	93 (93)
		8 (8)	5 (5)	3 (3)	1 (2)	17 (18)	2 (2)	121 (121)	
		9 (10)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	15 (16)	0 (0)	77 (77)	
		12 (12)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	77 (77)	
		21 (21)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	32 (32)	0 (0)	99 (99)	
		13 (13)	13 (13)	1 (1)	5 (5)	32 (32)	14 (14)	49 (49)	
		69 (71)	46 (46)	11 (11)	9 (10)	135 (138)	24 (24)	— (—)	
		98 (107)	64 (64)	22 (22)	9 (10)	193 (203)	24 (24)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任	計				
	事務職員		67 (67) 人	33 (33) 人	100 (100) 人				
	技術職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図書館専門職員		3 (3)	2 (2)	5 (5)				
	その他の職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
		70 (70)	35 (35)	105 (105)					
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	65,407.76 m ²	0 m ²	0 m ²	65,407.76 m ²				
	運動場用地	44,454.00 m ²	0 m ²	0 m ²	44,454.00 m ²				
	小計	109,861.76 m ²	0 m ²	0 m ²	109,861.76 m ²				
	その他	8,177.24 m ²	0 m ²	0 m ²	8,177.24 m ²				
		118,039.00 m ²	0 m ²	0 m ²	118,039.00 m ²				
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	73,386.62 m ² (73,386.62 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	73,386.62 m ² (73,386.62 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	103 室	75 室	102 室	29 室 (補助職員 人)	2 室 (補助職員 人)				
専任教員研究室		外国語学部			室数				
					28 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 (うち外国書) 冊	学術雑誌 (うち外国書) 種	電子ジャーナル (うち外国書) 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	外国語学部	465,700 [98,600] (460,689 [97,584])	2,640 [895] (2,598 [879])	40 [34] (32 [29])	21,000 (20,548)	6,560 (6,560)	287 (273)		
	計	465,700 [98,600] (460,689 [97,584])	2,640 [895] (2,598 [879])	40 [34] (32 [29])	21,000 (20,548)	6,560 (6,560)	287 (273)		

令和5年4月
届出予定
令和5年3月
設置認可申請中
令和5年3月
設置認可申請中

学長は、管理栄養
学科に含める。

大学全体

大学全体

大学全体

学部全体

学部単位での特定
不能なため、
大学全体の数

図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		4,071.40 m ²		604席		403,489冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		5,052.14 m ²		テニスコート6面、ゴルフ練習場20打席、 テニスコート・フットサル共用コート1面						
経費の 見積り 方法及び 概要	経費 の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・ データベースの 整備費（運用コ スト含む）を含 む。
		教員1人当り研究費等		579千円	579千円	579千円	579千円			
		共同研究費等		2,142千円	2,142千円	2,142千円	2,142千円			
		図書購入費	6,771千円	6,771千円	6,771千円	6,771千円	6,771千円			
	設備購入費	30,462千円	30,462千円	30,462千円	30,462千円	30,462千円			届出学部全体	
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,289千円	1,089千円	1,089千円	1,089千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			入学検定料収入、特別寄付金収入、国庫補助金収入、資産運用収入、雑収入等							
大 学 の 名 称		椋山女学園大学								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
生活科学部		年	人	年次 人	人		倍		愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号	
管理栄養学科		4	120	— —	480	学士 (生活科学)	1.05	平成19年度		
生活環境デザイン学科		4	137	2年次 2 3年次 2	558	学士 (生活科学)	1.05	平成15年度		
国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科		4	115	3年次 10	480	学士 (国際コミュニケー ション学)	0.90 0.94	平成15年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号	
表現文化学科		4	95	3年次 10	400	学士 (国際コミュニケー ション学)	0.86	平成15年度	令和6年度4月1年 次学生募集停止 令和8年度4月3年 次学生募集停止	
人間関係学部 人間関係学科		4	100	3年次 2	404	学士 (人間関係学)	0.96 0.91	昭和62年度	愛知県 日進市竹の山3丁目 2005番地	
心理学科		4	110	2年次 2 3年次 3	452	学士 (人間関係学)	1.00	平成14年度	令和6年度4月1年 次学生募集停止 令和8年度4月3年 次学生募集停止	
文化情報学部 文化情報学科		4	120	3年次 2	484	学士 (文化情報学)	1.04 1.02	平成12年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号	
メディア情報学科		4	100	3年次 2	404	学士 (メディア情報学)	1.07	平成23年度	令和6年度4月1年 次学生募集停止 令和8年度4月3年 次学生募集停止	
現代マネジメント学部 現代マネジメント学科		4	180	— —	720	学士 (現代マネジメント)	1.07	平成15年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号	

教育学部 子ども発達学科	4	170	2年次 2 3年次 3	692	学士 (教育学)	1.00	平成19年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号
看護学部 看護学科	4	100	— —	400	学士 (看護学)	1.08	平成22年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号
		1,347	2年次 6 3年次 34	5,474		1.01		
附属施設の概要	<p>名称：栢山女学園高等学校・栢山女学園中学校 目的：実習施設 所在地：愛知県名古屋市千種区山添町2丁目2番地 設置年月：昭23.3.31 規模等：校地 27,362.00㎡ 校舎 23,742.08㎡</p> <p>名称：栢山女学園大学附属小学校 目的：実習施設 所在地：愛知県名古屋市千種区山添町2丁目2番地 設置年月：昭27.4.1 規模等：校地 6,550.00㎡ 校舎 6,218.91㎡</p> <p>名称：栢山女学園大学附属幼稚園・栢山女学園大学附属保育園 目的：実習施設 所在地：愛知県名古屋市千種区山添町2丁目2番地 設置年月：幼稚園 昭17.4.1/保育園 平27.4.1 規模等：校地 3,486.00㎡ 校舎 2201.56㎡</p> <p>名称：栢山女学園大学附属栢山こども園 目的：実習施設 所在地：愛知県名古屋市名東区にじが丘1丁目12番地の4 設置年月：平31.4.1 規模等：校地 2,394.00㎡ 校舎 946.00㎡</p>							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」,「新設学部等の目的」,「新設学部等の概要」,「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず,斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については,共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は,「教育課程」,「教室等」,「専任教員研究室」,「図書・設備」,「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず,斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は,「教育課程」,「校地等」,「校舎」,「教室等」,「専任教員研究室」,「図書・設備」,「図書館」,「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず,斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には,実技も含むこと。
- 6 空欄には,「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人相山女学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度

入学定員 編入学定員 収容定員

令和6年度

入学定員 編入学定員 収容定員 変更の事由

相山女学園大学			
生活科学部			
管理栄養学科	120	—	480
生活環境デザイン学科	137	2年次 2 3年次 2	558
国際コミュニケーション学部			
国際言語コミュニケーション学科	115	3年次 10	480
表現文化学科	95	3年次 10	400
人間関係学部			
人間関係学科	100	3年次 2	404
心理学科	110	2年次 2 3年次 3	452
文化情報学部			
文化情報学科	120	3年次 2	484
メディア情報学科	100	3年次 2	404
現代マネジメント学部			
現代マネジメント学科	180	—	720
教育学部			
子ども発達学科	170	2年次 2 3年次 3	692
看護学部			
看護学科	100	—	400
大学計	1,347	2年次 6 3年次 34	5,474
相山女学園大学大学院			
生活科学研究科			
人間生活科学専攻 (博士後期課程)	3	—	9
食品栄養科学専攻 (修士課程)	6	—	12
生活環境学専攻 (修士課程)	6	—	12
人間関係学研究科			
人間関係学専攻 (修士課程)	20	—	40
現代マネジメント研究科			
現代マネジメント専攻 (修士課程)	5	—	10
教育学研究科			
教育学専攻 (修士課程)	6	—	12
大学院計	46		95

相山女学園大学			
生活科学部			
管理栄養学科	120	—	480
生活環境デザイン学科	137	2年次 2 3年次 2	558
国際コミュニケーション学部			
国際言語コミュニケーション学科	0	3年次 0	0
表現文化学科	0	3年次 0	0
外国語学部			
英語英米学科	115	3年次 10	480
国際教養学科	85	3年次 10	360
人間関係学部			
人間関係学科	0	3年次 0	0
心理学科	110	2年次 2 3年次 3	452
人間共生学科	90	3年次 2	364
文化情報学部			
文化情報学科	0	3年次 0	0
メディア情報学科	0	3年次 0	0
情報社会学部			
情報デザイン学科	100	3年次 2	404
現代社会学科	120	3年次 2	484
現代マネジメント学部			
現代マネジメント学科	190	—	760
教育学部			
子ども発達学科	170	2年次 2 3年次 3	692
看護学部			
看護学科	110	—	440
大学計	1,347	2年次 6 3年次 34	5,474
相山女学園大学大学院			
生活科学研究科			
人間生活科学専攻 (博士後期課程)	3	—	9
食品栄養科学専攻 (修士課程)	6	—	12
生活環境学専攻 (修士課程)	6	—	12
人間関係学研究科			
人間関係学専攻 (修士課程)	20	—	40
現代マネジメント研究科			
現代マネジメント専攻 (修士課程)	5	—	10
教育学研究科			
教育学専攻 (修士課程)	6	—	12
大学院計	46		95

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設了学部等の学年進行状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科 (廃止)	学士 (国際コミュニケーション学)	文学関係	外国語学部英語英米学科	11	5	外国語学部 英語英米学科	学士 (英語英米)	文学関係	国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科	11	5
			外国語学部国際教養学科	1	0				国際コミュニケーション学部 表現文化学科	2	2
			情報社会学部現代社会学科	1	0				新規採用	2	0
			退職	1	1						
			その他	1	1						
			計	15	7				計	15	7
国際コミュニケーション学部 表現文化学科 (廃止)	学士 (国際コミュニケーション学)	文学関係	外国語学部国際教養学科	2	1	外国語学部 国際教養学科	学士 (国際教養)	文学関係	国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科	1	0
			外国語学部英語英米学科	2	2				国際コミュニケーション学部 表現文化学科	2	1
			情報社会学部現代社会学科	1	1				文化情報学部文化情報学科	2	1
			教育学部子ども発達学科	3	1				文化情報学部メディア情報学科	1	1
			退職	1	1				新規採用	2	1
			その他	2	2						
計	11	8	計	8	4						
人間関係学部 人間関係学科 (廃止)	学士 (人間関係学)	文学/社会学・社会福祉学関係	人間関係学部人間共生学科	11	5	人間関係学部 人間共生学科	学士 (人間共生学)	文学/社会学・社会福祉学関係	人間関係学部人間関係学科	11	5
			情報社会学部現代社会学科	3	2				新規採用	1	1
			人間関係学部心理学科	1	0						
			退職	1	1						
			その他	1	1						
計	17	9	計	12	6						
人間関係学部 心理学科	学士 (人間関係学)	文学/社会学・社会福祉学関係	人間関係学部心理学科	15	10	人間関係学部 心理学科	学士 (心理学)	文学/社会学・社会福祉学関係	人間関係学部心理学科	15	10
									人間関係学部人間関係学科	1	0
			計	15	10				計	16	10
文化情報学部 文化情報学科 (廃止)	学士 (文化情報学)	文学/社会学・社会福祉学関係	情報社会学部情報デザイン学科	7	3	情報社会学部 情報デザイン学科	学士 (情報学)	文学/工学関係	文化情報学部文化情報学科	7	3
			情報社会学部現代社会学科	3	2				文化情報学部メディア情報学科	4	2
			外国語学部国際教養学科	2	1				新規採用	1	0
			教育学部子ども発達学科	1	1						
			その他	1	1						
			計	14	8				計	12	5

別記様式第2号・別添2

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成15年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科設置	文学	設置認可(学部)
	国際コミュニケーション学部表現文化学科設置	文学	
平成19年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成20年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成21年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成22年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成23年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成25年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成26年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成27年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成28年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
令和2年4月	国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科、表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
令和6年4月	外国語学部英語英米学科設置	文学	設置届出(学部)
	外国語学部国際教養学科設置	文学	
令和6年4月	国際コミュニケーション学部の学生募集停止	—	学生募集停止(学部)

教育課程等の概要																
(外国語学部英語英米学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
通全 科学 目共	人間論	1前	2			○								兼16	オムニバス	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼16	—	
教養 教育 科目	思想と表現 領域1	哲学	1後		2		○								兼1	
		文学	1前後		2		○			2						
		芸術	1前		2		○			1						兼1
		心理	1後		2		○									兼2
		言語	1前後		2		○			1						兼1
		人類学	1前		2		○									兼2
	歴史と社会 領域2	歴史	1前		2		○									兼2
		法	1後		2		○									兼2
		日本国憲法	1前		2		○									兼1
		経済	1前		2		○									兼1
		社会	1前		2		○									兼2
		地理	1前		2		○									兼2
		教育	1前		2		○									兼2
	自然と科学技術 領域3	物理の世界	1前後		2		○									兼2
		化学の世界	1後		2		○									兼1
		環境の科学	1前		2		○									兼1
		地球の科学	1前後		2		○									兼2
		生命の科学	1前後		2		○									兼1
	数理と情報 領域4	数理の世界	1前		2		○									兼1
		統計の世界	1前後		2		○									兼2
		コンピュータと情報Ⅰ	1前	2			○									兼3
		コンピュータと情報Ⅱ	1後		2		○									兼2
	言語とコミュニケーション 領域5	外国語（英語A）	1前		1			○								兼4
		外国語（英語B）	1後		1			○								兼4
		外国語（英語C）	2前		1			○								兼4
		外国語（英語D）	2後		1			○								兼4
外国語（ドイツ語Ⅰ）		1前		1			○								兼2	
外国語（ドイツ語Ⅱ）		1後		1			○								兼2	
外国語（フランス語Ⅰ）		1前		1			○								兼1	
外国語（フランス語Ⅱ）		1後		1			○								兼1	
外国語（中国語Ⅰ）		1前		1			○								兼2	
外国語（中国語Ⅱ）		1後		1			○								兼2	
外国語（ポルトガル語Ⅰ）		1前		1			○								兼1	
外国語（ポルトガル語Ⅱ）		1後		1			○								兼1	
外国語（スペイン語Ⅰ）		1前		1			○								兼1	
外国語（スペイン語Ⅱ）		1後		1			○								兼1	
外国語（ハンブルⅠ）		1前		1			○								兼1	
外国語（ハンブルⅡ）	1後		1			○								兼2		
健康とスポーツ 領域6	健康とスポーツの理論	1前		2		○									兼8	オムニバス
	健康科学	1前		1		○									兼1	
	スポーツ実習A	1前後		1				○	1						兼1	
	スポーツ実習B	1前後		1				○	1						兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
トータル ライフ デザイン 領域 7	ファーストイヤーゼミ	1前	1				○		3		3			兼5	
	ジェンダー論入門	1前後		2			○							兼2	
	生活と防災	1前		2			○							兼13 オムニバス	
	思考のスキル入門	1前後		2			○							兼2	
	AI・データと社会	1後		2			○							兼8 デイ オムニバス	
	ワークキャリアデザイン	1前後		2			○							兼1	
	ビジネススキル入門	2前後		2			○							兼3 オムニバス	
	キャリア形成実習Ⅰ	2前後		1				○						兼1	
	キャリア形成実習Ⅱ	2前後		1				○						兼1	
小計 (51科目)	—	3	77	0		—		6	0	3	0	0	兼96		
基幹学 科目 言語リテラシー 科目 A 言語リテラシー 科目 B 学部共通基礎	地球市民論	1前	2				○		3					兼2 オムニバス	
	Communicative English I A	1前	1				○			3				兼4	
	Communicative English I B	1前	1				○			5				兼2	
	Communicative English I C	1前	1				○			4				兼3	
	Communicative English I D	1前	1				○			5				兼2	
	Communicative English I E	1前	1				○			3				兼4	
	Communicative English II A	1後	1				○			3				兼4	
	Communicative English II B	1後	1				○			5				兼2	
	Communicative English II C	1後	1				○			4				兼3	
	Communicative English II D	1後	1				○			5				兼2	
	Communicative English II E	1後	1				○			3				兼4	
	ドイツ語 I A	1後		1				○							兼2
	ドイツ語 I B	1後		1				○							兼1
	ドイツ語 I C	1後		1				○							兼2
	ドイツ語 II A	2前		1				○							兼2
	ドイツ語 II B	2前		1				○							兼1
	ドイツ語 II C	2前		1				○							兼2
	フランス語 I A	1後		1				○							兼3
	フランス語 I B	1後		1				○							兼4
	フランス語 I C	1後		1				○							兼2
フランス語 II A	2前		1				○							兼3	
フランス語 II B	2前		1				○							兼4	
フランス語 II C	2前		1				○							兼2	
中国語 I A	1後		1				○							兼5	
中国語 I B	1後		1				○							兼5	
中国語 I C	1後		1				○							兼5	
中国語 II A	2前		1				○							兼5	
中国語 II B	2前		1				○							兼5	
中国語 II C	2前		1				○							兼5	
TOEIC 500 I	1前			2			○							兼1	
TOEIC 500 II	1後			2			○							兼1	
TOEIC 600 I	1前			2			○							兼1	
TOEIC 600 II	1後			2			○							兼1	
TOEIC 700 I	1前			2			○							兼1	
TOEIC 700 II	1後			2			○							兼1	
TOEIC 800+	1前			2			○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	言語リテラシー科目C	IELTS I	1前		2		○				1					
		IELTS II	1後		2		○				1					
		TOEFL iBT I	1前		2		○									兼1
		TOEFL iBT II	1後		2		○									兼1
		資格ドイツ語 I	2後		2		○									兼1
		資格ドイツ語 II	3前		2		○									兼1
		資格ドイツ語 III	3後		2		○									兼1
		資格フランス語 I	2後		2		○									兼1
		資格フランス語 II	3前		2		○									兼1
		資格フランス語 III	3後		2		○									兼1
		資格中国語 I	2後		2		○									兼2
		資格中国語 II	3前		2		○									兼1
		資格中国語 III	3後		2		○									兼1
		日本手話 I	2前		2		○									兼2
	日本手話 II	2後		2		○									兼2	
言語実践演習科目C	言語アカデミック実践演習A	3前	1				○			7		3			兼10	
	言語アカデミック実践演習B	3後	1				○			7		3			兼10	
小計 (53科目)			14	62	0	—			7	5	3	0	0	兼47	—	
学部共通専門	グローバルズ科目	グローバリゼーション論	1後		2		○			1						
		グローバル・エシックス	1前		2		○								兼1	
		グローバル・ヒストリー	1前		2		○								兼1	
	コミュニケーションズ科目	異文化コミュニケーション論	1後		2		○			1						
		言語の機能	1前		2		○			1						
		記号とコミュニケーション	1後		2		○			1						
	多元文化科目	多元文化論A	1後		2		○								兼1	
		多元文化論B	1前		2		○			1						
		多元文化論C	1前		2		○			1						
	海外文化研修プログラム	海外文化研修プログラムA	1後		16				○						兼1	
		海外文化研修プログラムB	1後		4				○						兼1	
		海外文化研修プログラムC	1前		2				○						兼1	
		Special Topics in English A	2前		2		○				1					
Special Topics in English B		2後		2		○								兼1		
Special Topics in German		2後		2		○								兼1		
Special Topics in French		2後		2		○								兼1		
Special Topics in Chinese	2後		2		○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	国際キャリア科目	国際キャリアデザインA	1前		2		○			1							
		国際キャリアデザインB	1後		2		○			1							
		国際キャリアデザインC	1後		2		○				1						
		国際キャリアデザインD	1後		2		○			1						兼1	
		国際キャリアデザインE	1前		2		○									兼1	
		国際キャリアデザインF	1後		2		○			1						兼1	
		国際キャリアデザインG	1後		2		○									兼1	
		社会関与プロジェクトA	1前		2		○									兼1	
		社会関与プロジェクトB	1前		2		○			1						兼1	
		社会関与プロジェクトC	1後		2		○									兼1	
		社会関与プロジェクトD	1後		2		○									兼1	
		社会関与プロジェクトE	1前		2		○			1						兼1	
		社会関与プロジェクトF	1後		2		○					1				兼1	
		小計 (30科目)			0	76	0	—			6	1	2	0	0	兼11	—
学科共通基礎	外国語科目	英語英米研究基礎	1前	2			○			2						オムニバス	
		Academic English IA	2前	1				○			3					兼2	
		Academic English IB	2前	1				○			1					兼3	
		Academic English IC	2前	1				○			2					兼2	
		Academic English IIA	2後	1				○			3					兼2	
		Academic English IIB	2後	1				○			1					兼3	
		Academic English IIC	2後	1				○			2					兼2	
		Active English A	2前		1			○			1						
		Active English B	2後		1			○			1						
		English for Academic Purposes Project and Research	3前		2			○			1						
		Advanced English A	3前		1				○								兼1
		Advanced English B	3前		1				○							兼1	
		Advanced English C	3後		1				○							兼1	
		Advanced English D	3後		1				○							兼1	
スタ デー ー ズ 科目	英米エリア	英語圏近現代史	1前		2		○					1					
		平和学	1後		2		○					1					
		Global Studies	1後		2		○					1					
		英語コミュニケーション研究入門	1後		2		○			2		2				オムニバス	
		Introduction to Intercultural Communication Studies	2前		2		○			1							
		言語コミュニケーション論	2前		2		○			1							
		非言語コミュニケーション論	2後		2		○			1							
		異文化トレーニング	2前		2		○									兼1	
		異文化適応論	2後		2		○									兼1	
		異文化理解	2後		2		○					1					
		翻訳A	2前		2		○									兼1	
翻訳B	2後		2		○									兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士（英語英米）		学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
全学共通科目「人間論」2単位、教養教育科目「領域1～7」17単位、専門教育科目「学部共通科目」44単位（「学部共通基礎」28単位、「学部共通専門」16単位）、「学科共通科目」45単位（「学科共通基礎」8単位、学科共通専門37単位）を必須とし、126単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））						1 学年の学期区分			2期					
						1 学期の授業期間			15週					
						1 時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

（外国語学部国際教養学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
通全 科学 目共	人間論	1前	2			○			2	1				兼13	オムニバス
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			2	1	0	0	0	兼13	—
教養 教育 科目	思想と表現 領域1	哲学	1後		2		○			1					兼1
		文学	1前後		2		○								兼2
		芸術	1前		2		○								兼2
		心理	1後		2		○								兼1
		言語	1前後		2		○								兼2
		人類学	1前		2		○								兼2
	歴史と社会 領域2	歴史	1前		2		○								兼2
		法	1後		2		○								兼2
		日本国憲法	1前		2		○								兼1
		経済	1前		2		○								兼1
		社会	1前		2		○								兼2
		地理	1前		2		○								兼2
	自然と科学技術 領域3	物理の世界	1前後		2		○								兼2
		化学の世界	1後		2		○								兼1
		環境の科学	1前		2		○								兼1
		地球の科学	1前後		2		○								兼2
	数理と情報 領域4	生命の科学	1前後		2		○								兼1
		数理の世界	1前		2		○								兼1
		統計の世界	1前後		2		○								兼2
		コンピュータと情報Ⅰ	1前	2			○								兼3
	言語とコミュニケーション 領域5	コンピュータと情報Ⅱ	1後		2		○								兼2
		外国語（英語A）	1前		1			○							兼4
		外国語（英語B）	1後		1			○							兼4
		外国語（英語C）	2前		1			○							兼4
		外国語（英語D）	2後		1			○							兼4
		外国語（ドイツ語Ⅰ）	1前		1			○							兼2
外国語（ドイツ語Ⅱ）		1後		1			○							兼2	
外国語（フランス語Ⅰ）		1前		1			○							兼1	
外国語（フランス語Ⅱ）		1後		1			○							兼1	
外国語（中国語Ⅰ）		1前		1			○							兼2	
外国語（中国語Ⅱ）		1後		1			○							兼2	
外国語（ポルトガル語Ⅰ）		1前		1			○							兼1	
外国語（ポルトガル語Ⅱ）		1後		1			○							兼1	
外国語（スペイン語Ⅰ）		1前		1			○							兼1	
外国語（スペイン語Ⅱ）	1後		1			○							兼1		
健康とスポーツ 領域6	外国語（ハンブルⅠ）	1前		1			○							兼1	
	外国語（ハンブルⅡ）	1後		1			○							兼2	
	健康とスポーツの理論	1前		2		○								兼8	
	健康科学	1前		1		○								兼1	
	スポーツ実習A	1前後		1				○						兼2	
	スポーツ実習B	1前後		1				○						兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
トータルライフデザイン 領域7	ファーストイヤーゼミ	1前	1				○			1	1	2			兼7
	ジェンダー論入門	1前後		2			○								兼2
	生活と防災	1前		2			○								兼13 オムニバス
	思考のスキル入門	1前後		2			○								兼2
	AI・データと社会	1後		2			○								兼8 ステイ オムニバス
	ワークキャリアデザイン	1前後		2			○								兼1
	ビジネススキル入門	2前後		2			○								兼3 オムニバス
	キャリア形成実習Ⅰ	2前後		1					○						兼1
	キャリア形成実習Ⅱ	2前後		1					○						兼1
小計 (51科目)		—	3	77	0		—		1	1	2	0	0	兼99	—
基幹学 科目 学部 共通 基礎	地球市民論	1前	2				○					1			兼4 オムニバス
	言語リテラシー科目 A	1前	1				○								兼7
	Communicative English I A	1前	1				○								兼7
	Communicative English I B	1前	1				○								兼7
	Communicative English I C	1前	1				○								兼7
	Communicative English I D	1前	1				○								兼7
	Communicative English I E	1前	1				○								兼7
	Communicative English II A	1後	1				○								兼7
	Communicative English II B	1後	1				○								兼7
	Communicative English II C	1後	1				○								兼7
	Communicative English II D	1後	1				○								兼7
	Communicative English II E	1後	1				○								兼7
	言語リテラシー科目 B	1後	1		1			○							兼2
	ドイツ語 I A	1後		1				○							兼1
	ドイツ語 I B	1後		1				○							兼2
	ドイツ語 I C	1後		1				○							兼1
	ドイツ語 II A	2前		1				○							兼2
	ドイツ語 II B	2前		1				○							兼1
	ドイツ語 II C	2前		1				○							兼2
	フランス語 I A	1後		1				○							兼3
	フランス語 I B	1後		1				○							兼4
	フランス語 I C	1後		1				○							兼2
	フランス語 II A	2前		1				○							兼3
	フランス語 II B	2前		1				○							兼4
	フランス語 II C	2前		1				○							兼2
	中国語 I A	1後		1				○							兼5
	中国語 I B	1後		1				○		1					兼4
中国語 I C	1後		1				○		1					兼4	
中国語 II A	2前		1				○		1					兼4	
中国語 II B	2前		1				○		1					兼4	
中国語 II C	2前		1				○		1					兼4	
TOEIC 500 I	1前		2				○								兼1
TOEIC 500 II	1後		2				○								兼1
TOEIC 600 I	1前		2				○								兼1
TOEIC 600 II	1後		2				○								兼1
TOEIC 700 I	1前		2				○								兼1
TOEIC 700 II	1後		2				○								兼1
TOEIC 800+	1前		2				○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	言語リテラシー科目C	IELTS I	1前	2		○									兼1	
		IELTS II	1後	2		○									兼1	
		TOEFL iBT I	1前	2		○									兼1	
		TOEFL iBT II	1後	2		○									兼1	
		資格ドイツ語 I	2後	2		○									兼1	
		資格ドイツ語 II	3前	2		○									兼1	
		資格ドイツ語 III	3後	2		○									兼1	
		資格フランス語 I	2後	2		○									兼1	
		資格フランス語 II	3前	2		○									兼1	
		資格フランス語 III	3後	2		○									兼1	
		資格中国語 I	2後	2		○									兼2	
		資格中国語 II	3前	2		○									兼1	
		資格中国語 III	3後	2		○									兼1	
	日本語 I	2前	2		○									兼2	オムニバス	
	日本語 II	2後	2		○									兼2	オムニバス	
言語実践演習科目	言語アカデミック実践演習A	3前	1				○			3	2	2			兼13	
	言語アカデミック実践演習B	3後	1				○			3	2	2			兼13	
小計 (53科目)				14	62	0	—			3	2	2	0	0	兼55	—
学部共通専門	スタディーズ科目	グローバルゼーション論	1後	2		○									兼1	
		グローバル・エシックス	1前	2		○									兼1	
		グローバル・ヒストリー	1前	2		○									兼1	
	コミュニケーション科目	異文化コミュニケーション論	1後	2		○									兼1	
		言語の機能	1前	2		○									兼1	
		記号とコミュニケーション	1後	2		○									兼1	
	多元文化科目	多元文化論A	1後	2		○									兼1	
		多元文化論B	1前	2		○									兼1	
		多元文化論C	1前	2		○									兼1	
	海外文化研修プログラム	海外文化研修プログラムA	1後		16				○						兼1	
		海外文化研修プログラムB	1後		4				○						兼1	
		海外文化研修プログラムC	1前		2				○						兼1	
		Special Topics in English A	2前		2		○								兼1	
Special Topics in English B		2後		2		○			1					兼1		
Special Topics in German		2後		2		○								兼1		
Special Topics in French		2後		2		○						1		兼1		
Special Topics in Chinese	2後		2		○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	国際キャリア科目	国際キャリアデザインA	1前		2		○									兼1		
		国際キャリアデザインB	1後		2		○									兼1		
		国際キャリアデザインC	1後		2		○									兼1		
		国際キャリアデザインD	1前		2		○									兼1		
		国際キャリアデザインE	1前		2		○									兼1		
		国際キャリアデザインF	1後		2		○									兼1		
		国際キャリアデザインG	1後		2		○									兼1		
		社会関与プロジェクトA	1前		2		○									兼1		
		社会関与プロジェクトB	1前		2		○									兼1		
		社会関与プロジェクトC	1後		2		○				1							
		社会関与プロジェクトD	1後		2		○				1							
		社会関与プロジェクトE	1前		2		○										兼1	
		社会関与プロジェクトF	1後		2		○										兼1	
		小計 (30科目)			0	76	0	—			5	0	0	0	0		兼16	—
専門教育科目	学科共通基礎	学科基礎	国際教養研究基礎	1前	2		○									兼1		
		外国語科目	ドイツ語コミュニケーションⅠ	2前	1			○									兼1	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ	2後	1				○								兼1	
			ドイツ語ⅢA	2後	1					○							兼1	
			ドイツ語ⅢB	2後	1						○						兼1	
			ドイツ語ⅢC	2後	1							○					兼1	
			ドイツ語ⅣA	3前	1								○				兼1	
			ドイツ語ⅣB	3後	1									○			兼1	
			フランス語コミュニケーションⅠ	2前	1									○			兼2	
			フランス語コミュニケーションⅡ	2後	1										○		兼1	
			フランス語ⅢA	2後	1										○	1		
			フランス語ⅢB	2後	1											○	兼1	
			フランス語ⅢC	2後	1											○	兼1	
			フランス語ⅣA	3前	1											○	兼1	
			フランス語ⅣB	3後	1											○	兼1	
			中国語コミュニケーションⅠ	2前	1											○	兼2	
			中国語コミュニケーションⅡ	2後	1											○	兼1	
			中国語ⅢA	2後	1											○	兼1	
			中国語ⅢB	2後	1											○	兼2	
			中国語ⅢC	2後	1											○	兼2	
			中国語ⅣA	3前	1											○	兼1	
			中国語ⅣB	3後	1											○	兼1	
			英語文献読解(日本論)A	2後	2					○							○	兼1
			英語文献読解(日本論)B	2後	2					○							○	兼1
			Active English A	2前	1						○						○	兼1
			Active English B	2後	1							○					○	兼1
			English for Academic Purposes Project and Research	3前	2						○						○	兼1
			Advanced English A	3前	1												○	兼1
			Advanced English B	3前	1												○	兼1
		Advanced English C	3後	1												○	兼1	
		Advanced English D	3後	1												○	兼1	
		専門国際科目	国際教養	比較文学概論	1前		2		○									兼1
漢字文化圏概論	1前				2		○						1					
世界哲学史	1後				2		○									兼1		
東西交流史	1後				2		○							1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	ヨーロッパ研究入門	1後		2		○									兼1
	世界の中のヨーロッパ	2前		2		○									兼1
	多元文化論（ヨーロッパ）A	2前		2		○									兼1
	多元文化論（ヨーロッパ）B	3前		2		○									兼1
	現代ヨーロッパ社会論	2後		2		○									兼1
	西洋芸術論	2前		2		○				1					
	イギリスの歴史	2後		2		○									兼1
	イギリス文学	2前		2		○									兼1
	イギリス文化論	2前		2		○									兼1
	現代思想論	3前		2		○									兼1
	ドイツの思想と文学	3後		2		○									兼1
	フランスの思想と文学	3前		2		○				1					
翻訳論	3後		2		○				1						
学科共通専門	アジア研究入門	1後		2		○				1					
	アジア交流論	2前		2		○				1					
	中国の歴史	2前		2		○					1				
	世界の中の中国	2前		2		○					1				
	東洋思想	2後		2		○				1					
	現代中国論	2前		2		○					1				
	植民帝国論	2後		2		○									兼1
	多元文化論（アジア）A	3後		2		○									兼1
	多元文化論（アジア）B	3後		2		○					1				
	多元文化論（アジア）C	3前		2		○					1				
	東洋文化論	3前		2		○				1					
中国文学	3後		2		○				1						
国際日本専門科目	国際日本研究入門	1後		2		○									兼1
	アジアの中の日本	2前		2		○				1					
	世界の中の日本	2後		2		○									兼1
	日本の歴史	2前		2		○									兼1
	現代日本論	2後		2		○									兼1
	比較日本文学	2前		2		○					1				
	Japanese Literature	2前		2		○				1					
	比較芸術論	2後		2		○				1					
	Minority Studies	3前		2		○				1					
	クロスカルチュラルスタディーズ	3後		2		○									兼1
	多元文化論（日本）A	3後		2		○						1			
	多元文化論（日本）B	3後		2		○									兼1
	多元文化論（日本）C	3前		2		○				1					
	多元文化論（日本）D	3後		2		○				1					
	Japanese Traditional Culture	3前		2		○									兼1
	Japanese Contemporary Culture	3後		2		○				1					
	Translation Studies	3後		2		○				1					
日本語実践演習A	2後		2				○		1						
日本語実践演習B	3前		2				○		1						
演習国際教養科目	国際教養研究A	3前	2						○		3	2	2		兼3
	国際教養研究B	3後	2						○		3	2	2		兼3
	卒業研究A	4前	2						○		3	2	2		兼3
	卒業研究B	4後	2						○		3	2	2		兼3
小計（83科目）			10	129	0	—			4	2	2	0	0	兼28	—
合計（218科目）		—	29	344	0	—			4	2	2	0	0	兼146	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士（国際教養）		学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
全学共通科目「人間論」2単位、教養教育科目「領域1～7」17単位、専門教育科目「学部共通科目」44単位（「学部共通基礎」28単位、「学部共通専門」16単位）、「学科共通科目」45単位（「学科共通基礎」7単位、学科共通専門38単位）を必須とし、126単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））						1 学年の学期区分			2期					
						1 学期の授業期間			15週					
						1 時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要				
(外国語学部英語英米学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 共通 科目	人間論	<p>福山女学園の教育理念「人間になろう」では、教育を通しての人間完成を目指している。本科目は、教育理念を具現化することを目指し、学生自身の可能性を開発し、将来の生き方についての見識を培うことを目的とするものである。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(44 本山昇、30 滝本成人、33 鄭麗芸、43 堀田あけみ、28 米田公則、59 西田敏宏、17 石橋尚子、55 熊澤千恵/4回)</p> <p><自校教育>自校教育として、(1)本学園・本大学の理念・目的、(2)本学園・本大学の使命と歴史(自校史・沿革)について理解した上で、(3)教育理念とトータルライフデザインのつながりを理解する。</p> <p>(42 古田真司、60 西村和泉、23 亀井美穂子、32 谷口功、29 佐々木圭吾、67 吉本明宜、45 山田真紀、27 小松美砂/6回)</p> <p><トータルライフデザイン>キャリア教育の出発点とし、受動的学習態度から、能動的に自律的・自立的な学習態度への転換への一歩とする。具体的な内容は次のとおりである。 (1)自己理解・思考力、(2)キャリア発達と教育、(3)ワークキャリアをイメージしよう、(4)産業とライフデザイン、(5)社会におけるデザイン思考、(6)未来を切り拓く「私」</p> <p>(44 本山昇、30 滝本成人、33 鄭麗芸、43 堀田あけみ、28 米田公則、59 西田敏宏、17 石橋尚子、55 熊澤千恵、42 古田真司、60 西村和泉、23 亀井美穂子、32 谷口功、29 佐々木圭吾、67 吉本明宜、45 山田真紀、27 小松美砂/5回)</p> <p><現代と人間>福山の教育理念と社会における現代的課題をリンクさせ、次のような内容に関する課題について理解し考える。 (1)人や国の不平等、(2)教育、(3)環境、気候変動、エネルギー、(4)食育と健康、(5)医療と福祉</p>	オムニバス方式 共同	
	思想と表現 領域1	哲学	<p>教養として最低限習得しておきたい哲学に関する知識や思考法を、「正義」や「死」、「家族」「自由」「所有」といった具体的なトピックを取り上げつつ講述してゆく。そのことで受講者一人ひとりが自分自身のドクサ(思い込み)の囚われに自覚的になるとともに、多様な観点から物事や世界を眺め、必要に応じて批判的に(あるいはメタの視点から)考えることが可能となるような態度を身につける。また、コメントペーパーや期末のレポート課題への取り組みを通じて、自分なりに考えた事柄を説得力をもって他者に伝えるための表現力を養う。</p>	
		文学	<p>教養教育科目の「文学」は、日本文学・英米文学などの授業担当教員の各々の専門に基づき複数開講されている。各専門領域において様々な地域性・時代性に即して文学作品が教材として選択され、作品の読解・分析・解釈を中心に据えながら、言語に対する深い理解と関心、現代を生きる私たちの価値観がどのように形成され、どのような文化を創造していくかという問題に受講者が向き合えるよう、それぞれの授業が設計されている。本授業では、学問の性質上、受講者自身が考えて意見を記述・表現することが求められる。</p>	
芸術		<p>「芸術」は、『美術・芸術学』、『現代の舞台芸術』、『書芸術』、『オペラを通しての芸術』などのテーマを取り扱う。それぞれの分野の作品の鑑賞を通して理解と知識を深め、その芸術に関する歴史や文化的背景なども学ぶことにより、作品に対する豊かな鑑賞力を養うとともに分析力や考察力を高める。またこの授業を通して作品を鑑賞する方法や鑑賞の観点を修得する。授業は講義形式で行われ、DVDやビデオ映像などの動画資料やスライド資料などを用いて進められ、各分野の作品を鑑賞する機会も盛り込む。</p>		
心理		<p>科学的な研究方法によって明らかにされてきた人間の心理と行動のしくみについて理解することを目的とする。感覚・知覚、学習、感情・動機づけ、認知(記憶・思考・判断)、発達(新生児・乳幼児・青年・中高年・老年)、対人関係、個人と集団(リーダーシップ、グループダイナミクス)、パーソナリティと人格・知能検査、心理的健康と援助、精神障害の特徴と心理療法といった代表的領域について、それぞれの基礎的な特徴を概説する。また、心理学研究の方法論(心理学における人間観及び実際の研究方法)について解説する。</p>		
言語		<p>教養教育科目「言語」は、日頃無意識ながら自由自在に使っている日本語を中心に、特徴的な語彙、文法そして語用面について言語意識を高めることを目標とする。日本語の運用能力向上の一助となるよう演習も取り入れる。語彙・文法面は、日本語環境で成長するなかで、まさに自然に習得しているので、質量両面でどれほど豊かな言語知識を有しているか、再認識できる領域である。他方、語用に目を向けると、敬語、オノマトペ、文字など日本語使用の場面を客観的に観察し、また外国語と比較をしながら、各目の言語行動を振り返る機会を提供する。</p>		
人類学		<p>人類学は「人類とはなにか」という問いに答えようとする学問分野である。教養教育科目の「人類学」では、人類に備わる二つの特徴に注目し、この問いにかかわる最新の知見を教授する。一つは人類の生物学的特徴とその進化的背景を理解しようとする「自然人類学」の立場からの考察である。ここでは、人類の生物学的特徴のいくつかを、他の生物と比較しながら学び、人間を深く理解し客観的に見る力を養う。二つめは人類と他の生物の大きな差異の一つである文化に焦点を当てた「文化人類学」の立場からの考察である。こちらでは、文化の本質やその多様性を学び、社会的存在としての人間を多角的に捉えるための視座を獲得することを目標とする。</p>		
歴史		<p>この授業では、主に日本古代史～近世史までを範囲として概論的内容を中心に講義する。歴史という暗記科目という印象を持つ人も多いが、大学で学ぶ歴史の見方、考え方を涵養する。これに加え、授業を通して現代日本を知る上で、必要な知識や歴史を正しく知る学びの実践や一般的教養の向上のみならず、歴史的分析法を学び、論理的思考法を知ることが目的とする。授業回によっては、神話、昔話、童話、絵本、詩、文字、通貨、食物などの具体的な対象を取扱い、時代ごとの文化や習俗を学ぶとともに現代との異同を考える。</p>		
法	<p>この科目では、「法」の一般的説明を行い、その後、民法、刑法等のうち、学生に関心があり、かつ法学上も基本的で重要と思われる論点について説明を行う。「法」を一般的、抽象的に学ぶだけでは困難も多いため、日常生活で身近な具体例を多く交えながら「法」に対する理解を深める。これらの学習を通して、法の現代社会における機能や存在意義を理解し、論理的思考力や表現力を涵養することを旨とする。授業は講義中心で進めるが、適宜映像資料を用いて理解の促進を図るとともに、教員と学生や学生同士での対話を行う。</p>			
日本国憲法	<p>この科目では、以下のトピック——①日本国憲法の根底にある立憲主義の考え方、歴史的背景と意義、②日本国憲法の三原則である「国民主権」、「平和主義」、「基本的な人権の尊重」、③日本国憲法で規定する政治や統治の規則、④日常生活での身近な事例や見聞きしたことのある社会問題と日本国憲法の関係——について学習する。憲法を一般的、抽象的に学ぶだけでは難解な面もあるため、具体例を多く利用して日本国憲法に対する理解を深めるとともに、条文や判例、学説の基本の理解をめざす。</p>			

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史と社会 領域 2	経済	経済とは、社会でヒト、モノ、カネ、情報が生産され、取引され、流通・消費され、さらにはそれを繰り返す関係のことである。私たちの生活がどのような仕組みで成り立っているのかを、経済を通じて社会全体が形づくられていく過程を踏まえながら学んでいくのが経済学である。経済活動を単純化すると家計・企業・政府が担っているといえ、それぞれが社会においてどのような役割を果たしているのか、また、それぞれがどのようなお金やりとりし合い経済活動を展開しているかなどの経済の仕組みなどについて中心に学ぶ。	
	社会	この科目では、近代化、産業化、国際化、社会階層、ジェンダー、地域、エスニシティ、教育、家族、格差と貧困などのトピックを取り上げ、社会学的な観点から社会現象・社会問題の構造や背景を解説する。「社会の常識」、「あたりまえ」を問い直す、という社会学が強みとする思考法を学習することで、私たちが生活する「社会」とはいかなるもので、どのように成り立ち、機能しているかについての理解を深め、社会問題や社会現象に対する視野を広げ、社会を批判的に検討する思考力、分析力を涵養することを目的とする。	
	地理	地理学とは地球上で生じる様々な事象を研究する学問であり、地誌・人文地理学・自然地理学に大別される。そこで本科目では、地理学の基礎的概念や用語について概説するとともに、地理学が自然現象、人文・社会現象をどのように記述・説明してきたかについて学ぶ。さらに地理学における重要な表現のひとつである地図の意義と役割を理解したうえで、地理学の見方や考え方を習得するとともに、人間の生活がどのような空間や場所・地域をつくり出しているか、また、空間・場所・地域からどのような影響を受けているかについて分析する力を養う。	
	教育	現代の子どもと教育をめぐる様々な課題に焦点をあて、それらが現代の人間形成にどのような影響を及ぼしているのかについて考える。具体的には、教育と学習の意味、現代日本の教育問題、人間の発達の要因、生涯学習の意味と目的、教育の歴史、教育の思想、外国の教育事情、グローバル人材の育成について各授業の主題として扱い、また、教育行政、教育財政、家庭教育、初等・中等教育に関連する諸事象も適宜紹介し、学校を中心とした社会の教育システムにどのような意義を見出すかを考えていく。	
自然と科学技術 領域 3	物理の世界	この科目では、物理現象を対象にして、原理原則に基づいて自然現象を理解する基礎を涵養する。理科系の予備知識、特に数学の知識を多くは前提とせず、人を取り巻く環境、身近な現象や単純な物理系を中心に講義しこれを取り扱う基礎的な手法や考え方を学ぶ。必要に応じて、簡単な実験等を行い、現象の観察、データの分析や予測を行えるようにする。これらを通して、自分自身と自然とのつながりを意識できる感覚を磨き、世界を科学的に理解する思考力を養う。	
	化学の世界	本科目の授業テーマは、生命の仕組みや環境問題といった一般教養を習得するための基礎となる化学である。私たちの身の回りの物質や現象は、「化学」と密接に結びついている。本授業では、身近な物質や生命現象について、分子レベルで理解し、論理的に考察できる能力の習得を目的とする。化学の基礎理論、様々な無機・有機化合物の特徴や性質、物性、化学反応などについて説明する。また、高度な専門知識や、最新のトピックも随所に織り交ぜながら講義を進める。	
	環境の科学	気候変動 (climate change) を中心とした地球環境の変化は人間生活に大きな影響を及ぼしつつある。この科目では地球上の物質循環の仕組みを基盤として、地球および地域の環境問題の理解と、それらの解決策について考えることを目的とする。例えば気候変動の主要因とされる大気中の二酸化炭素濃度の上昇は、地球上の炭素循環に人間活動からの化石燃料由来の二酸化炭素が流入することによって引き起こされると考えられる。化石燃料の利用は私たちの生活に深く関わっており削減は容易ではないが、一人一人の理解と行動によって実現可能となる。この科目の履修を通じて行動する地球人となって欲しい。	
	地球の科学	46億年の歴史を持つ地球は、隣接する金星や火星とは異なり、大量の液体の水、高濃度の酸素が含まれた大気を持ち、生命活動に満ち溢れた惑星である。しかしながら生命誕生以降、複数回の全球凍結 (スノーボールアース)、小惑星の落下等による破滅的な環境変化に何度も見舞われ、5回の大量絶滅を経て現在に至っている。本科目では、地球の歴史を紐解きながら、地球と生命の共進化を理解し、その成果をもとに今後の地球環境を考えることを目的とする。	
	生命の科学	生命の科学は、近年、急速な発展を遂げつつある。特に分子生物学、分子遺伝学、再生医学など、「バイオの世界」には目を見張る進歩がある。本講義では、生命を取り巻くこれらの進歩の中から、生命科学を専門としない一般人にとっても教養として知っておくべき事項について、生命科学を広く、わかりやすく俯瞰しながら講義する。また、「進化」の視点から生命現象を眺めることによって、生命とは何かの理解を深めることができる。本講義では、進化学の立場から、生命を、個々の事項としてではなく、体系的、総合的に把握することに努める。	
	数理の世界	日常生活や学問・文化・芸術における数理現象の根底にはある種の構造が存在する。その構造を表現する手段として、数学という世界共通の言語が生まれた。数学を通して異なる数理現象間の関係や大域的な現象と局所的な現象の関係が明らかになる。この講義では、数を数える、数 (物) が変化する、割合 (率) を取るという素朴な行為の考察から、ローン返済や地震の大きさ、黄金比、円周率など身近な話題や経営や情報分野に関連する内容に至るまで幅広い数理対象を、難解な数式は用いず平易な表現により説明し、数学の面白さを伝える。	
数理と情報 領域 4	統計の世界	技術の進歩により容易に得られるようになった大規模なデータを分析するための基礎となる統計学の素養を身につける。実際のデータをもとに、実習を交えながら、基本的な統計量である平均や分散、複数のデータから求める相関係数や回帰分析などの求め方を学ぶ。また確率論から、二項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布、t分布などの確率分布を理解する。そしてこれらの分布を用いて行う母集団の平均などの推定や検定の仕組みについても触れる。	
	コンピュータと情報Ⅰ	本講義では、コンピュータおよびインターネットについて基礎的なしくみを理解するとともに、コンピュータでの実習を通じ、大学生として必要な情報リテラシーを身につける。具体的には、コンピュータのOSの役割や基本操作からはじめ、ワープロソフトを用いた文書作成、プレゼンテーションソフトによる資料作成と発表、電子メールのマナー、インターネットを利用するうえで知っておくべき著作権や個人情報の取り扱いなどの情報倫理や情報セキュリティの知識について等、学生生活や社会生活を安全に過ごせる基礎的な情報活用力を養う。	
	コンピュータと情報Ⅱ	現代社会において問題解決プロセスを効率良く進めるためには、情報処理の基礎知識や基本操作の習得が不可欠である。本講義では、表計算ソフトを利用した複雑な計算、データの集計・分析、表の作成、適切なグラフ作成 (データの見える化)、データベースによる情報管理について学び、情報処理の基本概念の理解および操作スキルを身につける。また、データベースの応用やwebページ制作など情報処理技術の応用的内容として学修し、学生生活や社会生活で役立つ発展的な情報活用力を養う。	
	外国語 (英語A)	この科目では、英語の基礎的能力を育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意／不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力 (=聞く、話す) の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力 (=書く)、読解力 (=読む) を伸長することを旨とする。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語とコミュニケーション 領域5	外国語(英語B)	この科目では、外国語(英語A)に続き、英語の基礎的能力をさらに育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意/不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力(=聞く、話す)の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力(=書く)、読解力(=読む)を伸長することを目指す。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語(英語C)	この科目では、外国語(英語B)に続き、英語の基礎的能力をさらに育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意/不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力(=聞く、話す)の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力(=書く)、読解力(=読む)を伸長することを目指す。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語(英語D)	この科目では、外国語(英語C)に続き、英語の基礎的能力をさらに育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意/不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力(=聞く、話す)の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力(=書く)、読解力(=読む)を伸長することを目指す。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語(ドイツ語I)	この授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、ドイツ語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。さまざまな練習を行うことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく身につけることを目指す。具体的には、ヨーロッパ言語共通枠A1前半レベルの文法と表現を扱い、主に現在形で自分や他人を紹介する、身近な話題についてごく簡単な受け答えをする、簡単な文が書けること等を目標とする。また、ドイツ語圏の社会と文化についてもおりに触れて紹介し、ドイツ語圏やヨーロッパに対する理解を深める。	
	外国語(ドイツ語II)	この授業は、「外国語(ドイツ語I)」に続き、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、ドイツ語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。さまざまな練習を行うことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく身につけることを目指す。具体的には、ヨーロッパ言語共通枠A1後半レベルの文法と表現を扱い、自分の希望を表現する、過去の出来事を報告する、身近な話題について相手と簡単な会話をし、一定の長さの文章が書ける等を目標とする。また、ドイツ語圏の社会と文化についても引き続き理解を深める。	
	外国語(フランス語I)	この授業は、フランス語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得することを目指す入門授業である。文法の修得のみに終わらず、フランス語を実践的に活用することを大切にしたい。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、現代世界に生きるため国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語(フランス語II)	この授業は、外国語(フランス語I)においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得することを目指す基礎的授業である。文法の修得のみに終わらず、フランス語を実践的に活用できることを大切にしたい。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、現代世界に生きるための国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語(中国語I)	この授業は、中国語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する入門授業である。中国語の文法規則の修得と、その実践的活用による会話力の上達を目指して進められる。言語レベルとしては、学期末に中国政府公認の中国語検定試験である漢語水平考「HSK1級」に合格点を取れることを目標にする。また、この授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語(中国語II)	この授業は、外国語(中国語I)において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する基礎的授業である。中国語の文法規則の修得と、その実践的活用によって会話力のさらなる向上を目指して進められる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK2級」か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標にする。また、この授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語(ポルトガル語I)	この科目では、ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身につけることを目的とする。特にブラジルポルトガル語の発音に慣れ、基本的な挨拶表現と直説法現在形の習得を目指す。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣、そして在日ブラジル人に関する内容もあわせて取り扱う。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返し行うとともに、状況を設定して日常会話の練習を行う。	
	外国語(ポルトガル語II)	この科目では、「外国語(ポルトガル語I)」に引き続き、ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身につけることを目的とする。特にブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、応用表現と過去時制を用いた自己表現ができるようになることを目指す。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣、そして在日ブラジル人に関する内容もあわせて取り扱う。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返し行うとともに、状況を設定して日常会話の練習を行う。	
	外国語(スペイン語I)	この授業は、スペイン語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、スペイン語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。スペイン語の初級文法とその表現(主として現在形の動詞を用いた表現)を学びながら、スペイン語の発音ができ、簡単な会話ができるように練習していく。また練習問題を解くことによって、学んだ事柄を確認し、定着を図る。同時にスペインやラテンアメリカの文化、習慣、生活、世界遺産などについて触れ、興味を喚起し、スペイン語圏の国々の人々とのふれあいや旅を始める最初の一步を踏み出せるようにする。	
	外国語(スペイン語II)	この授業は、「外国語(スペイン語I)」に続き、スペイン語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、スペイン語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。引き続き初級文法とその表現(感覚・好み・身体的事柄・気候・過去の出来事などを表す表現)を学びながら、簡単な会話ができるように練習していく。また練習問題を解くことによって、学んだ事柄を確認し、定着を図る。同時にスペインやラテンアメリカの文化、習慣、生活、世界遺産などについて触れ、興味を喚起し、スペイン語圏の国々の人々とのふれあいや旅を始める最初の一步を踏み出せるようにする。	

教養教育科目

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
健康とスポーツ 領域 6	外国語 (ハングル I)	この科目では、①ハングルの読み書きができる、②文法の基礎をマスターする、③簡単な挨拶や会話ができる、の3点を目標とする。具体的には、韓国語の文字 (ハングル) を体系的に学び、発音の練習 (リスニングやスピーキング) を十分に行う。また、学習した基本的な表現を用いて簡単な文章を作る練習やドリル形式の練習を通じて学習したことの定着を図る。授業の予習・復習、さらには授業外での自習に役立つよう、辞書の使い方を学び、実践する。あわせて、韓国の文化、習慣を紹介し、それらに対する理解を深める。	
	外国語 (ハングル II)	この科目では、①文法の基礎をマスターする、②簡単な読解や会話ができる、③履修後に韓国語学習を継続する力を身に付ける、の3点を目標とする。その上で、韓国語の様々な語彙や文法を学んでコミュニケーションの幅を広げること、辞書を用いて簡単な短文および新聞・雑誌記事などの内容を把握できるようになることをめざす。韓国語の語彙や表現における日本語との異同にも着目し、円滑なコミュニケーションのための知識を養う。韓国の文化、習慣に対する理解をさらに深め、学習意欲をさらに増進することをめざす。	
	健康とスポーツの理論	健康の自己管理を学び、生活習慣病などを予防し、スポーツを通し人間として自立する術を身に付けることを到達目標とする。健康、病気・障害、運動・スポーツなどのテーマで学生生活の身近な問題から課題を見つけ、考え討論し学習する。 <オムニバス方式/全15回> (52 及川佐枝子/4回) はじめに健康の概念を学ぶ。飲酒・喫煙・薬物など嗜好品による健康影響について学び、正しい行動を考える。また地球温暖化なども含めた環境変化が及ぼす健康影響について学び、健康の維持と持続可能な社会の実現について考える。また生活習慣病や女性のやせなど、家族・社会の健康課題に焦点をあて解決法を考える。 (75 山田紀子/3回) 食事・生活習慣が及ぼす健康影響について学び、日々の食事の重要性を理解する。また運動から栄養と健康を考え、運動時に必要となる栄養素を知り、適切な食選択の方法を理解する。 (58 中嶋文子/1回) 女性の体の特徴について学び、妊娠出産に向けた若年時からの女性の体づくりを学ぶ。 (62 肥田佳美/1回) 社会資源のデジタル化について学び、自身の健康や食・運動習慣に無意識のうちに関心が持てるような活用方法を考える。 (51 生田美智子/1回) 運動の健康面での効果を学び、意識的に行う運動の重要性を知り自身の健康維持に必要な運動の実践を目指す。 (26 小林純子/1回) 身体を動かすことによってこころとからだに及ぼす効果を学ぶ。 (40 福田誠司/2回) 運動時に機能する体の箇所について学び、運動できる仕組みを理解する。また、運動中に起こり得る傷害の発生機序を理解し、発生予防の方法を考える。 (38 早川幸博/2回) 生活習慣病の発生機序について学ぶ。また運動時に起こる傷害に対する正しい救急処置の方法を学び、実践できるようになることを目指す。	オムニバス方式
	健康科学	この科目では、健康維持のための方法とそのメカニズムについて学習する。あわせて、生涯にわたる健康維持のための基礎的な知識を習得し、外敵を排除しそれを認識する免疫機構やワクチンの仕組みを学ぶ。具体的には、喫煙と健康、生活習慣病と正しいダイエット、免疫の歴史、概要・ワクチン接種、免疫成立の機序と複雑性、ウイルスの複製機序と新型コロナウイルス、免疫細胞の自己認識と排除等のテーマについて詳しく学習する。	
	スポーツ実習A	この科目では、スポーツを実践することによって健康的な生活を送る術を学習するとともに、体力を維持・向上させることを目的とする。加えて、生涯にわたって運動を行うことの重要性を学ぶ。また、実習でのグループワークを通して学生同士で助け合い、協力することにより、よりよい人間関係を構築し、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養する。具体的なスポーツ種目として、卓球、バドミントン、コーディネーション、バレーボール等があり、自身が興味を持った科目を選択する。なお、この科目はスポーツ実習Bの履修有無にかかわらず履修が可能である。	
	スポーツ実習B	この科目では、スポーツを実践することによって健康的な生活を送る術を学習するとともに、体力を維持・向上させることを目的とする。加えて、生涯にわたって運動を行うことの重要性を学ぶ。また、実習でのグループワークを通して学生同士で助け合い、協力することにより、よりよい人間関係を構築し、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養する。具体的なスポーツ種目として、卓球、バドミントン、コーディネーション、バレーボール等があり、自身が興味を持った科目を選択する。なお、この科目はスポーツ実習Aの履修有無にかかわらず履修が可能である。	

授 業 科 目 の 概 要 (外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
トータルライフデザイン 領域 7	ファーストイヤーゼミ	この科目では、初年次教育科目として、大学での学びの基本を学習する。具体的には、文献の読み方や要約の仕方、ノートテイキング、資料や文献の検索の仕方や図書館の利用法、アカデミックライティングの方法と注意事項、発表の仕方や発表資料の作り方、引用や参考文献の書き方と研究倫理、などのテーマについて学ぶ。あわせてパソコンを利用した文章やデータの作成方法の基礎についても学習する。演習科目のため、少人数形式で行い、学生同士でコミュニケーションを取りながら進める。	
	ジェンダー論入門	本講義では、ジェンダー概念を理解し、現代社会の抱える問題についてジェンダーの視点から考察することを通して、社会問題を解決するための思考と態度を身につけることを目的とする。そのために、ジェンダー概念を生み出し精錬してきたフェミニズムの思想と代表的な議論や論争などを取り上げ、個人の生き方と性が密接に関連していることを理解する。友人や恋人、家族、学校、職場、コミュニティや国家と、個としての私たちの関係を「ジェンダー」という視角から読み解く知識を獲得するとともに、ジェンダーに関連する時事問題への関心を高め、理解する力を身につける。	
	生活と防災	<p>生命の危機に瀕する災害事態においてこそ、安全確保や生活支援を通して「他者との共生」を実現できる人材を育成するため、地震や豪雨などの自然災害のリスクを理解し、防災の多方面にわたる実践的知識を修得することを目標とする。そのために、本学内外の多彩な講師から、南海トラフ地震など想定される自然災害に対する最新の科学的な知識を修得するとともに、演習や実習など実践的な講習を通して、災害時に的確な判断と適切な行動ができる能力・スキルを高めることで、地域防災に貢献できる知識・技能を身につける。(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(139 福和伸夫/1回) ホンネとホンキで大規模災害を凌ぐ (34 栢窪優二/1回) 災害と報道～東日本大震災を映像で語り継ぐ～ (119 坪木和久/1回) 地球温暖化と気象災害 (83 浦野愛/1回) 災害&防災、私たちにできることを考えよう (58 中嶋文子/1回) 災害時における女性の安全・安心学 (46 山根一郎/3回) 公助と防災情報の活用：ハザードマップ、気象情報の読み方 愛知県の防災対策について 災害時の心理、行動：正しく恐がるために (72 清水秀丸/1回) 建築の耐震安全性 (48 李敏子/1回) 被災者の心のケア (50 阿部順子/1回) 住宅と安全 (137 平山修久/1回) 都市インフラと災害情報のあり方について (86 岡田公夫/1回) 地震に対する自助と共助 (53 門屋亨介/1回) 大規模災害時の食の備えと安全 (57 寺西美佐絵/1回) 災害時の医療：知っておきたい基本的な災害時医療の知識</p>	オムニバス方式
	思考のスキル入門	かつてパスカルは「人間は考える葦である」と言った。しかし、情報化と複雑化が加速度的に進む現代社会において、私たちはますます「考える」ことを失っているのではないか。では、考えることができるようになるためには何が必要なのだろう。本授業では、社会で実際に起こっている出来事(事例)にも目を向けながら、物事を批判的に思考し、自身の考えや意見を練り上げ、それを論理的に説明するスキルを身に付けるとともに、他者の立場に身を置いて物事を公平に捉えるエンパシーの能力をも涵養するためのトレーニングを行う。	
	AI・データと社会	<p>社会においてデータサイエンスやAIが普及する中で、AIやデータサイエンスに関する基礎知識を身に付けることを目標とする。まず、社会で活用されているデータの形式について学んだうえで、データ・AIの活用領域や活用のための技術を学ぶ。また、データ・AIが活用されている事例について学ぶとともに、その最新動向を知る。後半の授業ではデータの基本的な読み方を学ぶとともに、データ・AIを扱う上での留意事項やデータ・AIを守る上での留意事項を学ぶ。また、データ構造やアルゴリズム、プログラミングの基礎についても学修する。そのうえで、データ・AIに関する応用的な技術や活用実践を学ぶ。(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(54 木田勇輔/1回) 人間の知的活動とAIの関係性について幅広く学び、AI・データサイエンスを学ぶ意義を考える。 (73 福安真奈/2回) 調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなどのデータ形式を学ぶ。データ・AIの活用領域 導入データ・AI など様々な領域での活用の広がり(生産、消費、文化活動など)を紹介する。 (65 向直人/2回) データ解析(予測、グルーピング、パターン発見、最適化など)やデータ可視化の諸手法について学ぶ。 データサイエンスの手順について学び、データ・AI 利活用事例を少数ピックアップして学ぶ。 (66 矢島彩子/2回) (71 塩澤友樹/2回) AI等を活用した新しいビジネスモデルやAI 最新技術の活用例を紹介し、近年のトレンドを知る。 データの種類、分布、代表値とばらつきなど、記述統計学の基礎知識を学ぶ。 標本抽出、誤差、相関と因果など、推測統計学の基本的な考え方を学ぶ。 (63 松山智恵子/2回) ELSI、個人情報保護、データ倫理、アルゴリズムバイアスなど、倫理的な注意事項について学ぶ。 情報セキュリティ、匿名加工などの諸技術を知り、事故例から注意すべき点を学ぶ。 (35 鳥居隆司/2回) データの基本的な構造(数と表現など)について学び、プログラミングの基礎(変数など)を知る。 アルゴリズムの表現方法(フローチャート)を学び、ソートやサーチなどの基本的なアルゴリズムを知る。 (61 早瀬光浩/2回) 画像データの処理、画像認識、画像分類、物体検出など画像解析の基礎を学ぶ。 教師なし学習、教師あり学習について知り、いずれか(もしくは両方)の事例を学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ワークキャリアデザイン	<p>本学の目指すトータルライフデザイン教育の視点を踏まえ、大学生である現時点での自身の将来に関する考えや視点と、卒業後のキャリアに向けての働くことへのイメージや価値を検討する。多彩なライフイベントとキャリア移行などと向き合い、生涯にわたって、自分らしく生きていくことを可能とする素地を涵養するため、十分な自己理解とワークライフバランスをはじめキャリアを理解する多様な視点を学習することを通じて、自身のキャリアデザインを構築するための知識と視点の獲得を目指す。</p>	
	ビジネススキル入門	<p>社会で求められる「コミュニケーション力」の基礎となる「伝える力」を身に付け、論理的でわかりやすい文章を書く「ロジカルライティング」、自分の意図を明確に伝える「プレゼンテーション」の能力向上を目指す。また、情報収集力、論理的思考力、分析能力、傾聴力、話す力の向上のために「ディベート」を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(47 吉田あけみ/1回)</p> <p>人は他者と関わり共同して暮らしているが、時にコミュニケーション障害が発生し、仕事上のトラブルや感情の行き違いが起こる。コミュニケーションの阻害要因を確認し、より良いコミュニケーションをとることの大切さを理解する。 (81 稲葉直子/7回)</p> <p>毎回「聞く・話す・書く」のコミュニケーションワークを実施し、「判断する力・伝える力」を身に付ける。「ロジカルライティング」では、伝わりやすさ・分かりやすさを重視したライティング手法を学び、「根拠のある主張」を論理的な文章で書く力を養う。その後、学んだ手法を用いて、プレゼンテーション資料を作成し、説得的な「プレゼンテーション」を実践する。また発表後、学生が相互評価することで、自己成長を確認する。 (133 長谷部浩一/7回)</p> <p>「ディベート」を行う。論題についてリンクマップを作成し、論理的に物事を検討する視野を養う。資料を集め、読み解き、分析して、多角的に検討して「立論」を作成する。反駁シートも準備して、試合に臨む。相手の主張を傾聴し、反駁した上で、自分たちの主張を論理的に展開する。チームで準備して、試合に臨むことによって、チームワークの大切さも学ぶ。</p>	オムニバス方式
	キャリア形成実習Ⅰ	<p>企業や自治体等で、将来のキャリアに関連した就業を実際に体験する科目である。大学が定めた要件を満たす場合に単位認定する。まずは学内で事前指導を受け、実習の心構えや目標を学んだのちに、職場での就業体験を行う。日々の振り返りとして日報を作成し、企業担当者によるフィードバックを受ける。事後指導での振り返りや報告書の作成、報告会での成果発表によって、自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択や高い職業意識の形成に繋げる。</p>	
	キャリア形成実習Ⅱ	<p>「キャリア形成実習Ⅰ」に引き続き、企業や自治体等で、将来のキャリアに関連した就業を実際に体験する科目である。大学が定めた要件を満たす場合に単位認定する。まずは学内で事前指導を受け、実習の心構えや目標を学んだのちに、職場での就業体験を行う。日々の振り返りとして日報を作成し、企業担当者によるフィードバックを受ける。事後指導での振り返りや報告書の作成、報告会での成果発表によって、自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択や高い職業意識の形成に繋げる。</p>	
学部 基幹 科目	地球市民論	<p>この授業は外国語学部に入学したすべての学生が、今後4年間の一歩の学びの前提となる思考的枠組みを獲得するため授業である。現代世界に生きる私たちはなぜ外国語を学ぶ必要があるのか、この根本的な問いに立ち戻って、「地球市民」として生きるための足掛かりをつかみたい。日本語を母語とする受講者であれば、日本語のみで世界を了解し生活を営み続けることは、豊かな世界文化の把握としては不十分ではないのか、さらにはそこに倫理的な問題さえ提起されてしまうのではないのか。この授業は国や言語の境界を越えて生き思考する「地球市民」になるための第一歩である。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 水島和則/3回)</p> <p>国のメンバーシップのような近代社会の基本的枠組が現在どのように揺らいでいるのかを明らかにし、異なる背景(国籍、人種、宗教、階級、性別、性的指向性、障害など)をもつ人々が互いに意識疎通し協働するためのDE&I(Diversity, Equity & Inclusion)の取り組みについて考察する。 (22 加藤泰史/3回)</p> <p>近代的「国家」はその推進力として「国民」を必要とした。この「国民国家」形成の過程で「パトリオティズム」と「ナショナリズム」との政治的相剋が生じると同時に、そこには「国語」形成の問題も複雑に絡む。これらの問題を通して「世界市民主義」の可能性を、ライプニッツ・カント・フビデに即して考察してみたい。 (6 長澤唯史/3回)</p> <p>『ウルトラマン』シリーズ中の名作「故郷は地球」を書いた脚本家の佐々木守は、日本の先住民や沖縄、アイヌ問題等を大衆向けドラマに織り込んでいた。その佐々木が共作した大島浩、そしてその二人の同時代人である三島由紀夫を並べ、国民国家を超えた地球市民のあり方について考えてみる。 (4 芝垣亮介/3回)</p> <p>言語という全ての人間(地球市民)が共有している産物を分析することで、人間とは何ものであるかというテーマに迫る。そこでは、言語というものが、「全ての言語に共通の部分」と「各言語に固有の部分」の様態を観察し分析する。 (68 尹正彦/3回)</p> <p>日本文学は、日本人が日本語で書いたものと思われがちだが、日本語を用いた文学活動の範囲はそれをはるかに超える。20世紀における日系アメリカ人の文学や、植民地の日本語文学を概説しながら、日本語とグローバル社会との接触を考察したい。</p>	オムニバス方式
	Communicative English I A	<p>This course aims to develop students' understanding and use of English grammar through weekly listening, speaking, and writing activities. During this course, fundamental elements of English grammar will be covered, followed by a gradual introduction of more advanced grammar structures. The grammar covered in this course will help students to successfully participate in other Communicative English courses. It will also help prepare students for various standardized English tests such as TOEIC, TOEFL, and IELTS. (和訳)</p> <p>本講義は、リスニング、スピーキング、ライティングのアクティビティを通し、英語の文法の理解と使用方法を伸ばすことを目的とする。本講義の中で、基礎的な英語の文法事項は網羅され、同時に、より難易度の高い文法構造を徐々に導入していくものである。本講義でカバーされる文法事項を学ぶことで、学生は、他の曜日のコミュニカティブ・イングリッシュの講義(コミュニカティブ・イングリッシュは週5回異なる内容で開講)の講義内容に問題なく対応できるようになる。本講義は、TOEIC、TOEFL、IELTSといった標準的な英語の資格試験への準備としても機能するものである。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語リテラシー科目 A	Communicative English I B	<p>This writing course introduces the writing process, paragraph writing, peer editing, revision and different ways to improve writing speed and fluency. Peer editing includes gaining the communication skills and language necessary to discuss improvements for focusing on structure, unity, in writing. By the end of the course, students should have built confidence in their ability to communicate their ideas clearly in English writing.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義は英語のライティングに焦点を当てた講義である。具体的には、文の構成、段落の書き方、学生同士による相互編集（ピア・エディティング）や校正の仕方を学び、そして英作文の速度を上げ流暢さを向上させることを目的とする。学生同士による相互編集とは、コミュニケーションの技術や、英作文における全体的な構成や段落のまとまりについて議論するのに必要な言語を習得するといった要素を含むものである。本講義を通して、学生は英作文において自分の考えを明確に伝えることができるという自信を構築する。</p>	
	Communicative English I C	<p>This course aims to develop students' reading skills. Students will focus on building skills to develop reading comprehension, reading speed and vocabulary. In addition, students will be required to do extensive reading inside and outside of class. Over the semester, students will be introduced to various reading skills to help them develop their academic and test-taking proficiency skills while also aiming to create an affinity for reading for pleasure in English. In addition to developing their reading skills, students will also study vocabulary sourced from the New General Service List. Although predominantly focused on reading, students will be expected to share their ideas and discuss books and various short texts. This course combines teacher-led discussion with a learner-centred discovery approach.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義は英語のリーディングに焦点を当てた講義である。具体的には、学生は、英文の理解、読解速度、語彙の構築といった点における進歩を目指すものである。この目標を達成するために、学生は授業内に限らず、課題として、学外でもリーディングを行うことが求められる。本講義を通して、学生は学術的なリーディングやTOEIC、TOEFL、IELTSといった各種資格試験のリーディングに適応できる様々な技術に触れることになる。語彙については、New General Service Listの語彙を中心に習得する。本講義は、教員が牽引するディスカッションと学生中心の発見や探求を融合するスタイルを目指す。</p>	
	Communicative English I D	<p>This student-centered class will assist students to develop study skills, learner independence, collaborative learning, time management, critical thinking, and reflective practices. These skills will also be useful for other university classes. Students will attempt to apply study skills by focusing on features of vocabulary and studying for depth using high-frequency words from the New General Service List. By engaging in activities both individually and small groups, students will learn when it is more effective to work individually, and when to collaborate on projects. Reflective practices and discussion will help students become aware of individual learning strengths and weaknesses. Students will choose topics for reflection from a variety of themes such as time management, learning outcomes, and level of participation. Students will also use Microsoft Teams extensively through this course and other collaborative applications. The final project is a reflective multi-media digital time capsule of their first semester in university.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義は、英語の学習における学習者の自律、協同学習、クリティカル・シンキングといった要素を開発・発展させることを目的とする。内容としては、英語の言語としての学習という枠組みを超え、英語を用いて様々なアカデミックスキルを学習することを目的とする。具体的には、各授業の中では、学生は個人および少人数グループにおけるアクティビティを通じ、いつ個人で取り組み、いつグループのプロジェクトとして取り組むとより効率的かを理解する。本講義を通して、学生はタイムマネジメント、学習成果、授業参加度といった項目において能力を向上させる。学生は、学外でもICTを活用して協同学習を行い、マルチメディアを使いこなせる人材となることを目指す。</p>	
	Communicative English I E	<p>In this course, students will develop their speaking skills in both discussions and presentations. Students will do three mini projects: one on family, one on amazing women, and another on food. Each project involves research, critical thinking, a lot of discussion in class, and presentations. Students present and summarize their research in front of a small groups. Students also learn note-taking skills for presentations such as identifying keywords and creating and improving visual aids for presentations.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義では、学生がディスカッションとプレゼンテーションにおける英語のスピーキングの能力を向上させることを目的とする。トピックは家族、女性、食という3つのテーマであり、学生は各々についてプロジェクトをたてる。各プロジェクトは研究、批判的思考を経て成り立ち、ディスカッションとプレゼンテーションを通して遂行する。学生はプレゼンテーションを聴く際に英語でのノートテイキングを行う。ここでは、ノートテイキングのスキルとして、キーワードを英語で瞬時に同定する能力、図や表などをつくりビジュアル化する能力を向上させる。</p>	
	Communicative English II A	<p>This course aims to develop students' understanding and use of English grammar through weekly listening, speaking, and writing activities. During this course, fundamental elements of English grammar will be covered, followed by a gradual introduction of more advanced grammar structures. The grammar covered in this course will help students to successfully participate in other Communicative English courses. It will also help prepare students for various standardized English tests such as TOEIC, TOEFL, and IELTS.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義では、前期に開講されるコミュニケーション・イングリッシュIAに積み上げる形で、英語の文法の理解を深める。ここでは、リスニング、スピーキング、ライティングに関するアクティビティを通して基本的な文法の知識を学習するとともに、より発展的な文法事項にも触れる。本講義の文法事項を学習することにより、学生は他のコミュニケーション・イングリッシュコースで学習するスキルの土台を築く。また、本講義で取り扱う内容は各種資格試験の準備としても機能する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Communicative English II B	This writing course reviews and builds on the previous semesters introduction the writing process, paragraph writing, peer editing, revision and different ways to improve writing speed and fluency. Students will discuss their ideas and think critically about their readers while creating several different ways of organizing paragraphs. By the end of the course, students should have increased their confidence in their ability to communicate their ideas clearly geared towards a specific audience in English. (和訳) 本講義では、前期に開講されるコミュニカティブ・イングリッシュIBに積み上げる形で、英作文のスキルを向上させる。具体的には、学生は、前期で学んだ文の構築法、段落の書き方、学生同士の相互編集、校正といったスキルを復習し、より確度の高いスキルへと昇華させる。このためには、学生は自分のアイデアについて議論し、より批判的に思考することが求められる。本講義を通して、学生はライティングのスキルに対する自信を深め、読手に対して自分の考えを明確に伝えることができるようになる。	
	Communicative English II C	This course aims to develop students' reading skills further. Students will focus on building skills to develop reading comprehension, reading speed and vocabulary. In addition, students will be required to do extensive reading inside and outside of class. Over the semester, students will be introduced to various reading skills while developing those learned in the first semester to help them develop their academic and test-taking proficiency skills while also aiming to create an affinity for reading for pleasure in English. In addition to developing their reading skills, students will further study vocabulary sourced from the New General Service List. Although predominantly focused on reading, students will be expected to share their ideas and discuss books and various short texts. This course combines teacher-led discussion with a learner-centred discovery approach based on slightly more advanced content than the first semester. (和訳) 本講義では、前期に開講されるコミュニカティブ・イングリッシュICに積み上げる形で、英語のリーディングのスキルを向上させる。具体的には、学生は、読解力を磨き、読解速度を上げ、より難易度の高い語彙の習得を目指す。学生は、より高度な学術的文献を読むことが求められ、TOEIC等の各種資格試験のリーディング問題に対する適応能力も向上させる。語彙の構築は、前期に続き、New General Service Listを利用して行う。本講義は英語のリーディングに焦点を当てた講義だが、読んだ文献に対する自分の意見を共有し、議論するべく、話すことそして書くことも適宜求められる。	
	Communicative English II D	In this project based CLIL class, students are responsible for the production of a short film. Working collaboratively, students will write an original screenplay, storyboard, direct, film, and edit the project. Using what they have learnt in Learner Training, students will individually and as a team, use the critical thinking strategies of analysis, evaluation, problem solving, and decision-making to successfully complete the film. Students will learn proper production techniques and application of technology for digital media projects. To support their performance, students will also learn pronunciation and voice control, breathing techniques, gestures, non-verbal communication, facial expressions, posture, and drama techniques to become better actors and communicators. At the end of the course, students will have a performance test, called The Monologue, to bring together everything they have learnt during the semester into a multi-media digital project that will be distributed throughout the faculty. (和訳) 本講義は、前期に開講されるコミュニカティブ・イングリッシュIDに積み上げる形で、CLIL(Content Language Integrated Learning:内容言語統合型学習)として、プロジェクトベースで進行するものである。具体的には、学生は短時間の動画を制作する。そのために、学生は、協同作業を行いながら、独自のシナリオを制作、動画を収録、そしてその編集までを全て英語で行う。この作業の過程で、学生は、個人そしてグループにおいて、批判的思考、評価、問題解決、意思決定といった事項を英語で行うことになる。講義の最後に、学生は「The Monologue」と呼ばれる、各自がマルチメディアの活用に英語で挑戦し学んだ全てのことを語る場が設けられており、そこで評価を受ける。	
	Communicative English II E	In this course, students will develop their speaking skills in both discussions and presentations. Students will do two mini projects: one on movies and another on countries. Each project involves research, critical thinking, a lot of discussion in class, and presentations. Students present and summarize their research in front of a small groups. Students also learn note-taking skills for presentations such as identifying keywords and creating and improving visual aids for presentations. (和訳) 本講義では、前期に開講されるコミュニカティブ・イングリッシュIEに積み上げる形で、英語のディスカッションとプレゼンテーションにおけるスピーキングのスキルを向上させることを目的とする。学生は、「映画」と「世界の国々」という2つのテーマについてプロジェクトをたてる。各プロジェクトは、調査、批判的思考といった要素を含む。学生はプレゼンテーションを行うだけでなく、同時にノートテイキングのスキルも身につける。これは、他者のプレゼンテーションのキーワードを瞬時に英語で書き留め、場合によっては図や表といったビジュアル化されたものをつくり、理解と記録を行うものである。	
	ドイツ語 I A	この授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIAはとくにドイツ語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIBの授業と連動して進められる。IAとIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	ドイツ語 I B	この授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIBは、IAの授業で修得したドイツ語の文法知識を身につけるために、読解・発話・作文などドイツ語の実践的活用に重点を置く。IAとIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	ドイツ語 I C	この授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このICは対話テキスト中心の教科書を使用し、ドイツ語の会話を上達させることに重点を置く。IAとIBの授業を踏まえて、実践力をいっそう高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語リテラシー科目B	学部共通基礎	ドイツ語 II A	この授業は、ドイツ語I (A・B・C) においてドイツ語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIAはとくにドイツ語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIIBの授業と連動して進められる。IIAとIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
		ドイツ語 II B	この授業は、ドイツ語I (A・B・C) においてドイツ語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIBはIIAの授業で修得したドイツ語の文法知識を一層身につけるために、読解・発話・作文などドイツ語の実践的活用に重点を置く。IIAとIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
		ドイツ語 II C	この授業は、ドイツ語I (A・B・C) においてドイツ語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIICは対話中心の教科書を使用し、ドイツ語の会話力を向上させることに重点を置く。IIAとIIBの授業を踏まえて、実践力をさらに高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
		フランス語 I A	この授業は、フランス語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIAはとくにフランス語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIBの授業と連動して進められる。IAとIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
		フランス語 I B	この授業は、フランス語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIBは、IAの授業で修得したフランス語の文法知識を身につけるために、読解・発話・作文などフランス語の実践的活用に重点を置く。IAとIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
		フランス語 I C	この授業は、フランス語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このICは対話テキスト中心の教科書を使用し、フランス語の会話力を向上させることに重点を置く。IAとIBの授業を踏まえて、実践力をいっそう高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
		フランス語 II A	この授業は、フランス語I (A・B・C) においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIAはとくにフランス語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIIBの授業と連動して進められる。IIAとIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
		フランス語 II B	この授業は、フランス語I (A・B・C) においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIBはIIAの授業で修得したフランス語の文法知識を一層身につけるために、読解・発話・作文などフランス語の実践的活用に重点を置く。IIAとIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
		フランス語 II C	この授業は、フランス語I (A・B・C) においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIICは対話中心の教科書を使用し、フランス語の会話力を向上させることに重点を置く。IIAとIIBの授業を踏まえて、実践力をさらに高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
		中国語 I A	この授業は、中国語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIAはとくに中国語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIB・会話力を向上させるICの授業と連動して進められる。言語レベルとしては、学期末に中国政府公認の中国語検定試験である漢語水平考試「HSK」1級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。
中国語 I B	この授業は、中国語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIBは、IAの授業で修得した中国語の文法知識を身につけるために、読解・発話・作文など中国語の実践的活用に重点を置く。言語レベルとしては、学期末に中国政府公認の中国語検定試験である漢語水平考試「HSK」1級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中国語 I C	この授業は、中国語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このICは対話テキストを中心の教科書を使用し、中国語の会話力を上達させることに重点を置く。IAとIBの授業を踏まえて、実践力をいっそう高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に中国政府公認の中国語検定試験である漢語水平考試「HSK」1級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 II A	この授業は、中国語 I (A・B・C) において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIAはとくに中国語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置く。IIB・会話力を上達させるIICの授業と連動して進められる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考試「HSK」2級か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 II B	この授業は、中国語 I (A・B・C) において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIBはIIAの授業で修得した中国語の文法知識を一層身につけるために、読解・発話・作文など中国語の実践的活用に重点を置く。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考試「HSK」2級か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 II C	この授業は、中国語 I (A・B・C) において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIICは対話中心の教科書を使用し、中国語の会話力を上達させることに重点を置く。IIAとIIBの授業を踏まえて、実践力をさらに高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考試「HSK」2級か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	TOEIC 500 I	TOEIC400点以下に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 500 II	TOEIC400点以下に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 600 I	TOEIC400～550点に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 600 II	TOEIC400～550点に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 700 I	TOEIC550～650点に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 700 II	TOEIC550～650点に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 800+	TOEIC650～800点未満に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通 科目	言語 リテ ラシー 科目 C	IELTS I (和訳) 本コースでは、IELTSテストで用いられるスキルやテクニックを理解し、テスト攻略法や各セクションの例題を演習することで、さらに実力を伸ばすことを目的とする。学期中には、各セクションの模擬試験を実施し、さらにスピーキングとライティングのセクションに重点を置いて学習する。授業は「インプット」と「実践」に分かれ、最初の60分はテストの知識と試験テクニックに焦点を当て、最後の30分は過去の試験問題の演習に充てる。	
		IELTS II (和訳) 本コースでは、IELTSテストで用いられるスキルやテクニックをさらに向上させるため、テスト攻略法や各テストセクションの例題を使った演習を行う。この学期を通して、より高度な語彙やその他の内容を学習し、より高いスコアを獲得することを目指す。また、スピーキングとライティングに重点を置きながら、各セクションの模擬試験を受け、さらに経験を積みます。授業は「インプット」と「実践」に分かれ、最初の60分はテストの知識と試験テクニックに焦点を当て、最後の30分は過去の試験問題の演習に充てられる。	
		TOEFL iBT I (和訳) 本コースでは、TOEFLテストの成績を向上させることを目的としている。それが主たる目標ですが、コースの全体的な内容は、生徒の英語の話し言葉と書き言葉の総合的なコミュニケーション能力を継続して向上させるものである。学生は、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4つのセクションのパフォーマンスを向上させるためのタスクを通じて、TOEFLテストの基本構造を学ぶ。また、TOEFLテストの構成に沿った時間制限のあるアクティビティを繰り返し行い、クラス内外で数回の模擬試験を実施する。各レッスンでは、アクティビティや模擬テストの解答について話し合うための質疑応答の時間を設けます。このクラスの構成は TOEFL iBT II と同様だが、アクティビティや課題の内容は異なる。	
		TOEFL iBT II (和訳) 本コースでは、TOEFLテストの結果を向上させたいと考えている学生のためのコースです。これが第一の目標ですが、コースの全体的な内容は、生徒の英語の話し言葉と書き言葉の総合的なコミュニケーション能力を向上させることに変わらない。学生は、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4つのセクションすべてのパフォーマンスを向上させるためのタスクを通じて、TOEFL iBTテストの基本構造を学ぶ。また、TOEFLテストの構成に沿った時間制限のあるアクティビティを頻繁に行い、クラス内外で数回の模擬試験を実施する。各レッスンでは、アクティビティや模擬試験の解答について話し合う質疑応答を行う。このクラスの構成は TOEFL iBT I と同様だが、アクティビティや課題の内容は異なる。	
		資格ドイツ語 I 本学部では、ドイツ語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格ドイツ語 I の授業では、能力レベルの上限をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA 1に設定し、目指す外部試験に合わせて具体的に準備を行う。具体的には、学習者の総学習時間に相応しいドイツ語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にドイツ語の総合的能力を養成する。この試験は筆記問題と聞き取り問題から成るが、すべて選択式で解答する試験形態をとっており、授業では、適語補充や文構成、正誤判定など数多くの練習問題を利用して訓練する。	
		資格ドイツ語 II 本学部では、ドイツ語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格ドイツ語IIの授業では、能力レベルの上限をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA 2に設定し、目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、ドイツ語技能検定試験3級試験から登場するやや複雑な文法についての訓練を重視する。受検が望ましい試験及びその水準は、1) ドイツ語技能検定試験の3級、2) オーストリア政府が公認したドイツ語資格試験であるÖSDあるいはGoethe ZertifikatのA 2である。	
		資格ドイツ語 III 本学部では、ドイツ語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格ドイツ語IIIの授業では、能力レベルの上限をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のB 1に設定し、目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、個人で学習するのが難しい口頭試験の訓練を重視する。受検が望ましい試験及びその水準は、1) ドイツ語技能検定試験の2級、2) オーストリア政府が公認したドイツ語資格試験であるÖSDあるいはGoethe ZertifikatのB 1である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	資格フランス語 I	本学部では、フランス語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格フランス語 I の授業では、能力レベルの上限をCEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) の A1 に設定し、目指す外部試験に合わせて具体的に準備を行う。具体的には、学習者の総学習時間に相応しい実用フランス語技能検定試験 4 級に合格点を取れることを目標にフランス語の総合的能力を養成する。この試験は筆記問題と聞き取り問題から成るが、すべて選択式で解答する試験形態をとっており、授業では、適語補充や文構成、正誤判定など数多くの練習問題を利用して訓練する。	
	資格フランス語 II	本学部では、フランス語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格フランス語 II の授業では、能力レベルの上限をCEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) の A2 に設定し、具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、仏検 3 級試験から登場するやや複雑な時制や語法についての訓練を重視する。受験が望ましい試験及びその水準は、1) 実用フランス語技能検定試験の 3 級か準 2 級、2) フランス国民教育省が公認したフランス語資格試験である DELF あるいは TCF (英語の TOEIC に相当する試験) の A2 である。	
	資格フランス語 III	本学部では、フランス語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格フランス語 III の授業では、能力レベルの上限をCEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) の B1 に設定し、具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、個人で学習するのが難しい口頭試験の訓練を重視する。受験が望ましい試験及びその水準は、1) 実用フランス語技能検定試験の準 2 級か 2 級、2) フランス国民教育省が公認したフランス語資格試験である DELF あるいは TCF (英語の TOEIC に相当する試験) の B1 である。	
	資格中国語 I	本学部では、中国語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格中国語 I の授業では、能力レベルの上限を漢語水平考試「HSK」2 級や中国語検定試験「中検」準 4 級に設定し、目指す外部試験に合わせて具体的に準備を行う。具体的には、学習者の総学習時間に相応しい漢語水平考試「HSK」2 級か、中国語検定試験「中検」準 4 級に合格点を取れることを目標に中国語の総合的能力を養成する。この試験は筆記問題と聞き取り問題から成るが、すべて選択式で解答する試験形態をとっており、授業では、適語補充や文構成、正誤判定など数多くの練習問題を利用して訓練する。	
	資格中国語 II	本学部では、中国語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格中国語 II の授業では、能力レベルの上限を漢語水平考試「HSK」3 級や中国語検定試験「中検」4 級に設定し、具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、漢語水平考試「HSK」3 級や中国語検定試験「中検」4 級試験から登場するやや複雑な時制や語法についての訓練を重視する。受験が望ましい試験及びその水準は、「HSK」3 級や「中検」4 級である。	
	資格中国語 III	本学部では、中国語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格中国語 III の授業では、能力レベルの上限を漢語水平考試「HSK」4 級や中国語検定試験「中検」3 級に設定し、具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、個人で学習するのが難しい口頭試験の訓練を重視する。受験が望ましい試験及びその水準は、「HSK」4 級や「中検」3 級である。	
	日本語 I	本講義は日本語 (JSL: Japanese Sign Language) という言語の概要の説明とその語学の授業の 2 部構成からなる。前半と後半の内容は、次のとおりである。 (オムニバス方式/全 15 回) (135 原大介/2 回) 日本語とはどのような言語なのであるかということについてその歴史、現在の日本国内での位置付け、人工内耳との関係性を説明し、日本語が日本語対応手話とどう異なるのか、なぜ日本語は自然言語と認定できるのかについて説明する。 (146 松浦佳代/13 回) 日本語のネイティブスピーカーによる日本語の語学の講義を行う。これはいわゆるナチュラルアプローチという手法による授業であり、日本語に関する知識が全くない状態から日本語を日本語で教えるというものである。	オムニバス方式
	日本語 II	本講義は日本語 (JSL: Japanese Sign Language) という言語の概要の説明とその語学の授業の 2 部構成からなる。前半と後半の内容は、次のとおりである。 (オムニバス方式/全 15 回) (135 原大介/2 回) 日本語とはどのような言語なのであるかということについて現在の日本でのろう者の教育背景、世界の手話との関係性から説明し日本語は自然言語としての性質を説明する。また世界の手話言語とこのことに関連し、国際手話が IS (International Sign) であり、ISL (International Sign Language) ではないことについても言及する。 (146 松浦佳代/13 回) 日本語のネイティブスピーカーによる日本語の語学の講義を行う。これはいわゆるナチュラルアプローチという手法による授業であり、日本語に関する知識が全くない状態から日本語を日本語で教えるというものである。	オムニバス方式
言語アカデミック実践演習科目	言語アカデミック実践演習 A	この授業は、学部共通の「言語リテラシー科目」(A、B、C) において段階的に向上させてきた複数言語能力 (英語に加え、ドイツ語あるいはフランス語あるいは中国語) を専門領域における研究に統合して、外国語による研究や調査を実践するための第 1 段階の演習授業である。一次資料や研究論文の収集と検討、またそれらを踏まえての、外国語をも利用した文書や口頭での発表と議論、などが中心となる。とりわけ、現代の人文科学研究において、インターネットを介した外国語の資料検索とそのようにして入手した資料の適切な利用の技法の修得は不可欠であり、この授業ではこうした点での実践的指導も重視する。	
	言語アカデミック実践演習 B	この授業は、「言語アカデミック実践演習 I」を履修した学生を対象に、外国語を介した研究能力をいっそう発展させることを目的としている。一次資料や研究論文の収集と検討、またそれらを踏まえての、外国語をも利用した文書や口頭での発表と議論、などが中心となる。とりわけ、現代の人文科学研究において、インターネットを介した外国語の資料検索とそのようにして入手した資料の適切な利用の技法の修得は不可欠であり、この授業ではこうした点での実践的指導も重視する。次年度、外国語学部の最終年次において本格化する卒業論文作成のために必須の前提授業として位置付けられる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバルスタディーズ科目	グローバル化論	現代をグローバル化の時代と捉えようとして、国民国家や国民経済といった近代社会の前提となる枠組と、カネ・ヒト・モノの移動との矛盾から生まれた諸問題について考察する。国籍とシティズンシップ、国境管理、普遍的な人権と国家主権、(不法)移民の排斥、難民とディアスポラ、ポピュリズムと人種主義、多文化主義のジレンマ、移民国家日本の課題、といったテーマを取り上げ、とりわけ2つの世界大戦以降の世界が人種差別にどのように取り組んできたのかに焦点をあてる。	
	グローバル・エシックス	この講義では、まず規範倫理学の基本的な三類型(得倫理学・功利主義・義務論)を紹介した上で、応用倫理学としてのグローバル・エシックスとは何かをまずは「地球規模の問題に回答できる倫理学の構築」と位置づけて、グローバル化の急激な進展などに伴って生じた問題を明らかにするとともに、SDGsなどに含意されている人間の尊厳の尊重という倫理規範をカントの世界市民法思想にまで遡って検討する。こうした検討を通してグローバル化の問題点を理解することを目指す。	
	グローバル・ヒストリー	この授業は、21世紀の地球市民にふさわしい歴史認識をもつために、基礎的な知識と思考態度を共有することを目的としている。「日本史」「フランス史」といったナショナル・ヒストリーの通念はもちろんだが、通常「世界史」と呼ばれる構造も再検討されることになる。地球規模での世界が一体化した近現代世界は、その中心に西欧が位置し、非西欧世界の各地はそれをめぐる衛星と化し、一国民史であれ世界史であれ、そうした中心と衛星というシステムを基盤として構築されてきたと考えられる。この授業は何よりもこのシステムを相対化する作業を通して、現代世界の多様な問題を総合的に意識し、今後の世界を構想する方向を考えたい。	
コミュニケーションスタディーズ科目	異文化コミュニケーション論	本講義の目的は、異なる文化背景を持つ者同士のコミュニケーションにおいて、相互理解がいかに困難なことであるかを知り、その原因となる文化のちがいが人間のコミュニケーション行動におよぼす力の大きさを知ることにある。また、「文化」と「コミュニケーション」の関係を知ることにより、異文化間における人間関係のあり方やその形成のしかた、そしてそれを発展させるための知識を獲得する。具体的には、まず、「異文化コミュニケーション」を理解するための枠組として「文化」と「コミュニケーション」について理解を深める。次に、人間のコミュニケーション行動に現れる文化の影響を G. ホフステダーの「文化可変性の指標(個人主義的文化-集団主義的文化/不確実性回避文化/権力格差文化/男らしい文化-女らしい文化/長期志向-短期志向)」を用いて理解する。また、文化によるコミュニケーション・スタイルのちがいを、E. T. ホールの「高/低コンテクスト・コミュニケーション・スタイル」を紹介する。	
	言語の機能	本講義では言語がどのように機能しているかについて言語学全般に及ぶ観点から説明する。具体的には言語学の中でも、統語論、意味論、音韻論、語用論、言語習得論、社会言語学の観点から言葉の機能を説明する。各講義の中では、なぜ上記のような区分が必要になるのかを説明し、講義担当者がその概要を説明するだけでなく、各学生が自分の使用する言語が実際にどのように機能しているのかを分析する。言葉の成り立ちや機能をミクロな視点(理論言語学)とマクロな視点(応用言語学)から具体的に観察し分析することにより、我々の言葉の多面的な性質を理解することができる。	
	記号とコミュニケーション	「ことば」の研究と「文化」の研究を橋渡しする学問である記号学、記号論の基礎を理解し、その考え方をもちに文化とコミュニケーションとを学問的に分析する能力を養う。観客性を鍛える、コミュニケーションの文脈を操作する、心を動かす技術(=レトリック)を学ぶ、という三つの視点からコミュニケーションを研究する。言葉にとどまらず動画をも分析対象として、言葉・映像・音の組み合わせによってコミュニケーションをデザインする方法を学び、文化発信の能力を身につける。	
多元文化科目	多元文化論 A	この授業では、民族や宗教の次元におけるマジョリティ=マイノリティ関係を検討する。対象の中心に置くマイノリティ集団は、地球規模で移動を繰り返してきたユダヤ人である。ディアスポラ・ユダヤ人は長くキリスト教社会とイスラム社会の中で差別や迫害を受けつつも、一神教の先駆者としてそれなりの位置づけを与えられてマイノリティ集団として存続してきた。そして20世紀半ば、国連の支持も受けてイスラエル国家を樹立し、そこでは自らマジョリティとなって内部にアラブ人集団をマイノリティとして抱え込むことになった。この授業では、そうしたグローバルに展開したユダヤ人の歴史を検討しながら、民族的・宗教的共生の困難について理解を深め、解決の方策を考察する。	
	多元文化論 B	英語圏の文学・文化を題材とし、それらがいかに多様な背景から生まれてきたのかを、英米の歴史や社会との関わりを通じて学んでいく。とくに小説の誕生やジャンルの展開に近代の社会がどのように関わっていたのか、そこに人種やジェンダーなどのアイデンティティ・ポリティクスがどのように寄与していたのかなどを分析することで、文化表象の背後にある多元的な要素やレイヤーを読み取る力を涵養する。	
	多元文化論 C	この科目は、公共圏における「表現の自由」について考察することを目的とする。公共圏における自由な言論や表現活動は、もともと質の異なる多元性に基づいているから、古来より現在に至るまで幾度となく摩擦が生じ、社会への影響力の大きさから政権による検閲の対象となってきた。この授業ではとくに公共圏の形成と深くかわりながら発展した演劇に焦点をあて、古代ギリシャから現代までのおもに西洋演劇を扱い、「表現の自由」をめぐる公共圏の問題について、毎回別の国・時代の具体的なケースを講義および受講生による議論をもとに検討していく。	
海外文化研修プログラム	海外文化研修プログラム A	この科目は、海外協定校・機関でのさまざまな研修を通じて、外国語力のさらなる向上はもちろん、交流や異文化体験を通して、課題を見出す力、異なる背景の人たちと協働して課題を解決する力を養うことを目的とする。研修への参加により、毎日24時間外国語を使用する環境の中で、外国語の運用能力を飛躍的に伸ばし、現地の社会、歴史などへの理解を深め、世界の中の日本という視点を獲得することができる。現地には4~7か月滞在し、600時間以上、以下のいずれか、もしくは複数の種類の研修を行う。1. 提携大学での授業の聴講、2. 文化交流プログラムへの参加、3. 語学研修機関における外国語の研修、4. その他、TAなどを含むボランティア等	
	海外文化研修プログラム B	この科目は、海外協定校・機関でのさまざまな研修を通じて、外国語力のさらなる向上はもちろん、交流や異文化体験を通して、課題を見出す力、異なる背景の人たちと協働して課題を解決する力を養うことを目的とする。研修への参加により、毎日24時間外国語を使用する環境の中で、外国語の運用能力を飛躍的に伸ばし、現地の社会、歴史などへの理解を深め、世界の中の日本という視点を獲得することができる。現地には8~10週間滞在し、100時間以上、以下のいずれか、もしくは複数の種類の研修を行う。1. 提携大学での授業の聴講、2. 文化交流プログラムへの参加、3. 語学研修機関における外国語の研修、4. その他、TAなどを含むボランティア等	
	海外文化研修プログラム C	この科目は、海外協定校・機関でのさまざまな研修を通じて、外国語力のさらなる向上はもちろん、交流や異文化体験を通して、課題を見出す力、異なる背景の人たちと協働して課題を解決する力を養うことを目的とする。研修への参加により、毎日24時間外国語を使用する環境の中で、外国語の運用能力を飛躍的に伸ばし、現地の社会、歴史などへの理解を深め、世界の中の日本という視点を獲得することができる。現地には4週間滞在し、100時間以上、以下のいずれか、もしくは複数の種類の研修を行う。1. 提携大学での授業の聴講、2. 文化交流プログラムへの参加、3. 語学研修機関における外国語の研修、4. その他、TAなどを含むボランティア等	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
海外文化研修プログラム	Special Topics in English A	This course aims to develop students' speaking and critical thinking skills in conversation while developing an awareness of different aspects of filmmaking. Students will enhance their critical thinking by analysing stories, characters and other elements of films and discussing and debating these in small student-led groups. Students will engage in collaborative projects involving discussions to create and edit short films produced by the students. Over the semester, students will watch parts of a movie and look at different aspects of the film, such as character archetypes, filming location, sound effects and movie soundtracks. Students will analyse and discuss these different movies and create and edit their own short films. This course combines teacher-led discussion with a learner-centred discovery approach based on Task-Based Learning, Cooperative Learning while using all four skills. (和訳) 本コースでは、映画制作のさまざまな側面に対する認識を深めながら、会話におけるスピーキングと批判的思考のスキルを向上させることを目的としています。映画のストーリー、キャラクター、その他の要素を分析し、学生主体の小グループで議論することにより、批判的思考を高めます。学生は、学生が制作した短編映画の作成と編集のために、ディスカッションを含む共同プロジェクトに取り組みます。学期中、学生は映画の一部を鑑賞し、キャラクターの原型、撮影場所、音響効果、映画のサウンドトラックなど、映画のさまざまな側面に注目します。生徒は、これらの異なる映画を分析し、議論し、独自の短編映画を作成し編集します。このコースは、教師主導のディスカッションと、タスクベースラーニング、コーポレティブラーニングに基づく学習者中心の発見アプローチを組み合わせ、四技能をすべて活用しながら学びます。	
	Special Topics in English B	This course is conducted in English. The furusato image occupies an important place in the political and cultural imagination of Modern Japan. It is a familiar trope in Japanese movies, songs and literature from the Meiji Period until the present day. The furusato has generally served as a sign of unease and sense of loss that many experienced as Japan modernized. This course examines various ways in which the furusato has functioned during the last 150 years. For example, some literary authors during the late Meiji, Taishō and early Shōwa periods employed the furusato as a rural idyll in order to criticize the negative aspects of everyday life in urban Japan. In reality, they were contributing to a general debate over idealized versions of Japan national identity. The course also explores representations of the furusato in post-1945 Japan in advertising, travel brochures, revisionist histories, as well as literary texts. Far from articulating any 'true' version of the past, the furusato image often points to a politically conservative and nativist vision of the future. This course aims to help students develop a stronger sense their own relationship with the past, and to point to deeper questions about what it means to be Japanese in the contemporary age. (和訳) この授業は、すべて英語で行い、近代日本における「ふるさと」をテーマとする。「ふるさと」のイメージは、近代日本の政治的・文化的想像力の中で重要な位置を占め、明治時代から現代に至るまで、日本の映画、歌、文学の中では馴染み深い表現である。「ふるさと」は一般に、日本が近代化する過程で多くの人が経験した不安や喪失感の表れとされてきたが、この授業では、この150年間に「ふるさと」がどのように機能してきたかを検証する。明治末から昭和初期の文学者は、都市への批判のために、「ふるさと」を農村の牧歌的な風景として利用したが、実際には、日本のナショナル・アイデンティティの理想像をめぐる一般論に貢献している。この授業では、1945年以降の日本における広告、旅行パンフレット、歴史修正主義者、文学作品における「ふるさと」の表象について検討し、受講生自身が過去と現在との関係へ理解を深め、現代、日本人であることの意味を問うことを目的とする。	
	Special Topics in German	この講義ではすべての内容をドイツ語で行う。取り上げるトピックは基本的にドイツ社会およびドイツ語をより良く理解できるための内容に工夫する。具体的には「ドイツ連邦基本法」の特徴を簡単に紹介し、そしてそれを踏まえてドイツ社会がどのようにナチスの過去と向き合ってきたのかや、どのように人間の尊厳を尊重してきたのかをヴァイツゼッカーの『荒野の40年』を通して紹介すると同時に、今般のコロナ禍でメルケルが2020年3月18日のテレビ演説でどのような人権政策を打ち出したのかを具体的にできるだけ分かりやすく分析して理解させる。	
	Special Topics in French	この授業は海外フランス語短期研修に参加しない学生を対象に、現地研修に近いプログラムを実践することを目的としている。担当教員はフランス語母語話者であり、教授言語はフランス語のみとし、受講者も教室内ではフランス語のみを使用することが原則となる。教科書としては、「外国語としてのフランス語」(FLE)を教えるフランス語教育機関でよく使用されている、日本人向けには特化していないものを使用する。受講者は教室をフランス語社会とイメージして履修することが望まれ、能力を越えた言語状況への対応力も高めることに努める。現代フランスの社会と文化の多様な側面に触れる機会となるよう、インターネットの活用、ゲームやスキットの実践、なども組み入れる。	
	Special Topics in Chinese	この授業は海外中国語短期研修に参加しない学生を対象に、現地研修に近いプログラムを実践することを目的としている。担当教員は中国語母語話者であり、教授言語は中国語のみとし、受講者も教室内では中国語のみを使用することが原則となる。教科書としては、「外国語としての中国語」を教える中国語教育機関でよく使用されている、日本人向けには特化していないものを使用する。受講者は教室を中国語社会とイメージして履修することが望まれ、能力を越えた言語状況への対応力も高めることに努める。現代中国の社会と文化の多様な側面に触れる機会となるよう、インターネットの活用、ゲームやスキットの実践、なども組み入れる。	
学部共通専門	国際キャリアデザイン A	国内外問わずグローバルビジネスの場で、多国籍メンバーと意思疎通をはかり、プロジェクトを一緒に行うことを想定して、「世界標準」のコミュニケーションスキルを習得する。前半は1対1〜数人の少人数の対話、議論、交渉の仕方を学ぶ。後半は、1対多人数のコミュニケーションをテーマに、文化を問わず聴衆の心を動かすスピーチやプレゼンの仕方を学び、実践できるようにする。他文化の理解を深めるだけでなく、自分自身のコミュニケーション特性や日本文化の特徴を理解し、単なる欧米のコミュニケーションの模倣ではない、自分の強みを活かしたUniversal Communicationを確立する。	
	国際キャリアデザイン B	前期で学んだ内容をベースに、グローバルビジネス(国内外含め)の場で直面する課題を発見し、解決策を考える力を養成する。また、新規ビジネス起ち上げのプロセスを6つのステップに分け段階的に学ぶことで、ビジネスの仕組みや仕事の意味を考え、社会課題解決としてビジネスを理解できるようにする。「社会課題とビジネス機会」→「ユーザーニーズ」→「提供する価値」→「仮説の設定と検証」→「試行錯誤と方針決定」→「効果的なピッチ」という6ステップをシミュレーションとして体験し、グローバルビジネスに必須のコミュニケーション力、課題解決力、発想力、発信力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 キャリア 科目	国際キャリアデザイン C	「International House Career College」において、本学学生のため開講されるJ-SHINE一児童英語教育教授法講座に参加する。授業は午前と午後に分かれ、午前中の授業では日本人講師によって日本の小学校での英語教育に関する講義と実技指導が行われる。午後の授業ではカナダ人講師によって児童英語教育に関する講義と実技指導が行われる。参加者はカナダ人宅にホームステイし、生活全般を通じて英語運用能力の向上に努める。希望者はさらに2週間バンクーバーに滞在し、現地の教育施設において2週間の教育実習を行うこともできる。4週間プログラムの参加者は履修後J-SHINEに申請することにより「小学校英語指導者資格」を、また6週間プログラムの参加者は同様にして「小学校英語指導者資格」を取得することができる。	
	国際キャリアデザイン D	本授業では、音声認識ツールやAIの新たな可能性を探り、その結果として、卒業後のキャリアの中で包摂性が何を意味するのかを学生が自分自身で理解し学ぶ。授業の中では、音声認識ツールやAIの開発を行う企業と連携し、実験を通して音声認識ツールやAIの優位性や弊害を体感する。実験結果について議論・分析・発表するだけでなく、実験の過程を含む授業中に起こるすべての出来事について、授業に関わる全ての人たち（学生、企業のスタッフ、教員、ゲストスピーカー）が主体的に議論することで、まだ誰も気づいていない音声認識ツールやAIの可能性を掘り起こす。同時に、そういったツールの可能性や存在意義を追求することで浮き彫りになる人間の存在や思考の価値、社会のあり方やその方向性を考察し、包摂性という現代のキーワードの本質に迫る。	
	国際キャリアデザイン E	この授業では、受講生は主にフランス・アルザス地方に滞在し、フランスにも拠点を置く日本企業関係者による、各社の展開する企業活動についての英語によるセミナーを受講する。また、企業訪問を通して、実際の業務の展開する現場に立ち合い、関係者と意見交換も行う。ヨーロッパ市場進出を見据えた日本企業へのサポートも行っているアルザス・欧州日本学研究所（CEEJA）の協力を得て行われる海外研修であり、英語力・異文化コミュニケーション力を大きく伸ばせることはもちろん、日本とは異なるビジネスの現状と将来について、理解をもつことができる。	
	国際キャリアデザイン F	航空事業の特性とそのオペレーションに関わる業務、顧客との接点を通じてサービスを提供する部門の業務内容を理解する。（現役のグランドスタッフや客室乗務員などから直接業務について話を聞く機会も設定し理解を深める。） 昨今、あらゆる産業で重要視されている「ホスピタリティ」について、概念から学び、エアラインにおけるホスピタリティの実践（おもてなし）例を通じて理解を深める。さらにホスピタリティを発揮する上で重要なコミュニケーションについて、講義と実習で体得する。 グローバルかつ、変化のスピードが早く、予想が困難な時代の中で様々な人々の多様性に合わせて「ホスピタリティ」を発揮する意義について理解し、自ら考え行動できるようになることを目指す。	
	国際キャリアデザイン G	この授業では、あらゆる組織にとつての最重要課題であるDE&I（多様性・公平性・包摂）について、アクティブラーニング形式で実践的に学ぶ。DE&Iの中でも特に「エクイティ」概念に着目し、出発点からの不公平が存在している現代社会において、誰もが潜在的な力を発揮できるように障壁を取り除いていこうとする組織的な取り組みについて検討する。国内外の時事的な話題、メディア表象、企業の動向など、同時代的な事例を参照しながら、社会的少数者が直面している問題と、それを克服するための取り組みについて、ディスカッションや演習を通じて理解を深める。	
	社会関与プロジェクト A	ホスピタリティ系の職種をめざす学生を対象とした実践型授業で、客室乗務員のキャリアをもつ複数の講師が授業を担当する。授業テーマは「印象形成」で、バーバル・コミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーションにおける印象形成、自分自身の印象の意識化、自分の能力の可視化としての印象形成、好ましい印象を与えるための話し方、聞き方、自分自身がそふなりたい理想印象の作り方とめざし方、コミュニケーションを取るうえでの基準の明示化、などのスキルを実践的に学ぶ。	
	社会関与プロジェクト B	名古屋市東山植物園ならびに星が丘テラスを運営する東山遊園とのコラボによる、産学官連携授業として実施。植物園と東山遊園が連携して進める「ボタニカルタウン」推進に大学が寄与することを目的に、実践課題を提示してのグループワークによる課題解決型授業をおこなう。持続可能な社会の実現という世界的課題と、自然との共生で育まれたサステナブルな日本の生活文化とを結びつけた新しい文化の創造と発信に寄与し、そうした文化を基盤とした国際交流を進めることがテーマである。このため、植物の生態や日本固有の花文化を学び直し外国人に説明できる知識を身につけると共に、文化交流や文化発信を行う英語力とコミュニケーション能力を養う。	
	社会関与プロジェクト C	侯寇のようにマイナス面で捉えられることも多いが鎌倉・室町時代九州・四国および日本海側新潟県付近の水上生活者の交易圏は現在の中国南東部・韓国・北朝鮮からモンゴルにまで及んでいた。これらの外国から輸入された絵画や漢籍は五山文学など寺院の文芸に、壺や茶碗は茶道具として、庶民の茶の湯に、織物は唐織として能楽など芸能に大きな質的転換をもたらし、また日本の芸能人社会と渡来人社会は文化的に大きな影響を与え合った。この様相を、主に室町期の漢詩・和歌と能・狂言について読みやすい絵入の版本を輪読しつつ演習形式で社会と文学との関わりについて考えてい。雅楽田楽能狂言神楽などは東海地域の民衆に伝えられ、地域の寺や神社の檀家や氏子に伝えられて市町村や県の無形民俗文化財となっているものが多い。令和の時代、これら民俗文化財の芸能は寺院や神社を離れ、小学校中学校高校などのクラブ活動を基盤として街の魅力発信を行い、次世代への継承を図っている。和歌や俳句なども市町村の文化協会所属の実作サークルが継承している。本講義では能狂言・棒の手・三河万歳など地元小学校などで教えている地元の師匠やイベントプランナーの方にゲスト講師を積極的にお願いして東海地域における無形民俗文化財の伝承の方法と未来への期待、現状の課題とこの講義を聴く福山生への期待について語っていただく。受講生には伝統芸能や古典は地域に生きる庶民の愛好により伝えられていることに気づき、自分達が愛好者や習い伝えている子供たちの父兄として関わることもあることを自覚し地域文化を守り育てる知識人階級としての指向性を涵養したい。	
	社会関与プロジェクト D	受け手の心を動かすエンターテインメントについて文章表現・視覚表現から考え、それらを形にして社会に発信することを目指す。使用する言語が異なれば通用しない文章表現のみでなく、より多くの人に伝わりやすい視覚表現も対象とし、それでも留意すべき点は何かを考えて行く。自分が発信したいことと、想定される受け手のニーズを、どのように合致させるかについて、様々な要素を想定して考えを深める。また、思考を形にする手法についても学んでいく。実際にエンターテインメントの発信に関わるゲストスピーカーから指導を通して、発信者としての自意識を獲得する。	
社会関与プロジェクト E	日本における二大テーマパークである東京ディズニーランドと大阪にあるユニバーサルスタジオ・ジャパンは、もともとアメリカ由来のものである。自然をそのまま楽しむのではなく、文化性を持ったテーマに基づき最新テクノロジーによって人工的に造られたものの中で楽しみを得る仕掛けを有している。とりわけディズニーランドは、その本質は完全な環境コントロールに基づく非日常性であり、そのコントロールの原則が現代社会の不安定で予測不能な要素を最小化する手法として多くの分野で取り入れられているという。本プロジェクトでは、本学部での学びの中にある文化性を人工的に再現し体験させるようなテーマパークを愛知県セントレア空港に隣接する常滑臨空都市に建造する企画をグループで立て、その内容をプレゼンテーションするものである。そのような経験を通して、「企画」に必要なリサーチ力や創造力、さらにはそのプロセスで発生するコミュニケーション力を養いたい。		

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	社会関与プロジェクト F	本授業では、学生自身が、学外で英語教育や、異文化交流、多文化共生の理念を広げるための活動を計画し、プロジェクトの実践を通して、地域社会に貢献することを目指す。グローバル社会の中で、異なる文化的背景を持つ他者とも共感し合い、多様性を受け入れながらコミュニケーションを紡いでいくという姿勢を、学外の一般社会で広げていくためにはどうすれば良いのか。この課題に取り組み、学生が互いの個性を尊重しながら目的に向かって討議と準備を重ね、学外の教育機関への支援を通して、理念を広げる活動を実践する。	
	英語英米研究基礎	英語英米学科では、大英帝国と現在のアメリカ合衆国が世界秩序の形成と現状にどんな役割を果たした/果たしているのかを理解し、グローバル社会の課題解決能力の育成を教育の目標としている。この授業は、学科の専門的な学びを深めるための導入として、英語英米学科の全学生に理解してもらいたい基礎部分である。世界共通語としての英語の役割、対話や交流を実現するコミュニケーションへの理解、英語圏の歴史、文化、社会の多様性の考察を目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (7 水島和則/8回) 授業の前半では、「ことば」の科学であるリベラルアーツ3科(文法学、論理学、修辞学)それぞれの意義をふり返り、言語学、言語教育学、心理学、文化人類学、社会学、政治学による英語とコミュニケーションに対するアプローチの特徴を整理する。そして複言語主義pluri-lingualismと異文化理解との関連、コミュニケーション能力の定義、コンテキストについての量的研究と質的研究の諸相について概観する。 (1 藤岡阿由未/7回) 後半では、20世紀後半以降のさまざまな思考の産物に着目し、イギリス、北米、アジア、オセアニア、アフリカなどを含む「英語が公用語・国語」である広範囲にわたる英語圏の歴史、文化、社会の多面的な成り立ちを理解する。ここでは、英語で表現されたドキュメンタリー映画、ニュース番組、旅行記、日記、映画、文学、ドラマ、マンガなど多様な文化活動を取り上げ、英語圏において生成される思考の重層性に焦点をあてる。	オムニバス方式
	Academic English I A	In this course, students will expand their range of reading strategies and techniques introduced in the first-year Communicative English Reading course. Throughout this course, we will focus on building NGSL vocabulary depth and reading strategies to improve reading comprehension and reading speed. Students will practice extensive and intensive reading strategies using various reading materials. As part of this course, students will engage in independent critical thinking and group discussion activities that will help them become active learners in the classroom. (和訳) この授業では、1年次のCommunicative English のリーディングの授業で学んだ読解スキルをさらに伸ばすことをめざす。この授業を通じてNGSL (New General Service List) のボキャブラリーと読解スキルの獲得をめざし、それによって読解力と読解スピードの向上もはかる。受講生はさまざまなリーディングの素材を用いて多読および精読を実践する。また授業の中で批判的思考のトレーニングやグループディスカッションの実践を通じ、教室内での主体的な学びの力も身につける。	
	Academic English I B	In this course, students will further expand their range of reading strategies and techniques introduced in the first semester of this reading course. Throughout this course, we will focus on expanding students' NGSL vocabulary depth and reading strategies to improve reading comprehension and reading speed. Students will continue to practice extensive and intensive reading strategies using various reading materials. As part of this course, students will engage in independent critical thinking and group discussion activities that will encourage them to become active learners in the classroom. (和訳) 本講座の目的は、前期の「読解(リーディング)」の授業で学んだ読解の戦略とその技術の幅をさらに広げることである。本講座を通して、受講生のNGSLの語彙の深さと幅を広げ、読解力と読解スピードを向上させるための戦略に焦点を当てる。受講生は、様々な読解教材を用いて、多読の技術と精読の練習を継続的に行っていく。本講座の学びの一環として、受講生は自主的に批判的思考をし、グループ討論に加わることで、教室での積極的な学習者となることを期待する。	
Academic English I C	This course aims to build on skills and techniques introduced in the first-year Communicative English I/II B writing course by expanding the range of skills and techniques to be applied to various types of academic writing. Over the semester we will conduct close analyses of academic essays to critically explore and examine structure and form. In class, we will engage in debate and discussion around a range of contemporary issues that will lead to the production of five-paragraph essays written in the appropriate form and style. In addition, much work will be applied to expanding language skills through reading, vocabulary, and grammar exercises. On successful completion of this course, students should have a greater understanding of the form and structure of the five-paragraph essay. They will move towards understanding and appreciate the linguistic style and register of academic essays, while critically thinking about contemporary issues and form nuanced and sophisticated interpretations. They will debate and discuss ideas and opinions in English and write about a range of subjects within the academic framework. They will also move towards an understanding of common academic writing style guides such as APA and MLA. (和訳) 本講義の目的は、1年次のCommunicative English I/II Bのライティングの時間に学んだ知識をもとに、学術的な文章の執筆にも適用できるよう、その範囲を広げることにある。まず、学術論文を分析し、その文章構造と形式を検討する。そして、現代社会の様々な問題を議論・検討し、適切な形式とスタイルを踏まえた5段落のエッセイが書けるようになることを目指す。さらに、読解、語彙、文法の学習を通して、言語能力を高める。受講生は5段落のエッセイの形式と構造をより深く理解することで、学術的な文章で用いられる言葉の使い方や表現方法を理解する。現代社会の問題を批判的に考え、洗練された解釈をし、英語で自分の考えや意見を議論できるようになる。また、学術的な枠組みの中で、様々なテーマについて書けるようになる。一般的に用いられているAPAやMLAといった学術文章の書き方のルールについても学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科共通基礎 外国語科目	Academic English II A	<p>This course aims to further develop students' speaking and critical thinking skills in conversation and collaborative project work. Students will engage in collaborative projects involving discussion, academic research and presentations. Over the semester, students will focus on two main topics, Race & Identity, and Science & Technology will be assessed using two different presentation formats to practice and enhance their presentation skills. This course combines teacher-led discussion with a learner-centred discovery approach based on Task-Based Learning, Cooperative Learning while using all four skills.</p> <p>On successful completion of this class, students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> -discuss global issues -explore fundamental academic research skills -present their ideas in a variety of methods -expand on their critical thinking skills -identify main ideas and supporting details of a text <p>(和訳) 本講義は、会話や共同作業を通じて、話す力と批判的思考のスキルをさらに向上させることを目的とするものである。受講生は、ディスカッション、学術研究、プレゼンテーションといった形で共同作業に取り組むことになる。「人種とアイデンティティ」や「科学と技術」の2つの主要な話題に焦点を当て、2つのプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの練習とそのスキルアップを図る。本講義は、教員主導のディスカッションと、課題をもとにした学び、共同作業を通じた学びなど、学習者中心の発見的アプローチを組み合わせて、読む・書く・聴く・話すの4つの技能を駆使して行われる。</p> <p>本講義を通じて、次のことができるようになる：</p> <ul style="list-style-type: none"> —グローバルな問題を議論すること —基本的な学術調査のスキルの獲得 —様々な方法で自分の考えを発表すること —批判的思考法のスキルの向上 —文章中の主たる考えとそれを支えるものを特定すること 	
	Academic English II B	<p>In this course, students will expand their range of reading strategies and techniques introduced in the first-year Communicative English Reading course. Throughout this course, we will focus on building NGSL vocabulary depth and reading strategies to improve reading comprehension and reading speed. Students will practice extensive and intensive reading strategies using various reading materials. As part of this course, students will engage in independent critical thinking and group discussion activities that will help them become active learners in the classroom.</p> <p>(和訳) 本講義の目的は、1年次のCommunicative EnglishのReadingの授業で紹介したリーディング・ストラテジーとそのテクニックの幅を広げることである。本講義を通して、NGSLの語彙の興行を増し、読解力と読解スピードを向上させるためのリーディング・ストラテジーに重点を置く。様々な読み物を使って、多読のストラテジーと精読のストラテジーを身に付ける練習を行う。本講義の一環として、受講生は批判的思考法やグループディスカッション活動に参加することで、積極的に学ぶ姿勢を身に付ける。</p>	
	Academic English II C	<p>This course will build upon the lessons learned in Academic English I C by expanding the range of skills and techniques to be applied to various types of academic writing. Over the semester students will conduct close analyses of academic essays to critically explore and examine structure and form. In class, students will engage in debate and discussion around a range of contemporary issues that will lead to the production of five-paragraph essays written in the appropriate form and style. In addition, much work will be applied to expanding language skills through reading, vocabulary, and grammar exercises. The structure of the course is similar to Academic English I C but the content is different. On successful completion of this course, students should have a greater understanding of the form and structure of the five-paragraph essay. They will move towards understanding and appreciate the linguistic style and register of academic essays, while critically thinking about contemporary issues and form nuanced and sophisticated interpretations. They will debate and discuss ideas and opinions in English and write about a range of subjects within the academic framework. They will also move towards an understanding of common academic style guides.</p> <p>(和訳) 本講義の目的は、Academic English I Cで学んだ内容をもとに、様々な学術文章の作成に適用できる書く技術の幅を広げることである。受講生は学術文章を丹念に分析し、その構造と形式を批判的に検討する。授業では、様々な現代社会の問題を議論し、適切な形式とスタイルで5段落の文章を作成することを目指す。さらに、読解、語彙、文法の練習を通して、言語能力を高める。本講義の構成はAcademic English I Cと類似しているが、内容は異なる。本講義を通じて、5段落の文章の形式と構造をより深く理解し、学術文章での言葉の使い方や表現方法などを理解し、現代社会の問題を批判的に考え、洗練された解釈ができるようになる。英語で自分の考えや意見を議論し、学術的な枠組みの中で様々なテーマについて書くことができるようになる。APAやMLAといった一般的な学術文章の書き方のルールについても学ぶ。</p>	
	Active English A	<p>This course aims to build on students' fundamental English skills and knowledge needed to express themselves confidently in a real English-speaking environment. This course maintains a well-balanced use of the four pillars of English education, reading, writing, listening, and speaking as well as providing practical opportunities to improve students' English knowledge and confidence.</p> <p>(和訳) このコースは、リアルな英語環境において学生が自信を持って自己表現するために必要とされる基本的な英語スキルと知識を身につけることを目的とする。英語教育の柱となる4技能、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングをバランスよく学び、学生の英語に対する知識と自信とを高める実践的な機会を提供する。</p>	
	Active English B	<p>This course aims to build on students' fundamental English skills and knowledge needed to express themselves confidently in a real English-speaking environment. This course maintains a well-balanced use of the four pillars of English education, reading, writing, listening, and speaking as well as providing practical opportunities to improve students' English knowledge and confidence. The structure of this class is similar to the spring semester; however, the content of activities and tasks are different.</p> <p>(和訳) このコースは、リアルな英語環境において学生が自信を持って自己表現するために必要とされる基本的な英語スキルと知識を身につけることを目的とする。英語教育の柱となる4技能、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングをバランスよく学び、学生の英語に対する知識と自信とを高める実践的な機会を提供する。授業の構成はActive English Aとほぼ同じだが、アクティビティと作業の内容が異なる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	English for Academic Purposes Project and Research	<p>This course aims to teach basic skills of academic research in English, in addition to a variety of methods for presentation and standardisation. Students will explore a number of research topics both guided and free as groups and individuals before presenting their findings to the class. Emphasis will be on discussion and debate, as well as improving critical thinking skills. The course will in effect be collaborative as students will be expected to bring new knowledge to the classroom and take on the role of instructor with their peers. On successful completion of this course, students should have a greater understanding of methods of academic research across science and the humanities as well have a greater understanding of different presentation methods and the merits of each. They will move towards understanding academic style, register and standardisation, thinking critically about a range of topics and will broaden their world perspective and cultural understanding. They will also debate and discuss ideas relating to a variety of topics.</p> <p>(和訳) このコースは、英語による学術研究の基本的スキルはもとより、研究発表および研究の規格化のためのさまざまな方法を教えることを目的とする。学生は教師の指導のもと、さらにグループ単位あるいは個人で自由に、多数の研究トピックを探究して教室でその成果を発表する。重視するのは、ディスカッションとディベート、さらにはクリティカルシンキングの技法を高めることである。学生は新しい知識を教室に持ち込み、他の学生に対して教師の役割を果たすことを期待されるので、授業は実質的に共同で作りあげていくものになる。授業の目的を成功裡に達成するため、学生は人文学のみならずサイエンスについても学術研究の方法をより深く理解すると共に、それぞれの異なる発表方法とそのメリットについてより深く理解しなければならない。授業が進むにつれ、学生は学術的文体、専門用語、研究の規格化された形式を理解し、一連のトピックについてクリティカルに考え、自分の視野と文化的理解とを広げることになる。授業ではさまざまなトピックに関連する考え方についてディベートとディスカッションをおこなう。</p>	
	Advanced English A	<p>This course continues from second-year classes in the CEP to develop students' communication skills in conversation, discussion, debate, and presentations. By applying project planning techniques, students will organize the topic, focus and content of a variety of written and oral projects, covering both academic and practical themes. Throughout the course, students will have the opportunity to apply critical thinking, problem solving, and collaborative skills as they work individually and in groups to complete future-ready projects. Students will self-select project topics that are based on the themes from sociology, sociolinguistics, culture, economics, business, psychology, and linguistics. These learning skills encourage students to analyse, adapt, and take the initiative to improve processes that are common in study and employment contexts. Through frequent discussions and presentations, students will advance their non-verbal digital communication. In addition, they will further develop information literacy and logical arguments while formulating and then answering research questions. This will continue in debates that are supported with appropriate evidence gained through research that they conducted, and gathered from a variety of resources.</p> <p>(和訳) このコースは、CEPの2年目の授業に引き続き、会話、ディスカッション、ディベートおよびプレゼンテーションにおけるコミュニケーション能力を養う。ここではプロジェクトプランニングのテクニックを応用し、学術的および実用的なテーマのもとで、さまざまな文書や口頭でのプロジェクトにおけるトピック、焦点、内容を企画する。コース全体を通して、未来志向のプロジェクトの完成に取り組みながら、受講生は個人またはグループで活用する批判的思考、問題解決、共同作業のスキルを使うことになる。また社会学、社会言語学、文化、経済学、ビジネス、心理学、言語学などに基ついたプロジェクトのテーマを自分で選ぶ。受講生はこれにより、研究や就業の場で要求されるようなプロセスを分析・適応し、率先して改善する能力を身につけ、ディスカッションやプレゼンテーションを頻繁に行うことで、非言語的なデジタルコミュニケーション能力を向上させる。さらに、研究課題を設定しそれに答えることで、情報リテラシーと論理的な議論をさらに深める。ここでは、自分たちが行った調査や、さまざまなリソースから収集した適切な証拠に基づいて議論を継続する。</p>	
	Advanced English B	<p>The goal of this course is to help students to carry on from the second year of the CEP to build on fluency in reading and writing at an academic level. Students will also further develop critical thinking skills and to plan clear, well-organized essays in a variety of genre. The class will focus on researching, note-taking, argument development, outlining an academic essay, and structure and content to familiarize the students with writing strategies. Students will apply reading strategies using various media and academic sources. Also, students will work on developing a working knowledge of information literacy.</p> <p>(和訳) このコースの目標は、CEPの2年目に引き続き、アカデミックなレベルでの流暢なリーディングとライティングの能力を身につけることである。また、様々なジャンルにおける明確でよく整理されたエッセイを構想するための批判的思考力をさらに高めることを目指す。このクラスでは、ライティングストラテジーに慣れるため、調査、ノート取り方、論旨の展開、学術的なエッセイの概要や構成・内容に焦点を当てる。受講生は様々なメディアや学術的な情報源を用いて、読解のストラテジーを適用し、情報リテラシーの知識もあわせて身につける。</p>	
	Advanced English C	<p>Students will continue to develop interpersonal skills as they work individually and in groups on a variety of practical and academic projects. These future ready projects will assist students in their university studies and for life after graduation. Projects will cover a variety of presentation genres such as poster presentations for a conference or trade show style. In addition, this class will perform a dynamic role play. To successfully complete this project, students will research and prepare for an employment interview in English as both an interviewer and interviewee. Students will also work on web-based multimedia materials that will require technology literacy by applying good design technique with appropriate technology. The students will have to research, select, and then learn the appropriate applications for various projects. These projects will be shared with students in the faculty.</p> <p>(和訳) 学生は、個人またはグループでさまざまな実用的・学術的プロジェクトに取り組みながら、対人関係スキルを高めていく。これらの未来志向のプロジェクトは、大学での学習や卒業後の人生に役立つものである。プロジェクトは、学会でのポスター発表やトレードショー形式のような様々なプレゼンテーションのジャンルをカバーする。さらに、このクラスではダイナミックなロールプレイを行う。このプロジェクトを成功させるために、受講生は面接官と面接を受ける人の両方の役割となって英語で就職の面接を調査し、準備する。また、ウェブベースのマルチメディア教材に取り組む。この教材は、適切なテクノロジーを用いた優れたデザイン技術を適用することによるテクノロジーリテラシーを必要とする。受講生は、様々なプロジェクトに適したアプリケーションを調べ、選択し、そして習得する必要がある。これらのプロジェクトは、学部内の学生たちと共有することになる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Advanced English D	Academic Reading & Writing D is a course designed to train students to comprehend a wide range of reading and writing assignments as well as to acquire the analytical skills necessary for effective scholarship across the curriculum. Research writing skills and intensive/extensive reading skills will be emphasized. Students are expected to build their academic focused vocabulary using the New Academic Word List (NAWL). Also, students will work in small groups for discussion and presentations on the topics covered in this class. (和訳) Academic Reading & Writing Dは、カリキュラムに沿った効果的な研究活動に必要な分析能力を身につけるだけでなく、幅広い分野のリーディングとライティングの課題を把握・理解するためのコースである。ここではリサーチ・ライティングとインテンシブ/エクステンシブ・リーディングのスキルが重視される。また、New Academic Word List (NAWL)を用いて、受講生にはアカデミックな語彙を増やすことが期待される。また、このクラスで扱ったトピックについて、少人数のグループでディスカッションやプレゼンテーションを行う。	
英米エリアスタディーズ科目	英語圏近現代史	英語圏、すなわち英語が公用語となっている、あるいは、それを第一言語とする人びとが多数の地域の歴史を辿る。とりわけ、各地域間の文化の共通性や差異が現れてくる過程に着目する。それらの内には、イギリス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドのみならず、アジア、アフリカ、カリブ海諸島の一部地域も含まれる。注目するのは、特定の時空間において、一部の集団の利益のために、他の人びとの自由や生活が犠牲にされた際、それらが回復するために練られた思想や、取られた行動である。それらの蓄積の結果として生じた社会や文化の変転をも合せて理解する。	
	平和学	地球上の人びとが、各自のローカルな法制度や慣習を尊重しつつも、等しく平和的生存を実現するための手段を探る。前提として、平和を害しうる諸事象を概観する。それらの内には武力紛争や軍備拡張、とりわけ核武装が当然に含まれる。奴隷制やジェノサイドも同様である。のみならず現代では、ジェンダー、人種、エスニシティに基づく差別や、気候変動によって引き起こされる災害、ネオリベリズムに付随する搾取、貧困をも付加せねばならない。次に、それらが生ずる歴史の経緯を辿り、また、解決のために奮闘する人びとの思考、行動を明らかにすることで、私たちが将来の道を選択するためのヒントを得る。	
	Global Studies	本授業では、グローバルな視座からアメリカの歴史と社会文化について学ぶ。日本からアメリカに渡った移民とその子孫や、アフリカ系、先住民などに焦点を当て、人種エスニシティ、移民、国籍、公民権、平等、経済的格差、セトラコリアリズムの問題についての理解を深め、差別を是正するための様々な取り組みについても学ぶ。グローバルな人の移動、環太平洋や南北アメリカなどとの関係性にも焦点を当てながら、グローバル化が進行する現代社会の一員として、多角的視点から社会を理解する視座を養う。講義は、原則英語で行われる。	
	英語コミュニケーション研究入門	本講義は英語コミュニケーションコースの基幹科目という位置付けであり、同コースの学生は1年後期に必修科目として全員が受講するものである。講義内容は、同コース内で学修可能な3つの主要な学問分野である、ヒューマン・コミュニケーション論、言語習得論、言語学の導入、及びこれら言語と人間のコミュニケーションにまつわる学問分野を通し、学生がどのような能力を身に付けるのかを説明する。講義の進め方はオムニバス方式であり、ヒューマン・コミュニケーション論の視点からは笠原 が、言語習得論の視点からは児玉が、言語学の視点からは芝垣が担当する。 (オムニバス方式/全15回) (3 笠原正秀/4回) 笠原が担当するコミュニケーション論では、ヒューマン・コミュニケーションの視点から、その対象とするのは人間のコミュニケーション行動である。対人および異文化のレベルから、人間の言語行動・非言語行動について概観する。また、こうした人間のコミュニケーション行動を考える上で、文化の影響は不可避であり、文化の視点から人間のコミュニケーション行動のあり様を見る力を身に付けるために、文化と人間のコミュニケーション行動との関係性について理解を深める。 (13 児玉恵太/3回) 児玉が担当する言語習得論では、第二言語としての英語習得の特性について考える。まずは母語の習得について概観し、それを踏まえた上で第二言語習得の仕組みについて考察する。学生は言語習得論を通して、国際社会におけるコミュニケーションに必要となる、母語以外の言語を学ぶという人間の認知活動についての理解を深める。 (4 芝垣亮介/5回) 芝垣が担当する言語学では、言語学という学問の成り立ちや意義を説明する。具体的には言語学の諸分野における日英語のデータを観察・分析し、それらの類似点や相違点から自然言語全体の性質を考察する。学生は言語学を通して、人の思考や文化に迫り、それゆえ、国内外における多文化や人間に共通の性質を理解し、より国際的な人材に育つことを理解する。 (15 堀江里香/3回) 堀が担当する国際関係論では、文化の領域から、人の移動に伴う国家の移民政策の変遷や多文化共生の問題について考える。異なる人種や文化的背景を持つ人々が、互いを尊重し合い、人権を守りながら生活していくことは、グローバル化が進行する現代において重要なテーマである。世界的な移民の流れを外観し、差別や抑圧の問題と、それらを解決するための人々の取り組みについて過去と現在を接合しながら学び、国際的な視野を身につける。	オムニバス方式
	Introduction to Intercultural Communication Studies	This course aims to introduce and understand the index of cultural variabilities such as Individualism-Collectivism, High/low Context Culture, Uncertainty Avoidance, Power Distance, Masculinity-Femininity, and Long-Short Term Orientation to understand cultural differences between easterners and westerners. This knowledge explains the similarities and differences in communication styles between Japanese and North Americans. In turn to improve students' intercultural communication abilities to be global citizens with an international posture in the modern society. (和訳) 本講義の目的は、東洋人と西洋人の文化的差異を理解するために、個人主義-集団主義、高/低コンテクスト文化、不確実性回避、権力距離、男性性-女性性、長期-短期志向などの文化可変性の指標を紹介し、理解することにある。こうした知識は、日本人と北米人のコミュニケーション・スタイルの類似点と相違点を説明するものである。こうした知識を身に付けることにより、現代社会の中で国際的な姿勢を持った地球市民となるための異文化コミュニケーション能力を向上させることが期待できる。	
	言語コミュニケーション論	本講義の目的は、アメリカの大学で「スピーチ・コミュニケーション」と呼ばれる分野で取り扱われる、さまざまな状況下で口頭によるコミュニケーションのあり方を概観することにある。その意味で、本講義は欧米の言語によるコミュニケーションに対する態度や考え方を理解することを目的とするものである。同時に、日本人のことばの使い方やことばによるコミュニケーションのあり方をその比較対照とし、異文化レベルでの類似点や相違点を理解する。具体的には、以下のような観点から、欧米流言語コミュニケーションのあり方を学ぶ：1) 一対一のコミュニケーション：会話を始めるきっかけとそれを発展させる方法；2) 小集団でのコミュニケーション：小集団における問題解決型のディスカッションのあり方；3) 公的場面でのコミュニケーション：スピーチの準備とそのパフォーマンスのしかた；4) 競争的コミュニケーション：ディベートとそのやり方。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	非言語 コミュニケーション論	本講義の目的は、非言語コミュニケーションがいかに人間のコミュニケーション活動、特に情動的なメッセージの伝達に大きな影響を及ぼしているのか、を理解することにある。また、そうした非言語合図にみられる文化的差異についても触れ、異文化レベルでのちがいを理解する。こうした側面から非言語コミュニケーションに関する知識を身につけることで、同一文化背景を持つ者同士のコミュニケーションばかりでなく、異文化背景を持つ者とのコミュニケーションにおいても、いかに人間関係を上手に形成し発展させていくか、その術を非言語コミュニケーションの観点から考える機会を提供する。具体的には、以下の7領域：音調学、近接学、接触学、動作学、視線接触学、対物学、時間学から非言語コミュニケーションについて概観する。	
	異文化トレーニング	本講義の目的は、「異文化」とは何かを多角的に理解すると同時に、異文化におけるコミュニケーションや異文化における問題解決の方法を主体的かつ具体的に学修していくことを目的とする。まず、社会における異文化および多文化の状況やしぐみについて理論および実践レベルで理解する機会を提供する。次に、異文化背景を持つ者同士のコミュニケーションや相互理解の難しさについて理解する機会を提供する。三点目に、異文化をめぐる社会の実情や課題を、社会理論や実践をもとに多角的な視点からとらえ分析する機会を提供する。最後に、「自分と他者とは異質的存在」であることを前提に、コンフリクトへの対処のしかたについて学修する機会を提供する。こうした文化に対する理論的基礎概念は、コミュニケーション学、文化人類学、社会学からの知見を援用し、多角的に「文化」をとらえる。実践は、クリティカル・インシデント、ロールプレー、シミュレーションなどを取り入れ、ペア・ワーク、グループ・ワークを行う。	
	異文化適応論	本講義の目的は、異文化に接した際、日本人の示すカルチャーショックの諸現象の分析と対処法と、その背景にある日本文化独特のシステムとの関係性について考えられるようになることである。学期の前半は、異文化接触場面において、日本人にみられるカルチャーショックの諸現象の分析及びその対処法をみる。学期の後半は、そうした日本人のカルチャーショックの背景にある日本文化に顕著な特色を社会心理学の視点から分析し、その理解を深める。最終的に、学術的な視点からの日本人のカルチャーショック現象を理解するのみならず、実社会で応用可能な異文化理解・異文化への適応力を身につける学修機会を提供する。	
	異文化理解	本授業では、多文化共生を模索するアメリカ社会の教育・文化に焦点を当て、具体的な事例から多様性と異文化理解について学ぶ。取り上げるテーマは、コマーシャルにみる米企業のイメージ戦略、日本人駐在員の子供達に対する現地の教育制度、博物館展示における歴史の語られ方のズレ、アジア系に対するヘイトクライム、銃規制、先住民からみたアメリカと日本などである。アメリカ社会を相対化する視点として、他地域や日本の社会状況も視野に入れる。アメリカ在住者や留学生との交流を通して、体験的にも異文化交流の意義について理解する。	
	翻訳 A	本講義の目的は、翻訳にはいかに高度で幅広い母語力が必要不可欠で、それに加えて高度な外国語力が必要であるかを認識することにある。そのための学修段階として、まず英語と日本語の構造の違いをしっかりと理解し、さまざまなジャンルの文章を翻訳ができるようする。英語から日本語、日本語から英語への情報内容の正確さだけでなく、文化フィルターをとおした英語の表現、日本語の表現ができていくか、英語のニュアンス・日本語のニュアンスが正確に訳出されているか、英語・日本語になっているか、そうした英語圏文化、日本文化に根差した自然な訳出ができる姿勢を身につける。具体的には、練習問題をつうじて翻訳の基礎を学び、英語・日本語の翻訳に必要な知識とスキルの基礎力を身につけていく。さまざまなジャンルの文章を翻訳することにチャレンジすることで、その基礎的な力を身につける。	
	翻訳 B	本講義の目的は、「翻訳A」で学んだ知識と技術を生かし、「翻訳A」よりもレベルアップされた内容の文章を翻訳題材として取り上げ、その内容を理解し、英語・日本語に訳出できる力を身につける。そのための学修段階として、まず英語と日本語の構造の違いをしっかりと理解し、さまざまなジャンルの文章を翻訳ができるようにする。英語から日本語、日本語から英語への情報内容の正確さだけでなく、文化フィルターをとおした英語の表現、日本語の表現ができていくか、英語のニュアンス・日本語のニュアンスが正確に訳出されているか、英語・日本語になっているか、そうした英語圏文化、日本文化に根差した自然な訳出ができる姿勢を身につける。具体的には、練習問題をつうじて翻訳の応用技術と学び、翻訳に必要な知識とスキルの両面にわたって応用編という位置づけの授業を提供する。さまざまなジャンルの比較的高度な文章の翻訳にチャレンジすることで、その応用編となる力を身につける。	
	通訳 A	本講義の目的は、通訳にはいかに高度で幅広い母語力が必要不可欠で、それに加えて高度な外国語力が求められるかを認識することにある。具体的には、通訳の初歩的な音声面でのトレーニングを行う。音声トレーニングで取り上げる話題は、「家族に関する話題」「大学生活に関する話題」など、学生たちにとっていちばん身近なものを取り上げる。また、英語・日本語の表現力をつけるために、日常生活の中で使われている日本語的な表現をどう英語らしい英語に訳出していくか、あるいは英語らしい表現をどう平素使われているような日本語らしい日本語に訳出していくか、といった「文化フィルター」をとおしたことばの使い方を学ぶ。そうした英語・日本語の定着の確認は、ほぼ毎回、授業で小テストを実施することで行っていく。本講義は、通訳の基礎的な力を身につけることを目的とし、上掲のような観点からのトレーニングを中心に行っていく。	
	通訳 B	本講義の目的は、「通訳A」で学んだ技術や知識を生かし、「通訳A」よりもややレベルの高い内容を音声でのアウトプットで使う題材として取り上げる。また、「文化フィルター」をとおした英語から日本語への訳出、日本語から英語への訳出がスムーズにできるようになるまで繰り返し練習を行う。こうした日本語表現・英語表現の定着の確認は、小テスト形式で、ほぼ毎回の授業の中で実施していく。「通訳A」で取り扱った内容よりもややレベルの高いものとしては、「日本の文化に関する話題」「観光ガイド通訳を想定した話題」などを教材として取り上げる。また、英語・日本語の表現力を身につけることを目的として取り扱う内容としては、ビジネスシーンで使われている英語・日本語を、日本語らしい日本語に、英語らしい英語に訳出する練習を繰り返し行っていく。そうした表現力の定着の確認はほぼ毎回の授業の中で小テストを実施し、行っていく。	
	Introduction to Linguistics	In this course, students will learn about the study of language and language research through lectures and in class reflective and critical thinking activities. Students are introduced to the six main branches of linguistics: morphology, pragmatics, semantics, phonetics, phonology, and syntax. After introducing each field, students will apply this knowledge to society and their own language-related experiences through discussion, and reflection. For homework students will have worksheets to check their comprehension, a reflection project, and final exam to confirm the successful completion of the course objectives; gaining a basic understanding of the six main branches of linguistics, being able to examine and explain one's beliefs about languages, being able to examine and explain differences and similarities of various languages (with a focus on English and Japanese), and being able to reflect on their observations and analyses of their own language use. (和訳) 本講義では、学生は、言語とその分析に関する学問である言語学を学習する。講義内で、学生は、形態論、語用論、意味論、音声学、音韻論、統語論という言語学の6つの柱に触れる。学生は各分野に触れた後、学習した知識を社会や、言葉に関連する各自の体験の理解へと応用させる。対象言語は英語と日本語であり、学生は、6つの分野に対する理解を深め、結果として、各自が体験する言語現象を自分で説明できるようになる。加えて、英語と日本語の違いを調査し、自分なりの説明ができるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要 (外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語コミュニケーション専門科目 学科共通科目	社会言語学	本講義では言葉が社会の中でどのように成立しているのか、その通時的及び共時的観点から分析する。データとしては日本語や英語に限らず世界のさまざまな言語を取り扱う。通時的側面としては、歴史言語学の観点から言語の変遷について説明する。また、言語政策についても言及し、世界のさまざまな国において、国語、公用語、方言というものがどのように制定されてきたのか分析する。共時的側面としては、現在の日本国内を含む世界の言語の多元性をテーマ（問題）別に分析する。具体的にはジェンダーや危機言語の問題を取り扱い、豊富なデータの分析を通し、世界の言語の状況を体感する。	
	応用言語学	本講義では、学期の前半で言語習得の仕組みや言語情報の処理に焦点をあて、どのような過程を経て母語や第二言語としての英語が習得されるのか、英語の語彙や文の情報はどのように記憶されるのか、学習者特性や言語能力観および教授法に焦点をあて、英語教育への応用について考察する。学期の後半では第二言語としての英語の学習者特性や言語能力観および教授法に焦点をあて、これからの日本における英語教育への応用について考える。	
	第二言語習得論	本講義では、第二言語習得 (second language acquisition / SLA) を初めて学ぶ学生向けに、母語獲得、SLAにおける母語の役割、中間言語、SLAのメカニズム、学習者要因、教室におけるSLA研究などに関する様々な理論やアプローチの主要な側面について概観し、SLAに関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。また、本講義では、英語と併せて第二言語としての日本語という観点から、日本語教育史や日本語の試験に関する基礎知識も習得する。	
	認知言語学	この授業では認知言語学の基本的な概念を多様な日本語文、および英語文の例を使って学習し、最終的には日本語と英語の視点の違い、またそれに伴う表現の違いを比較することにより、概念の理解とともに英文の理解の向上を目指す。人はどのように世界をとらえて言語化しているのか。はじめに日本語を例として、人が物事を言語化する際に重要な役割を持つ「視点」や「物事の捉え方」について理解するために「フレーム意味論」「イメージスキーマ」「認知ドメイン」などの概念を学ぶ。これらの概念についての知識をもとに、日本語話者の視点と表現方法を検討し、同様に英語話者の発話（文）を検討し、両言語を比較する。同じ事象を述べるときの視点や捉え方は、言語によって異なることがあり、その表現方法も大きく異なることがある。この比較は、認知言語学の知識を深めるとともに、語彙や文法の知識のみでは理解が困難な英文の文意を明確にする助けとなるだろう。	
	English for Tourism	This course aims to introduce language, knowledge, understanding, and skills involved in the tourism industry. Over the semester students will examine different aspects of the tourism industry and the travel experience with particular attention paid to the future of the industry and the move towards renewable, non-invasive tourism. This will involve close readings of texts to critically explore and examine themes and issues in the field of tourism and hospitality, as well as engaging with real-world media. In addition, students will focus on improving communication through discussion, presentations and critical thinking through reflection activities. On successful completion of this course, students should have a greater understanding of issues relating to the tourism industry both historical and in the future. They will have a greater understanding of specific language relating to travel and tourism, and use that language in real-world scenarios. They will think more critically about travel and tourism, broaden their world perspective and cultural understanding, and debate and discuss ideas relating to travel and tourism in English. (和訳) このコースは、観光産業に関わる言語、知識、理解、およびスキルを紹介することを目的としている。学期中受講生は、観光産業の将来と再生可能で非侵襲的な観光への移行に注目しながら、観光産業と旅行体験のさまざまな側面を検討する。このコースでは、観光とホスピタリティの分野におけるテーマや問題を批判的に探求・検討するために実際のメディアだけでなくテキストを精読する。さらに、ディスカッション、プレゼンテーションを通してコミュニケーション能力を、リフレクション活動を通じて批判的思考能力の向上を図る。このコースを修了することで、学生は観光産業に関する歴史的、将来的な問題についてより深く理解できる。旅行と観光に関連する具体的な言葉をもっと深く理解し、実際の場面で使用することができるようになる。旅行と観光についてより批判的に考え、世界観と文化的理解を深め、旅行と観光に関する考えを英語で討論することができるようになる。	
	Communication in Business	This is an introductory business English communication course with an emphasis on international business using English. This course aims to maintain a well-balanced use of the four pillars of English education, reading, writing, listening, and speaking as well as providing multicultural information to help students conduct business internationally. Among the topics covered in the course will be, entrepreneurship, offshoring, the 4 Ps of marketing, international leadership in multinational corporations, and creating personal and company SWOT analyses. (和訳) 本講義は英語を使用する国際ビジネスに重点を置いた、ビジネス英語コミュニケーション入門コースである。本コースは国際的なビジネスができるように多文化情報を提供しながら、英語教育の4本柱である「読む・書く・聞く・話す」をバランスよく使えるようになることを目指す。コースでは、起業家精神、オフショアリング、マーケティングの4P、多国籍企業における国際的リーダーシップ、個人と企業のSWOT分析の作成などを取り上げる予定である。	
	Gender Dimension in Media and Communication Studies	女性らしさ・男性らしさをめぐる社会規範や価値、性差という観念に基づいた役割分業は、時代や社会によって変化する。しかしこれらは「当たり前で、自然なこと」とされ、人々は自発的にその枠内で行為しがちである。ジェンダー研究はこの仕組みを一步引いて見つめる。ジェンダーに着目すれば、日常行為のなかの人々のアイデンティティや親密な関係性、あるいは家族、会社、学校など組織のなかで構造化される支配関係を読み解くこともできる。本授業は人文的・社会的なジェンダー研究の視点と方法を織り交ぜながら、映画、ドラマや広告のイメージや、映像文化の制作過程、メディアの受け手・利用者を分析する。	
	ジェンダーとメディアコミュニケーション A	「女性が輝く社会」などといわれて久しいが、果たして女性を取り巻く社会通念や仕事環境はどれほどの変化をみせているのだろうか。テレビ報道の世界でのキャリア形成をもとに、女性がキャリアを築くことの実験的キャリア論を展開する。具体的には、テレビメディアで女性が働くということの実際や、そこにあるジェンダーの問題、さらには、インタビュー取材などを通じて実践的なコミュニケーションについても論じる。その意味では、本講義にはメディアとジェンダー、さらにはコミュニケーションとジェンダーという二つの柱がある。講義は出来得る限り双方向の作法によって進め、関連な議論と疑問の提示を求め、女性が社会に出て生きる知恵や勇気を共に得ることを目的としている。	
	ジェンダーとメディアコミュニケーション B	「女性が輝く社会」などといわれて久しいが、果たして女性を取り巻く社会通念や仕事環境はどれほどの変化をみせているのだろうか。テレビ報道の世界で40年余のキャリアを形成してきたことを振り返り、女性がキャリアを築くことの実験的キャリア論を展開する。具体的には、テレビメディアで女性が働くということの実際や、そこにあるジェンダーの問題、さらには、インタビュー取材などを通じて実践的なコミュニケーションについても論じる。その意味では、本講義にはメディアとジェンダー、さらにはコミュニケーションとジェンダーという二つの柱がある。講義は出来得る限り双方向の作法によって進め、関連な議論と疑問の提示を求め、女性が社会に出て生きる知恵や勇気を共に得ることを目的としている。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科 共通 専門	グローバル コミュニケーション論	本授業では、様々な具体的な事例を通して、グローバル社会のダイバーシティについて学び、人種、ジェンダー、障がいの有無、年齢、宗教などの差異を互いに尊重し合うことの重要性について考える。誰もが生きやすい社会の構築に向けて、どのような視点や実践が求められているのか。取り上げるテーマは、スポーツ界における人種問題、国際結婚や異人種間結婚、アメリカの障がい児の教育支援などである。英語でコミュニケーションを行う際の英語表現マナーについても学び、グローバル化した現代社会に対応するための視座を身につける。	
	東西交流史	いずれの文明も、内部におけるモノや人の移動で完結するのではなく、外部の文明との交流が存続に作用する。この授業では、特にユーラシア大陸における各文明相互の交流の歴史を学ぶ。具体的には、古代・中世におけるシルクロードを中心とした東西交流や、インドから東アジア方面への仏教の伝播、モンゴル帝国によって形成された世界経済などを扱う。現在の我々が世界史を観察する場合、今の各国を分け隔てる国境線などを無意識に前提としてしまい、正確な把握ができなくなることが少なくない。この授業ではそうした固定観念を克服し、地球規模の歴史の流れをそのまま認識することを目指す。	
	世界の中の中国	今日中国はGDP世界第二位の経済大国であり、国際社会における存在感を高め続けている。しかしながら中国はこれまで国際社会においてどのような位置づけにあったのであろうか。この授業では、中国の近現代史を俯瞰しつつ、国際社会と中国の関係について紹介する。国際社会という「空間」的要素と歴史という「時間」的要素をともに踏まえることで、現在中国の置かれている立場をより深く理解することが可能となるであろう。	
	レトリカル・ コミュニケーション論	本講義の目的は、「言語コミュニケーション論」の上位科目（3年生以上科目）として、「説得的コミュニケーション」に特化した内容を学修することにある。モノやサービスの販売活動、友人への頼みごと、政治・経済における交渉ごとなど、私たちが日々行っているコミュニケーション活動には相手の気持ちや態度、行動に変化を与える説得的コミュニケーションが少なからずかかわっている。そうした説得的コミュニケーションの歴史的背景をひもとき、その定義、プロセスにかかわる三大要因、説得に關係する諸理論、説得のコミュニケーション・テクニック、そして説得的しかたに見られる文化的差異について学ぶ。また、アクティブ・ラーニングとして、「ウソ・偽り」の説得的コミュニケーション・ゲームである「人狼ゲーム」を行い、人はウソを見抜けるのか？見抜けたら、何からウソを見抜いているのかについても考える機会を設ける。最後に、異文化間における説得的あり方のちがいを見比べるために、日米2本の映画を見る機会を持つ。	
	理論言語学	本講義では言葉の成り立ちを理論言語学の観点から分析する。データは学生がその文法性を判断できる、あるいは感じられる言語として日本語および英語の分析をメインとする。理論言語学の中では主に統語論、意味論、音韻論を扱う。各分野の導入の授業を行い、その分野における具体的な問題を学生自身が分析することで、学生が自分が使用する言語とその運用に問題意識を持ち、言語と文化の関係をマイクロおよびマクロの両視点から理解し、全ての人間の産物である言語を話す人間として、人間とは何かというテーマに迫る。	
	研究調査法	本講義の目的は、言語研究・コミュニケーション研究には欠くことのできない各種研究・調査方法について理解を深め、実際に各自の卒業研究で活用できる知識と技術を身につけることにある。具体的には、質問紙による調査を念頭に置いた「量的調査法」とインタビューによる聞き取り調査（面接法）を念頭に置いた「質的調査法」の両面を取り扱う。量的調査に関しては、IBM社のSPSSを実際に使いながら、具体的な事例をもとに、収集したデータの集計および分析のしかた、分析時に使われる各種検定、検定時に算出される統計量の読み方等について理解を深める。一方、質的調査に関しては、インタビューによる聞き取り調査（面接法）について、その実施のしかた、質問の作成のしかた、聴き取った音声データの文字起こしのしかた、語られた内容の分析のしかた等について理解を深める。その他にも「参与観察調査」「実験」といった研究方法についても触れていく。	
	Linguistics	This course aims at learning the general linguistics knowledge, which in turn enables students to analyze how our languages function. The themes of this course are such as syntax, semantics, phonology, pragmatics, and some areas of applied linguistics. In each theme, students will not only learn its basic concept and knowledge but also analyze the real issue of our language. Students of this course will also observe the variety of languages inside Japan. In fact, there are varieties of languages and dialects inside Japan such as Japanese, Ainu language, Ryukyuu dialects and Japanese sign languages. Students will understand that "Japanese language" stands for the sum of these languages and dialects. In other words, Japan consists of all the elements of the speakers of these languages. (和訳) 本講義は、Introduction to Linguisticsに積み上げる形で、言語学の基本的な知識を学び、それを用いて、人間の言語の機能の仕方を学生が各自で分析できるようになることを目的とする。本講義で主に取り扱う言語学の分野は統語論、意味論、音韻論、語用論である。同時に、関連する応用言語学の諸分野についても適宜言及する。学生は各分野における学習を行うだけでなく、日本国内の様々な言語や方言にも触れ、「日本語」とは何か、そしてそれを話す「日本人」とは何者であるのかを、多言的な視野から学習する。	
	Intercultural Communication Studies	This course aims to systematically deepen students' understanding of intercultural and interpersonal communication research theories and practices so they can use them in their graduation theses. Specifically, we will deepen our understanding of various theories and practices used in cross-cultural communication research from the perspectives of "uncertainty reduction theory," "social penetration theory," "communicative style," and "attitudes toward language behavior." (和訳) 本講義の目的は、異文化および対人コミュニケーション研究における理論と実践について体系的に理解を深め、卒業論文で活用できる知識を身につけることである。具体的には、「不確実性低減理論」「社会的浸透理論」「コミュニケーション・スタイル」「言語行動に対する態度」といった観点から、異文化コミュニケーション研究で用いられるさまざまな理論と実践について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要 (外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Translation Studies	<p>This course addresses translation studies from both theoretical and practical perspectives. On the theoretical side, we explore the cultural and philosophical assumptions that underpin what might, on the surface, appear to be the 'simple' act of translation. We examine how some important Western theoretical writers established the guidelines by which later generations interpreted, reinterpreted and recreated texts. We consider some major theoretical writers of the twentieth century such as Walter Benjamin, Gideon Toury and Lawrence Venuti. We also look at translation theory from the specific cultural and historical context of Japan. Even in the fifth century, Japan was already borrowing from Chinese characters (kanji), Chinese writing styles (kanbun) and Chinese culture (poetry, the arts) in order to 'translate' its own Japanese culture into texts. And this predilection to translate the Japanese experience through external cultures continued into the Meiji Period, when translation played a vital role in the process of modernization. We also explore how Translation Studies has emerged in the last few decades as a field of study within Japan itself. On the practical side, students will be required to translate a range of texts—literary, historical, and factual—both from Japanese into English, and from English into Japanese.</p> <p>(和訳) この授業では、翻訳学を理論と実践の両面を取り上げる。理論面では、「単純」な行為に見える翻訳を支える文化的、哲学的な前提を探る。ヴァルター・ベンヤミン、ギデオン・トゥーリ、ローレンス・ヴェヌーティなど西洋の重要な理論家によって、テキスト解釈、再解釈、また再創造するガイドラインをどのように確立されたかを検証する。また、5世紀の時点で、日本はすでに漢字、漢文、中国文化(詩、芸術)を引用し、日本文化をテキストに「翻訳」していたという日本の文化的・歴史的背景、翻訳が近代化の過程で重要な役割を果たした明治時代まで続いた点について検討し、この数十年の間の翻訳学の展開を探る。実践面では、文学、歴史、事実など様々なテキストを日本語から英語へ、英語から日本語へ翻訳の実践を行う。</p>	
	英米文化研究入門	<p>主に現代のポップミュージックの歴史を題材に、その音楽を成立させた社会的・歴史的条件を考え、文化がいかに多様な要素によって構成されているかを学ぶ。アメリカにおける黒人音楽と白人音楽の分断と融合、メキシコやカリブ海などとの文化的交流、ネイティブ・アメリカン文化のポップミュージックへの寄与など、英米の現代文化を成立させている様々な事象について学び、そこから新たな文化や価値の創造へのヒントを得ることをめざす。</p>	
	世界の英語文学	<p>本授業では、世界の代表的な英語文学作品(詩、短編小説、映画、小説)を読み、それらが世界を取り巻く今日的な課題(環境、貧困、紛争、難民問題、移民問題、人種差別、所得格差、男女格差など)や人間の生の営みに纏わる普遍的なテーマをどのように提示しているかを考察する。授業では、文学テキストを分析し、解釈するためのスキルを身につけ、読解力、作文力、批判的思考力を養う。そのために、取り上げる個々のテキストを精読し、作品の歴史的、文化的、文学的背景を理解すると同時に、作品の形式、内容、言語について分析する。</p>	
	Introduction to English Literature	<p>This course aims to introduce poetry and prose fiction written in English and provide students with basic skills to analyze them. We will not only read poetry and prose fiction for pleasure but to critically examine each text. In class, we will close read the chosen texts and examine the context (historical, cultural, and literary), form (setting, narrative structure, narrative voice and focalization, plot, and tone), content, and language. On successful completion of this class, students should be able to 1) understand and appropriate historical, cultural, literary, and personal contexts to the text; 2) understand and appreciate the format and content of various literary texts examined throughout the course; 3) form nuanced and sophisticated interpretation by using various literary techniques and critical thinking approaches acquired throughout the course.</p> <p>(和訳) 授業は、英語で書かれた詩と散文小説を分析することによって、文学鑑賞に利用されるスキルとテクニクを紹介し、発展させることを目的とする。よって、詩や散文小説を読むことをただ楽しむだけでなく、それぞれのテキストを批判的に分析する。授業では、取り上げる詩や小説を精読し、それぞれの作品のコンテキスト(歴史、文化、文学)、形式(設定、物語構造、物語の声と焦点化、筋、調子)、内容、言語について考察する。この授業を通して、受講生はテキストの歴史的、文化的、文学的、個人的な文脈をより深く理解できるようになり、さまざまな文学的テキストの形式と内容を理解し、それらを評価することができるようになる。また、コースを通じて習得した様々な文学的手法やクリティカル・アプローチを用いて、ニュアンスのある洗練された解釈を形成できるようになる。</p>	
	北米文学	<p>主にアメリカ合衆国の文学の歴史をたどりながら、それがいかに多様な人種民族とその文化の歴史・文化によって構成されているかを学ぶ。アメリカという国家を形成してきた人々や価値観、社会などが文学作品にいかにかに表裏されているかを読み取りながら、そこに一国家の文学を超えた世界文学としての可能性を見出し、新たな時代のグローバルな文化や価値創造へのヒントを得る。</p>	
	イギリス文学	<p>この科目は、近現代イギリス文学を舞台芸術との関連において理解することを目的とする。ミュージカルやコメディなど、さまざまな舞台芸術は、文学のジャンル、戯曲をもとに上演されたものである。ここでは、とくにイギリスの社会思想劇を取り上げ、近現代のイギリス演劇が政治史・思想史との関連において、どのように展開したかを理解する。授業では、イギリス社会思想劇についての講義、戯曲(原文)の精読、舞台映像や映画作品の参照および受講生による議論により、イギリス文学と視覚文化である舞台とのかかわりを探求する。</p>	
	英語女性文学	<p>この科目は、英語文学における女性表象をジェンダー・セクシュアリティの点から考察することを目的とする。この授業では、一方でさまざまなテキストの女性表象の分析を通して、それらが例えば男性＝文明・論理、女性＝自然・直観のような単純な二分法に回収されていないかを検討することで、社会に根を張った因習的価値観とは何かを考える。また他方では、個々の主体意識の生成にジェンダーのみならず、人種・民族・階級・セクシュアリティなどの差異が複雑に絡まり合うという認識をもとに、テキストにおける女性表象の複雑さに焦点をあてる。授業では、講義および受講生による議論により、多様な女性表象を具体的に取り上げ、英語文学におけるジェンダー・セクシュアリティについて考察する。</p>	
	英語マイノリティ文学	<p>本授業では、代表的な北米のマイノリティ英語文学(小説、戯曲、詩、グラフィックノベル)を読む。マイノリティ英語文学は、1960年代の公民権運動、黒人運動、第二波フェミニズム運動が引き金となって、アメリカでは1970年代から、カナダでは1980年代から出版されるようになり、広く読まれるようになった。授業ではアフリカ系やアジア系作家によって書かれた北米マイノリティ英語文学テキストを中心に取り上げ、作品の歴史的、文化的、文学的背景を踏まえながら、作品の形式、内容、言語について分析し、テキストを解釈するためのスキルを身につけ、読解力、作文力、批判的思考力を養う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英米文化専門科目	English Literature	This course aims to introduce and expand upon skills and techniques utilised in literary appreciation by analysing poetry and prose fiction written in English. Over the semester we will conduct close readings of poetry and prose fiction for pleasure and to critically explore and examine each text. In class, we will close read the chosen texts and examine the context (historical, cultural, and literary), form (setting, narrative structure, narrative voice and focalization, plot, and tone), content, and language of each text. On successful completion of this class, students should be able to have a greater understanding of the historical, cultural, literary, and personal contexts to the text, and understand and appreciate the format and content of various literary texts examined throughout the course. They will move towards forming nuanced and sophisticated interpretations by using various literary techniques and critical thinking approaches acquired throughout the course. They will also discuss and share opinions regarding poetry and prose fiction written in English. (和訳) 本授業は、英語で書かれた詩と散文小説を分析することによって、文学鑑賞に利用されるスキルとテクニックを紹介し、発展させることを目的とする。よって、詩や散文小説を読むことをただ楽しむだけでなく、それぞれのテキストを批判的に分析する。授業では、取り上げる詩や小説を精読し、それぞれの作品のコンテキスト（歴史、文化、文学）、形式（設定、物語構造、物語の声と焦点化、筋、調子）、内容、言語について考察する。この授業を通して、受講生はテキストの歴史的、文化的、文学的、個人的な文脈をより深く理解できるようになり、さまざまな文学的テキストの形式と内容を理解し、それらを評価することができるようになる。また、コースを通じて習得した様々な文学的手法やクリティカル・アプローチを用いて、ニュアンスのある洗練された解釈を形成できるようになる。また、英語で書かれた詩や散文小説について議論し、意見を交換できるようになる。	
	Gender and Literature	This course aims to familiarize students with discourses on gender through reading literary works and theoretical texts. As is stated by the World Health Organization (WHO), gender is socially constructed. As a social construction, therefore, it necessarily differs from society to society and period to period. Furthermore, power operates on gender, creating inequalities, just as it does on other social and economic inequalities. Moreover, gender-based discrimination intersects with other discriminatory factors such as race, class, economic status, disability, gender identity and sexual orientation. By reading literary and critical texts about gender and sexuality, this class explores 1) how gender is "performed" in different cultures and historical periods; 2) how social gender norms influence the production and reception of literary texts; 3) how literary texts reproduce gender ideologies; and above all, 4) how existing gender norms and repressed identities are challenged, reimagined, and reconstructed in the selected texts. By the end of the course, students will be able to grasp the current debates relating to sexuality, the body, and gender role performance and analyze and critique socio-cultural gender constructions. (和訳) 本科目の目的は、ジェンダー、セクシュアリティ、身体に関する文学作品および批評テキストを読み、社会文化的なジェンダー構築の分析・批判ができるようになることである。ジェンダーは社会的に構築され、時代や国や民族や文化によって異なる。ジェンダーには、人種、階級、経済的地位、障害、性自認、性的指向など、他の差別的要因と交錯している。授業では、本テーマについて書かれた代表的な英語文学および批評テキストを読み、1) 異なる文化や歴史の時代においてジェンダーがいかに「演じられている」か、2) 社会的ジェンダー規範が文学作品の創作や受容にいかに関与するか、3) 文学作品がいかにジェンダー・イデオロギーを再生産するか、そして何よりも、4) 既存のジェンダー規範や抑圧されたアイデンティティがどのように問題提起され、再構築されているかを考察する。	
	ポストコロナル文化論	19世紀後半に成立した国民国家の概念と植民地主義／帝国主義がどのように結びついていたか、そして20世紀後半以降の後期資本主義システムと新自由主義／グローバリズムのなかで植民地主義がいかに再生産されてきたかを論じながら、ポップミュージックや映画、テレビなどのポップカルチャー作品を通じてポストコロナルな抵抗戦略がどのように展開されてきたかを分析する。アフリカ、中東、カリブ海、ラテンアメリカ、アジアなど多様な地域を対象とする。	
	イギリス文化論	この科目は、ヨーロッパ、旧大英帝国植民地との関係において歴史的に構築された、イギリス文化における国民意識の考察を目的とする。現代イギリス社会における国民意識形成に大きな影響を及ぼしたと考えられる「国民的」文学、「イギリスを代表する」芸術、国立劇場での上演、「イギリス」映画、「イギリス的」ファッションなどを取り上げ、そこに表象された統合的な国民意識、また同時に潜在する階級・移民・人種・ジェンダー・宗教の分断を照射する。授業では、講義および受講生による議論により、さまざまな文化表象のケースを具体的に取り上げ、世界との関係におけるイギリス固有の国民意識について理解を深める。	
	スポーツ文化論	スポーツの歴史を紐解くと、それぞれの時代の社会状況に大きく影響を受けている様を見ることが出来る。現代社会においても、スポーツは政治や経済と深く結びつき、それぞれの社会が持つ規範やその社会を構成する人々の価値観に規定されている。このようなことから、スポーツは人間の生活においてそれぞれの社会で固有の意味と価値を持って独自の領域を占める、ある種の「文化」として捉えることができる。本講義では、近代スポーツが発祥したイギリスとその現代化をおし進めたアメリカにおけるスポーツのあり様を比較したうえで、スポーツの文化的性格やその具体的内容、ならびにそれぞれの社会での機能について論じ、さらにスポーツと他の文化領域との相互関係についても講義していく。	
	アメリカ映画論	この授業では、映像、音、言葉の組み合わせからなる複合的メディアである映画の仕組みを製作プロセスに投入された意思決定にまで踏み込んで理解すると共に、アメリカ映画について制度、経済、文化、メディア、批評といった多面的な角度からとらえ、米国の起源とする多国籍メディア企業の生み出す文化産業の特性と歴史についても認識を深める。同時に、映画研究の基本を習得すると共に領域横断的に文化現象をとらえる能力を身につける。全体として、英語を用いることを前提にして授業をおこなう。	
	イギリスの歴史	「イギリス文化」とされるものの形成、変遷の過程を辿る。その構成要素が決して不動のものではなく、むしろ歴史的な変遷を経て今日に至っており、なおその途上にある点を明らかにする。前提として、イギリス史の基本的な流れと重要事項を確認する。次に一歩進んで、言語や法制度、さらには生産、消費、交換、あるいは家族形成のパターン、およびそれらに即応しつつ形成された人びとの思考、行動の様式を把握する。学んだ内容の中から、今を生きる私たちが、人間や社会のあり方を思索する際に役立つヒントを得る。	
	北米社会論	政治学、社会学、人類学、ジャーナリズムの研究成果、および米国のさまざまな一次資料や文書に依拠しながら、国際社会のなかでの米国の「覇権」とその影響力、日米関係の特殊性について考察すると同時に、米国内に抱える矛盾とパラドクスを、宗教、政治、人種差別と排外主義、文化的多様性、セキュリティへのパラノイア、両極化する「自由」概念、階級と経済的格差といった多面的な角度から考察する。全体として、英語を用いることを前提に授業をおこなう。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語圏の社会論	英語圏、すなわち英語が公用語となっている、あるいは、それを第一言語とする人びとが多数の地域の文化を明らかにする。それらの内には、イギリス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドのみならず、アジア、アフリカ、カリブ海諸島の一部地域も含まれる。前提として、各国の自然環境に即応した生産、交換、消費、あるいは家族形成のあり方、さらには、その過程で形成された法制度や慣習、人びとの思考、行動の様式を概観する。次に一歩進んで、差別、搾取、暴力ないし気候変動等に起因する諸問題への取組みを探る。そのことを通じて、グローバル化の下で生き抜くための能力、資質を養う。	
	植民帝国論	ヨーロッパ人、ないし彼ら、彼女らを祖先に持つ集団による、植民帝国の軌跡を辿り、その爪痕を探る。十字軍、レコンキスタ、東方植民に始まり、イベリア半島人による探検と征服、オランダ、イギリス、フランスによる環大西洋世界の創出と分解を経て、帝国主義から脱植民地化へと至る一千年史を概観する。その過程で、遠隔地交易の発展や、製造業の技術革新が促されたのみならず、人権論や民主主義等の普遍的な価値が育まれ、広まった。他方で差別、搾取、暴力が公然と行われ、罪なき人びとが生命や自由を奪われた。悪影響は今日にも及んでいる。これら両側面を理解した上で、現代のグローバル化を再考するヒントを得る。	
	国際関係論 A	この講義は、主にテレビメディアの報道・情報番組や現地取材に基づいた「実学」としての国際関係論である。具体的には、実際に現地を訪れ取材を重ねた国々について、そこにある「命題」、たとえば「戦争」「侵略」「テロ」といった国際関係の現実を、現在の国際情勢に照らし合わせながら、分析、検討を加えていく。また実際の国際報道の現場ではどのようなことが起きているのかについても、現地の映像を用いて分析・解説をしていく。その点では、ジャーナリズムの視点からの国際関係論でもある。講義は出来る限り双方向の作法によって進め、活発な議論を喚起していくことを目指している。国際社会のグローバル化の深化に基づく国際関係をより身近に理解することを目的としている。	
	国際関係論 B	この講義は、国際関係論Aで論じられなかった「命題」について、さらに理解を深めることを目的としている。例えば「人種差別」「難民」「貧困」などの問題が、国際関係にどのような影響を及ぼし、どのような問題や紛争をもたらしているのか、について検討する。また国際関係に多大な影響を及ぼす世界のリーダーたちと首脳外交の現場などについても、国際関係論Aと同様、現地での実際の取材経験やその際の映像などを提示し、分析と検討を加えていく。講義は出来る限り双方向の作法によって進め、活発な議論を喚起していくことを目指している。その際に重要なことは、「なぜ？」そのような事象が起きているかを、それぞれが考えることである。それによって国際関係の未来を俯瞰することを目的としている。	
	国際関係論 C	本授業では、文化の領域から国際関係論について学び、ナショナリズム、ポストコロニアリズム、オリエンタリズム、レイシズム、移民などの問題についての理解を深める。焦点の一つは、人の移動に伴う国家の移民政策の変遷である。世界的な移民の流れを外観した上で、ヨーロッパ系、アジア系、ヒスパニック系、イスラム系などに対するアメリカの移民政策の変遷をみる。二つ目の焦点は、日本人のグローバルな移動である。アメリカの西海岸・テキサス州・ハワイ州、カナダ、ペルー、ブラジルなどに渡った日系人の歴史的経験を相対的に学ぶ。	
	Introduction to Social and Cultural Studies	In this student-centered course, students are encouraged to move outside of their own cultural bubble to explore other cultures and societies both current and past. This course will cover discussions on the underpinnings in society and culture that drive change in the areas of politics, economics, gender issues, race, religion, and equality. Students working individually and collaboratively will research topics of their own choosing and then present their findings to the class in a variety of mediums. In this way, students will gain opportunities to improve on their technology and information literacy. (和訳) 学生は主体的な学びのなかで、自分自身の文化的枠組みから外に出て、異文化や他の時代を探求することが求められている。この講義では政治や経済やジェンダー問題、人種、宗教、平等などさまざまな領域での変化をもたらす社会的・文化的基礎構造についての議論を行う。受講生は自分の選択したトピックについて、個人作業および共同作業を通じて調査を行い、その成果について各種メディアを利用してプレゼンテーションを行う。また受講生は同時にこのプレゼンテーションを通じて自身のIT技術や情報リテラシーを向上させる。	
	Minority Studies	It is sometimes argued that Japanese society is populated by a largely undifferentiated and conflict-free community of citizens. This course aims to throw a light on various minority cultures within Japan in order to challenge that myth of Japanese homogeneity. We will examine a range of 'outsider' texts, both literary and historical, in order to gain a more complex understanding of what Japanese identity actually entails in the modern world. These texts include the experiences of Ainu, Okinawan, same-sex (queer), burakumin, Zainichi Kankokujin, and female communities within Japan. The texts will be placed within a broader context of the social, historical and political environments from which they emerged. By pushing students to question the conventional understanding of Japanese-ness, the course aims to demonstrate that Japanese society is not actually a single, undifferentiated body. Rather, Japanese society is formed from a range of conflicting voices, and no single one of these voices can speak on behalf of the whole of society. Indeed, it is the very diversity of these voices that creates the richness of Japanese culture. By participating fully in class discussions, students will learn how to make sense of literary texts from a wide range of social and cultural perspectives. (和訳) 日本社会は、分断や紛争のない社会であると主張されることもあるが、この講義では、日本国内の様々なマイノリティ文化に光を当て、日本人の均質性の神話に挑戦することを目的とする。ここでは、現代社会における日本人のアイデンティティとは何かを深く理解するために、文学的・歴史的ないわゆる「アウトサイダー」のテキストを検討する。アイヌ、沖縄、クィア、被差別部落、在日韓国・朝鮮人、日本女性などの経験が含まれるテキストを、社会的、歴史的、政治的な広い文脈の中に置く。日本社会は相反するさまざまな声によって形成されており、その多様性こそが日本文化の豊かさと考えられる。本講義では、受講生が議論へ参加することで、文学作品を様々な社会的・文化的視点で理解する方法を学ぶ。	
	多元文化論 (ヨーロッパ) A	この講義では、ヨーロッパ文化に含まれる多元性に関して、特に「自然」をヨーロッパがどのように多元的/重層的に理解してきたのか/理解しているのかという観点から紹介する。その場合に、多様な自然理解をヨーロッパの様々な哲学者・文学者などの重要な著作などで提起された具体的な議論を整理して、そうした整理を通してそれらの議論の特徴を具体的に分析する。基本的にクレープスの「自然倫理学」の構想の議論に依拠しながら、この分類整理を示した上で、それを具体的に評価し議論の素材とする。ヨーロッパの自然理解は主客二元論に基づくとして批判の対象になるが、しかし現実には多様で重層的であることを理解できるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語英米学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語英米演習科目	多元文化論 (ヨーロッパ) B	フランスには、キリスト教社会、その後の近代市民社会を通して、ユダヤ人がずっと存続し、様々な領域で自覚ましい活動を展開して、フランスの文化に影響を及ぼしてきた。しかし、ユダヤ人集団は決して単一で均質であるわけではなく、歴史も祭儀も生活習慣も言語も異なる、いくつかのユダヤ人集団が存在している。この授業では、1) ディアスポラの中で西欧に早くから定住した人々、2) レコンキスタで改宗や追放を被った人々、3) ボグロムやジェノサイドの中で東欧からやって来た人々、4) 北アフリカの諸国の植民地独立戦争の中でやってきた人々、など文化的に多様ユダヤ人の様相を明らかにしながら、フランスの社会的環境の中で展開したユダヤ人の社会的・文化的活動について考察する。	
	Ecocriticism	Ecocriticism has been described as the study of the relationship between literature and the physical world through a range of different academic disciplines (literary, history, cultural studies). It emerged during the 1970s both in response to a growing awareness and anxiety about humanity's destructive influence on the natural world, and also as a means to articulate solutions to these problems. This course will examine some of the many ways in which writers have taken up this theme. We examine, for instance, Eco-Apocalypse stories, the textual representation of humans in relation to other animals, environmental messages embedded within urban and rural narratives, and science fiction texts that deal directly with climate change. From a more specific Japanese perspective, we explore the Japanese traditional understanding of nature and the role of humans in the natural world. Following a new view of nature that emerged during the Meiji period, we consider some of the major negative environmental consequences in the post-war period: such as Minamata Mercury Poisoning in the 1950s, Yokkaichi Asthma (Zensoku) in the 1960s, and the 2011 Fukushima Nuclear Disaster. Finally, we consider ways in which Ecocriticism might continue to develop in future in response to the ongoing environmental crisis. (和訳) エコクリティシズムは、文学、歴史、文化研究などの学問分野に跨る、文学と物質の世界との関係についての研究である。この授業では、作家たちがこのテーマをどのような形で取り上げたかを検証する。一般的には、エコ・アポカリプスの物語、他の動物との関係における人間のテキストの表現、都市や農村の物語の中に埋め込まれた環境メッセージ、気候変動を直接扱ったSFのテキストなどを検討し、日本の視点からは、日本の伝統的な自然観と自然界における人間の役割を探索する。明治時代の新しい自然観、1950年代の水俣病、1960年代の四日市ぜんそく、2011年の福島原発事故など、戦後の環境破壊を考察し、現在進行中の環境危機に対して、エコクリティシズムの展開を探索する。	
	英語英米研究A	この授業では、卒業論文提出に向け、基礎的な研究手法を学ぶ。受講者が選択した分野について研究するにあたり、その分野でどのようなことが具体的に研究されているか、どのように研究していくのかなど、基礎的な知識を身につけ、また方法論を学んでいく。ゼミナール形式をとり、受講者は適宜口頭発表などを行う。これらを行うことで、より具体的な研究テーマ決定に必要な知見を蓄える。	
	英語英米研究B	この授業では、英語英米研究Aを基礎として、さらに発展させ、より応用的な作業に取りかかる。自身の関心に基づきながら、卒業論文のテーマを決定し、各分野に即した調査や、先行研究の収集などを行いつつ、途中経過を口頭発表する。そこで担当教員の指導を受けながら、より具体的な作業を進め、研究内容を高度化することを目指す。この授業の終了時には、卒業論文の大まかな構成が決定していることが望ましい。	
	卒業研究A	この授業では本格的に卒業論文執筆に取りかかる。国際教養演習Ⅱまでに調べた内容やアイデアを整理し、調査・考察を進めながら、論文の具体的なテーマを設定し、章立てなど、構成をさらに整えていく。そして作業内容を口頭発表し、担当教員の指摘を踏まえて修正しつつ、論文を執筆していく。この授業の終了時は卒業論文提出期限まで半年を切っているので、最低でも章立てなどの構成は決定していることが望ましい。	
卒業研究B	卒業論文提出までの数か月間に相当するこの授業では、卒業論文の完成と提出を目指す。国際教養演習Ⅲまでの作業を進めて執筆を続行し、途中担当教員の指導を受け、また場合によっては口頭発表を行う。これらの結果を踏まえて執筆し、期日までに完成させ、卒業論文として提出する。提出までの最終段階に相当するこの授業では、卒業論文完成・推敲に特化するのが望ましい。		

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	人間論	<p>福山女学園の教育理念「人間になろう」では、教育を通しての人間完成を目指している。本科目は、教育理念を具現化することを目指し、学生自身の可能性を開発し、将来の生き方についての見識を培うことを目的とするものである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(42 本山昇、26 滝本成人、5 鄭麗芸、6 堀田あけみ、23 米田公則、57 西田敏宏、12 石橋尚子、52 熊澤千恵/4回)</p> <p><自校教育>自校教育として、(1)本学園・本大学の理念・目的、(2)本学園・本大学の使命と歴史(自校史・沿革)について理解した上で、(3)教育理念とトータルライフデザインのつながりを理解する。</p> <p>(40 古田真司、9 西村和泉、18 亀井美穂子、27 谷口功、24 佐々木圭吾、67 吉本明宜、43 山田真紀、22 小松美砂/6回)</p> <p><トータルライフデザイン>キャリア教育の出発点とし、受動的学習態度から、能動的に自律的・自立的な学習態度への転換への一歩とする。具体的な内容は次のとおりである。</p> <p>(1)自己理解・思考力、(2)キャリア発達と教育、(3)ワークキャリアをイメージしよう、(4)産業とライフデザイン、(5)社会におけるデザイン思考、(6)未来を切り拓く「私」</p> <p>(42 本山昇、26 滝本成人、5 鄭麗芸、6 堀田あけみ、23 米田公則、57 西田敏宏、12 石橋尚子、52 熊澤千恵、40 古田真司、9 西村和泉、18 亀井美穂子、27 谷口功、24 佐々木圭吾、67 吉本明宜、43 山田真紀、22 小松美砂/5回)</p> <p><現代と人間>福山の教育理念と社会における現代的課題をリンクさせ、次のような内容に関する課題について理解し考える。</p> <p>(1)人や国の不平等、(2)教育、(3)環境、気候変動、エネルギー、(4)食育と健康、(5)医療と福祉</p>	オムニバス方式 共同
	思想領域 と表1 現	哲学	<p>教養として最低限習得しておきたい哲学に関する知識や思考法を、「正義」や「死」、「家族」「自由」「所有」といった具体的なトピックを取り上げつつ講述してゆく。そのことで受講者一人ひとりが自分自身のドクサ(思い込み)の囚われに自覚的になるとともに、多様な観点から物事や世界を眺め、必要に応じて批判的に(あるいはメタの視点から)考えることが可能となるような態度を身につける。また、コメントペーパーや期末のレポート課題への取り組みを通じて、自分なりに考えた事柄を説得力をもって他者に伝えるための表現力を養う。</p>
文学		<p>教養教育科目の「文学」は、日本文学・英米文学などの授業担当教員の各々の専門に基づき複数開講されている。各専門領域において様々な地域性・時代性に即して文学作品が教材として選択され、作品の読解・分析・解釈を中心に据えながら、言語に対する深い理解と関心、現代を生きる私たちの価値観がどのように形成され、どのような文化を創造していくかという問題に受講者が向き合えるよう、それぞれの授業が設計されている。本授業では、学問の性質上、受講者自身が考えて意見を記述・表現することが求められる。</p>	
芸術		<p>「芸術」は、『美術・芸術学』、『現代の舞台芸術』、『書芸術』、『オペラを通しての芸術』などのテーマを取り扱う。それぞれの分野の作品の鑑賞を通して理解と知識を深め、その芸術に関する歴史や文化的背景なども学ぶことにより、作品に対する豊かな鑑賞力を養うとともに分析力や考察力を高める。またこの授業を通して作品を鑑賞する方法や鑑賞の観点を修得する。授業は講義形式で行われ、DVDやビデオ映像などの動画資料やスライド資料などを用いて進められ、各分野の作品を鑑賞する機会も盛り込む。</p>	
心理		<p>科学的な研究方法によって明らかにされてきた人間の心理と行動のしくみについて理解することを目的とする。感覚・知覚、学習、感情・動機づけ、認知(記憶・思考・判断)、発達(新生児・乳幼児・青年・中年・老年)、対人関係、個人と集団(リーダーシップ、グループダイナミクス)、パーソナリティと人格・知能検査、心理的健康と援助、精神障害の特徴と心理療法といった代表的領域について、それぞれの基礎的な特徴を概説する。また、心理学研究の方法論(心理学における人間観及び実際の研究方法)について解説する。</p>	
言語		<p>教養教育科目「言語」は、日頃無意識ながら自由自在に使っている日本語を中心に、特徴的な語彙、文法そして語用面について言語意識を高めることを目標とする。日本語の運用能力向上の一助となるよう演習も取り入れる。語彙・文法面は、日本語環境で成長するなかで、まさに自然に習得しているため、質量両面でどれほど豊かな言語知識を有しているか、再認識できる領域である。他方、語用に目を向けると、敬語、オノマトペ、文字など日本語使用の場面を客観的に観察し、また外国語と比較をしながら、各自の言語行動を振り返る機会を提供する。</p>	
人類学		<p>人類学は「人類とはなにか」という問いに答えようとする学問分野である。教養教育科目の「人類学」では、人類に備わる二つの特徴に注目し、この問いにかかわる最新の知見を教授する。一つめは人類の生物学的特徴とその進化的背景を理解しようとする「自然人類学」の立場からの考察である。ここでは、人類の生物学的特徴のいくつかを、他の生物と比較しながら学び、人間を深く理解し客観的に見る力を養う。二つめは人類と他の生物の大きな差異の一つである文化に焦点を当てた「文化人類学」の立場からの考察である。こちらでは、文化の本質やその多様性を学び、社会的存在としての人間を多角的に捉えるための視座を獲得することを目標とする。</p>	
歴史		<p>この授業では、主に日本古代史～近世史までを範囲として概論的内容を中心に講義する。歴史という暗記科目という印象を持つ人も多いが、大学で学ぶ歴史の見方、考え方を涵養する。これに加え、授業を通して現代日本を知る上で、必要な知識や歴史を正しく知る学びの実践や一般的教養の向上のみならず、歴史的分析法を学び、論理的思考法を知ることが目的とする。授業回によっては、神話、昔話、童謡、絵本、詩、文字、通貨、食物などの具体的な対象を取扱い、時代ごとの文化や習俗を学ぶとともに現代との異同を考える。</p>	
法	<p>この科目では、「法」の一般的説明を行い、その後、民法、刑法等のうち、学生に関心があり、かつ法学上も基本的で重要と思われる論点について説明を行う。「法」を一般的、抽象的に学ぶだけでは困難も多いため、日常生活で身近な具体例を多く交えながら「法」に対する理解を深める。これらの学習を通して、法の現代社会における機能や存在意義を理解し、論理的思考力や表現力を涵養することを旨とする。授業は講義中心で進めるが、適宜映像資料を用いて理解の促進を図るとともに、教員と学生や学生同士での対話を行う。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史と城 社2 会	日本国憲法	この科目では、以下のトピック——①日本国憲法の根底にある立憲主義の考え方、歴史的背景と意義、②日本国憲法の三原則である「国民主権」、「平和主義」、「基本的な人権の尊重」、③日本国憲法で規定する政治や統治の規則、④日常生活での身近な事例や見聞きしたことのある社会問題と日本国憲法の関係——について学習する。憲法を一般的、抽象的に学ぶだけでは難解な面もあるため、具体例を多く利用して日本国憲法に対する理解を深めるとともに、条文や判例、学説の基本の理解をめざす。	
	経済	経済とは、社会でヒト、モノ、カネ、情報が生産され、取引され、流通・消費され、さらにはそれを繰り返す関係のことである。私たちの生活がどのような仕組みで成り立っているのかを、経済を通じて社会全体が形づくられていく過程を踏まえながら学んでいくのが経済学である。経済活動を単純化すると家計・企業・政府が担っているといえ、それぞれが社会においてどのような役割を果たしているのか、また、それぞれがどのようにお金をやりとし合い経済活動を展開しているかなどの経済の仕組みなどについて中心に学ぶ。	
	社会	この科目では、近代化、産業化、国際化、社会階層、ジェンダー、地域、エスニシティ、教育、家族、格差と貧困などのトピックを取り上げ、社会的な観点から社会現象・社会問題の構造や背景を解説する。「社会の常識」、「あたりまえ」を問い直す、という社会学が強みとする思考法を学習することで、私たちが生活する「社会」とはいかなるもので、どのように成り立ち、機能しているかについての理解を深め、社会問題や社会現象に対する視野を広げ、社会を批判的に検討する思考力、分析力を涵養することを目的とする。	
	地理	地理学とは地球上で生じる様々な事象を研究する学問であり、地誌・人文地理学・自然地理学に大別される。そこで本科目では、地理学の基礎的概念や用語について概説するとともに、地理学が自然現象、人文・社会現象をどのように記述・説明してきたかについて学ぶ。さらに地理学における重要な表現のひとつである地図の意義と役割を理解したうえで、地理学的な見方や考え方を習得するとともに、人間の生活がどのような空間や場所・地域をつくり出しているか、また、空間・場所・地域からどのような影響を受けているかについて分析する力を養う。	
	教育	現代の子どもの教育をめぐる様々な課題に焦点をあて、それらが現代の人間形成にどのような影響を及ぼしているのかについて考える。具体的には、教育と学習の意味、現代日本の教育問題、人間の発達の要因、生涯学習の意味と目的、教育の歴史、教育の思想、外国の教育事情、グローバル人材の育成について各授業の主題として扱い、また、教育行政、教育財政、家庭教育、初等・中等教育に関連する諸事象も適宜紹介し、学校を中心とした社会の教育システムにどのような意義を見出すかを考えていく。	
自然と城 科学3 技術	物理の世界	この科目では、物理現象を対象にして、原理原則に基づいて自然現象を理解する基礎を涵養する。理科系の予備知識、特に数学の知識を多くは前提とせず、人を取り巻く環境、身近な現象や単純な物理系を中心に講義しこれを取り扱う基礎的な手法や考え方を学ぶ。必要に応じて、簡単な実験等を行い、現象の観察、データの分析や予測を行えるようにする。これらを通して、自分自身と自然とのつながりを意識できる感覚を磨き、世界を科学的に理解する思考力を養う。	
	化学の世界	本科目の授業テーマは、生命の仕組みや環境問題といった一般教養を習得するための基礎となる化学である。私たちの身の回りの物質や現象は、「化学」と密接に結びついている。本授業では、身近な物質や生命現象について、分子レベルで理解し、論理的に考察できる能力の習得を目指している。化学の基礎理論、様々な無機・有機化合物の特徴や性質、物性、化学反応などについて説明する。また、高度な専門知識や、最新のトピックも随所に織り交ぜながら講義を進める。	
	環境の科学	気候変動 (climate change) を中心とした地球環境の変化は人間生活に大きな影響を及ぼしつつある。この科目では地球上の物質循環の仕組みを基盤として、地球および地域の環境問題の理解と、それらの解決策について考えることを目的とする。例えば気候変動の主要因とされる大気中の二酸化炭素濃度の上昇は、地球上の炭素循環に人間活動からの化石燃料由来の二酸化炭素が流入することによって引き起こされると考えられる。化石燃料の利用は私たちの生活に深く関わっており削減は容易ではないが、一人一人の理解と行動によって実現可能となる。この科目の履修を通じて行動する地球人となって欲しい。	
	地球の科学	46億年の歴史を持つ地球は、隣接する金星や火星とは異なり、大量の液体の水、高濃度の酸素が含まれた大気を持ち、生命活動に満ち溢れた惑星である。しかしながら生命誕生以降、複数回の全球凍結 (スノーボールアース)、小惑星の落下等による破滅的な環境変化に何度も見舞われ、5回の大量絶滅を経て現在に至っている。本科目では、地球の歴史を紐解きながら、地球と生命の共進化を理解し、その成果をもとに今後の地球環境を考えることを目的とする。	
	生命の科学	生命の科学は、近年、急速な発展を遂げつつある。特に分子生物学、分子遺伝学、再生医学など、「バイオの世界」には目を見張る進歩がある。本講義では、生命を取り巻くこれらの進歩の中から、生命科学を専門としない一般人にとっても教養として知っておくべき事項について、生命科学を広く、わかりやすく俯瞰しながら講義する。また、「進化」の視点から生命現象を眺めることによつて、生命とは何かの理解を深めることができる。本講義では、進化学の立場から、生命を、個々の事項としてではなく、体系的、総合的に把握することに努める。	
数理領 域 情 報 4	数理の世界	日常生活や学問・文化・芸術における数理現象の根底にはある種の構造が存在する。その構造を表現する手段として、数学という世界共通の言語が生まれた。数学を通して異なる数理現象間の関係や大局的な現象と局所的な現象の関係が明らかになる。この講義では、数を数える、数 (物) が変化する、割合 (率) を取るという素朴な行為の考察から、ローン返済や地震の大きさ、黄金比、円周率など身近な話題や経営や情報分野に関連する内容に至るまで幅広い数理対象を、難解な数式は用いず平易な表現により説明し、数学の面白さを伝える。	
	統計の世界	技術の進歩により容易に得られるようになった大規模なデータを分析するための基礎となる統計学の素養を身につける。実際のデータをもとに、実習を交えながら、基本的な統計量である平均や分散、複数のデータから求める相関係数や回帰分析などの求め方を学ぶ。また確率論から、二項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布、t分布などの確率分布を理解する。そしてこれらの分布を用いて行う母集団の平均などの推定や検定の仕組みについても触れる。	
	コンピュータと情報Ⅰ	本講義では、コンピュータおよびインターネットについて基礎的なしくみを理解するとともに、コンピュータでの実習を通じ、大学生として必要な情報リテラシーを身につける。具体的には、コンピュータのOSの役割や基本操作からはじめ、ワープロソフトを用いた文書作成、プレゼンテーションソフトによる資料作成と発表、電子メールのマナー、インターネットを利用するうえで知っておくべき著作権や個人情報取り扱いなどの情報倫理や情報セキュリティの知識について等、学生生活や社会生活を安全に過ごせる基礎的な情報活用力を養う。	
	コンピュータと情報Ⅱ	現代社会において問題解決プロセスを効率良く進めるためには、情報処理の基礎知識や基本操作の習得が不可欠である。本講義では、表計算ソフトを利用した複雑な計算、データの集計・分析、表の作成、適切なグラフ作成 (データの見える化)、データベースによる情報管理について学び、情報処理の基本概念的な理解および操作スキルを身につける。また、データベースの応用やwebページ制作など情報処理技術の応用的内容として学修し、学生生活や社会生活で役立つ発展的な情報活用力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語とコミュニケーション 領域5	外国語(英語A)	この科目では、英語の基礎的能力を育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意/不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力(=聞く、話す)の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力(=書く)、読解力(=読む)を伸長することを旨とする。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語(英語B)	この科目では、外国語(英語A)に続き、英語の基礎的能力をさらに育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意/不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力(=聞く、話す)の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力(=書く)、読解力(=読む)を伸長することを旨とする。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語(英語C)	この科目では、外国語(英語B)に続き、英語の基礎的能力をさらに育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意/不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力(=聞く、話す)の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力(=書く)、読解力(=読む)を伸長することを旨とする。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語(英語D)	この科目では、外国語(英語C)に続き、英語の基礎的能力をさらに育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意/不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力(=聞く、話す)の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力(=書く)、読解力(=読む)を伸長することを旨とする。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語(ドイツ語Ⅰ)	この授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、ドイツ語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。さまざまな練習を行うことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく身につけることを旨とする。具体的には、ヨーロッパ言語共通枠A1前半レベルの文法と表現を扱い、主に現在形で自分や他人を紹介する、身近な話題についてごく簡単な受け答えをする、簡単な文が書けること等を目標とする。また、ドイツ語圏の社会と文化についてもおりに触れて紹介し、ドイツ語圏やヨーロッパに対する理解を深める。	
	外国語(ドイツ語Ⅱ)	この授業は、「外国語(ドイツ語Ⅰ)」に続き、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、ドイツ語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。さまざまな練習を行うことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく身につけることを旨とする。具体的には、ヨーロッパ言語共通枠A1後半レベルの文法と表現を扱い、自分の希望を表現する、過去の出来事を報告する、身近な話題について相手と簡単な会話をし、一定の長さの文章が書ける等を目標とする。また、ドイツ語圏の社会と文化についても引き続き理解を深める。	
	外国語(フランス語Ⅰ)	この授業は、フランス語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得することを旨とする入門授業である。文法の修得のみに終わらず、フランス語を実践的に活用することを大切にしたい。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、現代世界に生きるため国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語(フランス語Ⅱ)	この授業は、外国語(フランス語Ⅰ)においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得することを旨とする基礎的授業である。文法の修得のみに終わらず、フランス語を実践的に活用できることを大切にしたい。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、現代世界に生きるための国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語(中国語Ⅰ)	この授業は、中国語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する入門授業である。中国語の文法規則の修得と、その実践的活用による会話力の上達を目指して進められる。言語レベルとしては、学期末に中国政府公認の中国語検定試験である漢語水平考「HSK1級」に合格点を取れることを目標にする。また、この授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語(中国語Ⅱ)	この授業は、外国語(中国語Ⅰ)において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎的授業である。中国語の文法規則の修得と、その実践的活用によって会話力のさらなる向上を目指して進められる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK2級」か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標にする。また、この授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語(ポルトガル語Ⅰ)	この科目では、ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身につけることを目的とする。特にブラジルポルトガル語の発音に慣れ、基本的な挨拶表現と直説法現在形の習得を目指す。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣、そして在日ブラジル人に関する内容もあわせて取り扱う。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返し行うとともに、状況を設定して日常会話の練習を行う。	
	外国語(ポルトガル語Ⅱ)	この科目では、「外国語(ポルトガル語Ⅰ)」に引き続き、ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身につけることを目的とする。特にブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、応用表現と過去時制を用いた自己表現ができるようになることを目指す。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣、そして在日ブラジル人に関する内容もあわせて取り扱う。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返し行うとともに、状況を設定して日常会話の練習を行う。	
	外国語(スペイン語Ⅰ)	この授業は、スペイン語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、スペイン語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。スペイン語の初級文法とその表現(主として現在形の動詞を用いた表現)を学びながら、スペイン語の発音ができ、簡単な会話ができるように練習していく。また練習問題を解くことによって、学んだ事柄を確認し、定着を図る。同時にスペインやラテンアメリカの文化、習慣、生活、世界遺産などについて触れ、興味を喚起し、スペイン語圏の国々の人々とのふれあいや旅を始める最初の一步を踏み出せるようにする。	
外国語(スペイン語Ⅱ)	この授業は、「外国語(スペイン語Ⅰ)」に続き、スペイン語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、スペイン語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。引き続き初級文法とその表現(感覚・好み・身体的事柄・気候・過去の出来事などを表す表現)を学びながら、簡単な会話ができるように練習していく。また練習問題を解くことによって、学んだ事柄を確認し、定着を図る。同時にスペインやラテンアメリカの文化、習慣、生活、世界遺産などについて触れ、興味を喚起し、スペイン語圏の国々の人々とのふれあいや旅を始める最初の一步を踏み出せるようにする。		

教養教育科目

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	外国語 (ハングルⅠ)	この科目では、①ハングルの読み書きができる、②文法の基礎をマスターする、③簡単な挨拶や会話ができる、の3点を目標とする。具体的には、韓国語の文字 (ハングル) を体系的に学び、発音の練習 (リスニングやスピーキング) を十分に行う。また、学習した基本的な表現を用いて簡単な文章を作る練習やドリル形式の練習を通じて学習したことの定着を図る。授業の予習・復習、さらには授業外での自習に役立つよう、辞書の使い方を学び、実践する。あわせて、韓国の文化、習慣を紹介し、それらに対する理解を深める。	
	外国語 (ハングルⅡ)	この科目では、①文法の基礎をマスターする、②簡単な読解や会話ができる、③履修後に韓国語学習を継続する力を身に付ける、の3点を目標とする。その上で、韓国語の様々な語彙や文法を学んでコミュニケーションの幅を広げること、辞書を用いて簡単な短文および新聞・雑誌記事などの内容を把握できるようになることをめざす。韓国語の語彙や表現における日本語との異同にも着目し、円滑なコミュニケーションのための知識を養う。韓国の文化、習慣に対する理解をさらに深め、学習意欲をさらに増進することをめざす。	
健康と領 域 ス ポ ー ツ	健康とスポーツの理論	健康の自己管理を学び、生活習慣病などを予防し、スポーツを通し人間として自立する術を身に付けることを到達目標とする。健康、病気・障害、運動・スポーツなどのテーマで学生生活の身近な問題から課題を見つけ、考え討論し学習する。 <オムニバス方式/全15回> (49 及川佐枝子/4回) はじめに健康の概念を学ぶ。飲酒・喫煙・薬物など嗜好品による健康影響について学び、正しい行動を考える。また地球温暖化なども含めた環境変化が及ぼす健康影響について学び、健康の維持と持続可能な社会の実現について考える。また生活習慣病や女性のやせなど、家族・社会の健康課題に焦点をあて解決法を考える。 (76 山田紀子/3回) 食事・生活習慣が及ぼす健康影響について学び、日々の食事の重要性を理解する。また運動から栄養と健康を考え、運動時に必要となる栄養素を知り、適切な食選択の方法を理解する。 (56 中嶋文子/1回) 女性の体の特徴について学び、妊娠出産に向けた若年時からの女性の体づくりを学ぶ。 (59 肥田佳美/1回) 社会資源のデジタル化について学び、自身の健康や食・運動習慣に無意識のうちに関心が持てるような活用方法を考える。 (48 生田美智子/1回) 運動の健康面での効果を学び、意識的に行う運動の重要性を知り自身の健康維持に必要な運動の実践を目指す。 (21 小林純子/1回) 身体を動かすことによってこころとからだに及ぼす効果を学ぶ。 (37 福田誠司/2回) 運動時に機能する体の箇所について学び、運動できる仕組みを理解する。また、運動中に起こり得る傷害の発生機序を理解し、発生予防の方法を考える。 (34 早川幸博/2回) 生活習慣病の発生機序について学ぶ。また運動時に起こる傷害に対する正しい救急処置の方法を学び、実践できるようになることを目指す。	オムニバス方式
	健康科学	この科目では、健康維持のための方法とそのメカニズムについて学習する。あわせて、生涯にわたる健康維持のための基礎的な知識を習得し、外敵を排除しそれを認識する免疫機構やワクチンの仕組みを学ぶ。具体的には、喫煙と健康、生活習慣病と正しいダイエット、免疫の歴史、概要・ワクチン接種、免疫成立の機序と複雑性、ウイルスの複製機序と新型コロナウイルス、免疫細胞の自己認識と排除等のテーマについて詳しく学習する。	
	スポーツ実習A	この科目では、スポーツを実践することによって健康的な生活を送る術を学習するとともに、体力を維持・向上させることを目的とする。加えて、生涯にわたって運動を行うことの重要性を学ぶ。また、実習でのグループワークを通して学生同士で助け合い、協力することにより、よりよい人間関係を構築し、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養する。 具体的なスポーツ種目として、卓球、バドミントン、コーディネーション、バレーボール等があり、自身が興味を持った科目を選択する。なお、この科目はスポーツ実習Bの履修有無にかかわらず履修が可能である。	
	スポーツ実習B	この科目では、スポーツを実践することによって健康的な生活を送る術を学習するとともに、体力を維持・向上させることを目的とする。加えて、生涯にわたって運動を行うことの重要性を学ぶ。また、実習でのグループワークを通して学生同士で助け合い、協力することにより、よりよい人間関係を構築し、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養する。 具体的なスポーツ種目として、卓球、バドミントン、コーディネーション、バレーボール等があり、自身が興味を持った科目を選択する。なお、この科目はスポーツ実習Aの履修有無にかかわらず履修が可能である。	
	ファーストイヤーゼミ	この科目では、初年次教育科目として、大学での学びの基本を学習する。具体的には、文献の読み方や要約の仕方、ノートテイキング、資料や文献の検索の仕方や図書館の利用法、アカデミックライティングの方法と注意事項、発表の仕方や発表資料の作り方、引用や参考文献の書き方と研究倫理、などのテーマについて学ぶ。あわせてパソコンを利用した文章やデータの作成方法の基礎についても学習する。演習科目のため、少人数形式で行い、学生同士でコミュニケーションを取りながら進める。	
	ジェンダー論入門	本講義では、ジェンダー概念を理解し、現代社会の抱える問題についてジェンダーの視点から考察することを通して、社会問題を解決するための思考と態度を身につけることを目的とする。そのために、ジェンダー概念を生み出し精錬してきたフェミニズムの思想と代表的な議論や論争などを取り上げ、個人の生き方と性が密接に関連していることを理解する。友人や恋人、家族、学校、職場、コミュニティや国家と、個としての私たちの関係を「ジェンダー」という視点から読み解く知識を獲得するとともに、ジェンダーに関連する時事問題への関心を高め、理解する力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要 (外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
トータル 領域 7 デザイン	生活と防災	<p>生命の危機に瀕する災害事態においてこそ、安全確保や生活支援を通して“他者との共生”を実現できる人材を育成するため、地震や豪雨などの自然災害のリスクを理解し、防災の多方面にわたる実践的知識を修得することを目標とする。そのために、本学内外の多彩な講師から、南海トラフ地震など想定される自然災害に対する最新の科学的な知識を修得するとともに、演習や実習など実技的な講習を通して、災害時的確な判断と適切な行動ができる能力・スキルを高めることで、地域防災に貢献できる知識・技能を身につける。(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(139 福和伸夫/1回) ホンネとホンキで大規模災害を凌ぐ (29 栢窪優二/1回) 災害と報道～東日本大震災を映像で語り継ぐ～ (118 坪木和久/1回) 地球温暖化と気象災害 (84 浦野愛/1回) 災害&防災、私たちにできることを考えよう (56 中嶋文子/1回) 災害時における女性の安全・安心学 (44 山根一郎/3回) 公助と防災情報の活用：ハザードマップ、気象情報の読み方 愛知県の防災対策について 災害時の心理、行動：正しく恐がるために (72 清水秀丸/1回) 建築の耐震安全性 (46 李敏子/1回) 被災者の心のケア (47 阿部順子/1回) 住宅と安全 (137 平山修久/1回) 都市インフラと災害情報のあり方について (87 岡田公夫/1回) 地震に対するの自助と共助 (50 門屋亨介/1回) 大規模災害時の食の備えと安全 (55 寺西美佐絵/1回) 災害時の医療：知っておきたい基本的な災害時医療の知識</p>	オムニバス方式
	思考のスキル入門	<p>かつてパスカルは「人間は考える葦である」と言った。しかし、情報化と複雑化が加速的に進む現代社会において、私たちはますます「考える」ことを失っているのではないか。では、考えることができるようになるためには何が必要なのだろう。本授業では、社会で実際に起こっている出来事(事例)にも目を向けながら、物事を批判的に思考し、自身の考えや意見を練り上げ、それを論理的に説明するスキルを身に付けるとともに、他者の立場に身を置いて物事を公平に捉えるエンバシーの能力をも涵養するためのトレーニングを行う。</p>	
	AI・データと社会	<p>社会においてデータサイエンスやAIが普及する中で、AIやデータサイエンスに関する基礎知識を身に付けることを目標とする。まず、社会で活用されているデータの形式について学んだうえで、データ・AIの活用領域や活用のための技術を学ぶ。また、データ・AIが活用されている事例について学ぶとともに、その最新動向を知る。後半の授業ではデータの基本的な読み方を学ぶとともに、データ・AIを扱う上での留意事項やデータ・AIを守る上での留意事項を学ぶ。また、データ構造やアルゴリズム、プログラミングの基礎についても学修する。そのうえで、データ・AIに関する応用的な技術や活用実践を学ぶ。(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(51 木田勇輔/1回) 人間の知的活動とAIの関係性について幅広く学び、AI・データサイエンスを学ぶ意義を考える。 (74 福安真奈/2回) 調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなどのデータ形式を学ぶ。 データ・AIの活用領域 導入データ・AI など様々な領域での活用の広がり(生産、消費、文化活動など)を紹介する。 (64 向直人/2回) データ解析(予測、グルーピング、パターン発見、最適化など)やデータ可視化の諸手法について学ぶ。 データサイエンスの手順について学び、データ・AI 利活用事例を少数ピックアップして学ぶ。 (66 矢島彩子/2回) AI等を活用した新しいビジネスモデルやAI 最新技術の活用例を紹介し、近年のトレンドを知る。 (71 塩澤友樹/2回) データの種類、分布、代表値とばらつきなど、記述統計学の基礎知識を学ぶ。 標本抽出、誤差、相関と因果など、推測統計学の基本的な考え方を学ぶ。 (61 松山智恵子/2回) ELSI、個人情報保護、データ倫理、アルゴリズムバイアスなど、倫理的な注意事項について学ぶ。 情報セキュリティ、匿名加工などの諸技術を知り、事故例から注意すべき点を学ぶ。 (30 鳥居隆司/2回) データの基本的な構造(数と表現など)について学び、プログラミングの基礎(変数など)を知る アルゴリズムの表現方法(フローチャート)を学び、ソートやサーチなどの基本的なアルゴリズムを知る。 (58 早瀬光浩/2回) 画像データの処理、画像認識、画像分類、物体検出など画像解析の基礎を学ぶ。 教師なし学習、教師あり学習について知り、いずれか(もしくは両方)の事例を学ぶ。</p>	オムニバス方式
ワークキャリア デザイン	<p>本学の目指すトータルライフデザイン教育の視点を踏まえ、大学生である現時点での自身の将来に関する考えや視点と、卒業後のキャリアに向けての働くことのイメージや価値を検討する。多彩なライフイベントとキャリア移行などと向き合い、生涯にわたって、自分らしく生きていくことを可能とする素地を涵養するため、十分な自己理解とワークライフバランスをはじめキャリアを理解する多様な視点を学習することを通じて、自身のキャリアデザインを構築するための知識と視点の獲得を目指す。</p>		

授 業 科 目 の 概 要				
(外国語学部国際教養学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	ビジネススキル入門	<p>社会で求められる「コミュニケーション力」の基礎となる「伝える力」を身に付け、論理的でわかりやすい文章を書く「ロジカルライティング」、自分の意図を明確に伝える「プレゼンテーション」の能力向上を目指す。また、情報収集力、論理的思考力、分析能力、傾聴力、話す力の向上のために「ディベート」を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(45 吉田あけみ/1回) 人は他者と関わり共同して暮らしているが、時にコミュニケーション障害が発生し、仕事上のトラブルや感情の行き違いが起こる。コミュニケーションの阻害要因を確認し、より良いコミュニケーションをとることの大切さを理解する。 (82 稲葉直子/7回) 毎回「聞く・話す・書く」のコミュニケーションワークを実施し、「判断する力・伝える力」を身に付ける。「ロジカルライティング」では、伝わりやすさ・分かりやすさを重視したライティング手法を学び、「根拠のある主張」を論理的な文章で書く力を養う。その後、学んだ手法を用いて、プレゼンテーション資料を作成し、説得的な「プレゼンテーション」を実践する。また発表後、学生が相互評価することで、自己成長を確認する。 (133 長谷部浩一/7回) 「ディベート」を行う。論題についてリンクマップを作成し、論理的に物事を検討する視野を養う。資料を集め、読み解き、分析して、多角的に検討して「立論」を作成する。反駁シートも準備して、試合に臨む。相手の主張を傾聴し、反駁した上で、自分たちの主張を論理的に展開する。チームで準備して、試合に臨むことによって、チームワークの大切さも学ぶ。</p>	オムニバス方式	
	キャリア形成実習Ⅰ	<p>企業や自治体等で、将来のキャリアに関連した就業を実際に体験する科目である。大学が定めた要件を満たす場合に単位認定する。まずは学内で事前指導を受け、実習の心構えや目標を学んだのちに、職場での就業体験を行う。日々の振り返りとして日報を作成し、企業担当者によるフィードバックを受ける。事後指導での振り返りや報告書の作成、報告会での成果発表によって、自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択や高い職業意識の形成に繋げる。</p>		
	キャリア形成実習Ⅱ	<p>「キャリア形成実習Ⅰ」に引き続き、企業や自治体等で、将来のキャリアに関連した就業を実際に体験する科目である。大学が定めた要件を満たす場合に単位認定する。まずは学内で事前指導を受け、実習の心構えや目標を学んだのちに、職場での就業体験を行う。日々の振り返りとして日報を作成し、企業担当者によるフィードバックを受ける。事後指導での振り返りや報告書の作成、報告会での成果発表によって、自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択や高い職業意識の形成に繋げる。</p>		
学部 共通科目	学部 基幹科目	地球市民論	<p>この授業は外国語学部に入学したすべての学生が、今後4年間は一切の学びの前提となる思考的枠組みを獲得するため授業である。現代世界に生きる私たちはなぜ外国語を学ぶ必要があるのか、この根本的な問いに立ち戻って、「地球市民」として生きるための足掛かりをつかみたい。日本語を母語とする受講者であれば、日本語のみで世界を了解し生活を営み続けることは、豊かな世界文化の把握としては不十分ではないのか、さらにはそこに倫理的な問題さえ提起されてしまうのではないのか。この授業は国や言語の境界を越えて生き思考する「地球市民」になるための第一歩である。 (オムニバス方式/全15回) (41 水島和則/3回) 国のメンバーシップのような近代社会の基本的枠組が現在どのように揺らいでいるのかを明らかにし、異なる背景(国籍、人種、宗教、階級、性別、性的指向性、障害など)をもつ人々が互いに意思疎通し協働するためのDE&I(Diversity, Equity & Inclusion)の取り組みについて考察する。 (3 加藤泰史/3回) 近代的「国家」はその推進力として「国民」を必要とした。この「国民国家」形成の過程で「パトリオティズム」と「ナショナリズム」との政治的相剋が生じると同時に、そこには「国語」形成の問題も複雑に絡む。これらの問題を通して「世界市民主義」の可能性を、ライブニッツ・カント・フィヒテに即して考察してみたい。 (31 長澤唯史/3回) 『ウルトラマン』シリーズ中の名作「故郷は地球」を書いた脚本家の佐々木守は、日本の先住民族や沖縄、アイヌ問題等を大衆向けドラマに織り込んでいた。その佐々木が共作した大島渚、そしてその二人の同時代人である三島由紀夫を並べ、国民国家を超えた地球市民のあり方について考えてみる。 (25 芝垣亮介/3回) 言語という全ての人間(地球市民)が共有している産物を分析することで、人間とは何ものであるかというテーマに迫る。そこでは、言語というものが、「全ての言語に共通の部分」と「各言語に固有の部分」で構成されていることを理解し、人間という生き物の核を形成する「全ての言語に共通の部分」の様態を観察し分析する。 (10 尹芷汐/3回) 日本文学は、日本人が日本語で書いたものと思われがちだが、日本語を用いた文学活動の範囲はそれをはるかに超える。20世紀における日系アメリカ人の文学や、植民地の日本語文学を概説しながら、日本語とグローバル社会との接触を考察したい。</p>	オムニバス方式
		Communicative English I A	<p>This course aims to develop students' understanding and use of English grammar through weekly listening, speaking, and writing activities. During this course, fundamental elements of English grammar will be covered, followed by a gradual introduction of more advanced grammar structures. The grammar covered in this course will help students to successfully participate in other Communicative English courses. It will also help prepare students for various standardized English tests such as TOEIC, TOEFL, and IELTS. (和訳) 本講義は、リスニング、スピーキング、ライティングのアクティビティを通し、英語の文法の理解と使用方法を伸ばすことを目的とする。本講義の中で、基礎的な英語の文法事項は網羅され、同時に、より難易度の高い文法構造を徐々に導入していくものである。本講義でカバーされる文法事項を学ぶことで、学生は、他の曜日のコミュニカティブ・イングリッシュの講義(コミュニカティブ・イングリッシュは週5回異なる内容で開講)の講義内容に問題なく対応できるようになる。本講義は、TOEIC、TOEFL、IELTSといった標準的な英語の資格試験への準備としても機能するものである。</p>	
		Communicative English I B	<p>This writing course introduces the writing process, paragraph writing, peer editing, revision and different ways to improve writing speed and fluency. Peer editing includes gaining the communication skills and language necessary to discuss improvements for focusing on structure, unity, in writing. By the end of the course, students should have built confidence in their ability to communicate their ideas clearly in English writing. (和訳) 本講義は英語のライティングに焦点を当てた講義である。具体的には、文の構成、段落の書き方、学生同士による相互編集(ピア・エディティング)や校正の仕方を学び、そして英作文の速度を上げ流暢さを向上させることを目的とする。学生同士による相互編集とは、コミュニケーションの技術や、英作文における全体的な構成や段落のまとまりについて議論するのに必要な言語を習得するといった要素を含むものである。本講義を通して、学生は英作文において自分の考えを明確に伝えることができるという自信を構築する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際教養学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語リテラシー科目 A	Communicative English I C	<p>This course aims to develop students' reading skills. Students will focus on building skills to develop reading comprehension, reading speed and vocabulary. In addition, students will be required to do extensive reading inside and outside of class. Over the semester, students will be introduced to various reading skills to help them develop their academic and test-taking proficiency skills while also aiming to create an affinity for reading for pleasure in English. In addition to developing their reading skills, students will also study vocabulary sourced from the New General Service List. Although predominantly focused on reading, students will be expected to share their ideas and discuss books and various short texts. This course combines teacher-led discussion with a learner-centred discovery approach.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義は英語のリーディングに焦点を当てた講義である。具体的には、学生は、英文の理解、読解速度、語彙の構築といった点における進歩を目指すものである。この目標を達成するために、学生は授業内に限らず、課題として、学外でもリーディングを行うことが求められる。本講義を通して、学生は学術的なリーディングやTOEIC、TOEFL、IELTSといった各種資格試験のリーディングに適応できる様々な技術に触れることになる。語彙については、New General Service Listの語彙を中心に習得する。本講義は、教員が牽引するディスカッションと学生中心の発見や探求を融合するスタイルを目指す。</p>	
	Communicative English I D	<p>This student-centered class will assist students to develop study skills, learner independence, collaborative learning, time management, critical thinking, and reflective practices. These skills will also be useful for other university classes. Students will attempt to apply study skills by focusing on features of vocabulary and studying for depth using high-frequency words from the New General Service List. By engaging in activities both individually and small groups, students will learn when it is more effective to work individually, and when to collaborate on projects. Reflective practices and discussion will help students become aware of individual learning strengths and weaknesses. Students will choose topics for reflection from a variety of themes such as time management, learning outcomes, and level of participation. Students will also use Microsoft Teams extensively through this course and other collaborative applications. The final project is a reflective multi-media digital time capsule of their first semester in university.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義は、英語の学習における学習者の自律、協同学習、クリティカル・シンキングといった要素を開発・発展させることを目的とする。内容としては、英語の言語としての学習という枠組みを超え、英語を用いて様々なアカデミックスキルを学習することを目的とする。具体的には、各授業の中では、学生は個人および少人数グループにおけるアクティビティを通じ、いつ個人で取り組み、いつグループのプロジェクトとして取り組むとより効率的かを理解する。本講義を通して、学生はタイムマネジメント、学習成果、授業参加度といった項目において能力を向上させる。学生は、学外でもICTを活用して協同学習を行い、マルチメディアを使いこなせる人材となることを目指す。</p>	
	Communicative English I E	<p>In this course, students will develop their speaking skills in both discussions and presentations. Students will do three mini projects: one on family, one on amazing women, and another on food. Each project involves research, critical thinking, a lot of discussion in class, and presentations. Students present and summarize their research in front of a small groups. Students also learn note-taking skills for presentations such as identifying keywords and creating and improving visual aids for presentations.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義では、学生がディスカッションとプレゼンテーションにおける英語のスピーキングの能力を向上させることを目的とする。トピックは家族、女性、食という3つのテーマであり、学生は各々についてプロジェクトをたてる。各プロジェクトは研究、批判的思考を経て成り立ち、ディスカッションとプレゼンテーションを通して遂行する。学生はプレゼンテーションを聴く際に英語でのノートテイキングを行う。そこでは、ノートテイキングのスキルとして、キーワードを英語で瞬時に同定する能力、図や表などをつくりビジュアル化する能力を向上させる。</p>	
	Communicative English II A	<p>This course aims to develop students' understanding and use of English grammar through weekly listening, speaking, and writing activities. During this course, fundamental elements of English grammar will be covered, followed by a gradual introduction of more advanced grammar structures. The grammar covered in this course will help students to successfully participate in other Communicative English courses. It will also help prepare students for various standardized English tests such as TOEIC, TOEFL, and IELTS.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義では、前期に開講されるコミュニカティブ・イングリッシュIAに積み上げる形で、英語の文法の理解を深める。そこでは、リスニング、スピーキング、ライティングに関するアクティビティを通して基本的な文法の知識を学習するとともに、より発展的な文法事項にも触れる。本講義の文法事項を学習することにより、学生は他のコミュニカティブ・イングリッシュコースで学習するスキルの土台を築く。また、本講義で取り扱う内容は各種資格試験の準備としても機能する。</p>	
	Communicative English II B	<p>This writing course reviews and builds on the previous semesters introduction the writing process, paragraph writing, peer editing, revision and different ways to improve writing speed and fluency. Students will discuss their ideas and think critically about their readers while creating several different ways of organizing paragraphs. By the end of the course, students should have increased their confidence in their ability to communicate their ideas clearly geared towards a specific audience in English.</p> <p>(和訳)</p> <p>本講義では、前期に開講されるコミュニカティブ・イングリッシュIBに積み上げる形で、英作文のスキルを向上させる。具体的には、学生は、前期で学んだ文の構築法、段落の書き方、学生同士の相互編集、校正といったスキルを復習し、より確度の高いスキルへと昇華させる。このためには、学生は自分のアイデアについて議論し、より批判的に思考することが求められる。本講義を通して、学生はライティングのスキルに対する自信を深め、読み手に対して自分の考えを明確に伝えることができるようになる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Communicative English II C	<p>This course aims to develop students' reading skills further. Students will focus on building skills to develop reading comprehension, reading speed and vocabulary. In addition, students will be required to do extensive reading inside and outside of class. Over the semester, students will be introduced to various reading skills while developing those learned in the first semester to help them develop their academic and test-taking proficiency skills while also aiming to create an affinity for reading for pleasure in English. In addition to developing their reading skills, students will further study vocabulary sourced from the New General Service List. Although predominantly focused on reading, students will be expected to share their ideas and discuss books and various short texts. This course combines teacher-led discussion with a learner-centred discovery approach based on slightly more advanced content than the first semester.</p> <p>(和訳) 本講義では、前期に開講されるコミュニカティブ・イングリッシュCに積み上げる形で、英語のリーディングのスキルを向上させる。具体的には、学生は、読解力を磨き、読解速度を上げ、より難易度の高い語彙の習得を目指す。学生は、より高度な学術的文献を読むことが求められ、TOEIC等の各種資格試験のリーディング問題に対する適応能力も向上させる。語彙の構築は、前期に続き、New General Service Listを利用して行う。本講義は英語のリーディングに焦点を当てた講義だが、読んだ文献に対する自分の意見を共有し、議論するべく、話すこととして書くことも適宜求められる。</p>	
	Communicative English II D	<p>In this project based CLIL class, students are responsible for the production of a short film. Working collaboratively, students will write an original screenplay, storyboard, direct, film, and edit the project. Using what they have learnt in Learner Training, students will individually and as a team, use the critical thinking strategies of analysis, evaluation, problem solving, and decision-making to successfully complete the film. Students will learn proper production techniques and application of technology for digital media projects. To support their performance, students will also learn pronunciation and voice control, breathing techniques, gestures, non-verbal communication, facial expressions, posture, and drama techniques to become better actors and communicators. At the end of the course, students will have a performance test, called The Monologue, to bring together everything they have learnt during the semester into a multi-media digital project that will be distributed throughout the faculty.</p> <p>(和訳) 本講義は、前期に開講されるコミュニカティブ・イングリッシュDに積み上げる形で、CLIL(Content Language Integrated Learning: 内容言語統合型学習)として、プロジェクトベースで進捗するものである。具体的には、学生は短時間の動画を制作する。そのために、学生は、協同作業を行いながら、独自のシナリオを制作、動画を収録、そしてその編集までを全て英語で行う。この作業の過程で、学生は、個人そしてグループにおいて、批判的思考、評価、問題解決、意思決定といった事項を英語で行うことになる。講義の最後に、学生は「The Monologue」と呼ばれる、各自がマルチメディアの活用に英語で挑戦し学んだ全てのことを語る場が設けられており、そこで評価を受ける。</p>	
	Communicative English II E	<p>In this course, students will develop their speaking skills in both discussions and presentations. Students will do two mini projects: one on movies and another on countries. Each project involves research, critical thinking, a lot of discussion in class, and presentations. Students present and summarize their research in front of a small groups. Students also learn note-taking skills for presentations such as identifying keywords and creating and improving visual aids for presentations.</p> <p>(和訳) 本講義では、前期に開講されるコミュニカティブ・イングリッシュEに積み上げる形で、英語のディスカッションとプレゼンテーションにおけるスピーキングのスキルを向上させることを目的とする。学生は、「映画」と「世界の国々」という2つのテーマについてプロジェクトをたてる。各プロジェクトは、調査、批判的思考といった要素を含む。学生はプレゼンテーションを行うだけでなく、同時にノートテイキングのスキルも身につける。これは、他者のプレゼンテーションのキーワードを瞬時に英語で書き留め、場合によっては図や表といったビジュアル化されたものをつくり、理解と記録を行うものである。</p>	
	ドイツ語 I A	<p>この授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIAはとくにドイツ語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIBの授業と連動して進められる。IAとIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。</p>	
	ドイツ語 I B	<p>この授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIBは、IAの授業で修得したドイツ語の文法知識を身につけるために、読解・発話・作文などドイツ語の実践的活用に重点を置く。IAとIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。</p>	
	ドイツ語 I C	<p>この授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このICは対話テキスト中心の教科書を使用し、ドイツ語の会話力を向上させることに重点を置く。IAとIBの授業を踏まえて、実践力をいっそう高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。</p>	
	ドイツ語 II A	<p>この授業は、ドイツ語I(A・B・C)においてドイツ語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIAはとくにドイツ語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIIBの授業と連動して進められる。IIAとIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語リテラシー科目B 学部共通基礎	ドイツ語 II B	この授業は、ドイツ語I (A・B・C) においてドイツ語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIBはIIAの授業で修得したドイツ語の文法知識を一層身につけるために、読解・発話・作文などドイツ語の実践的活用に重点を置く。IIAとIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	ドイツ語 II C	この授業は、ドイツ語I (A・B・C) においてドイツ語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIICは対話中心の教科書を使用し、ドイツ語の会話力を向上させることに重点を置く。IIAとIIBの授業を踏まえて、実践力をさらに高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	フランス語 I A	この授業は、フランス語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIAはとくにフランス語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIBの授業と連動して進められる。IAとIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	フランス語 I B	この授業は、フランス語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIBは、IAの授業で修得したフランス語の文法知識を身につけるために、読解・発話・作文などフランス語の実践的活用に重点を置く。IAとIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	フランス語 I C	この授業は、フランス語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このICは対話テキスト中心の教科書を使用し、フランス語の会話力を向上させることに重点を置く。IAとIBの授業を踏まえて、実践力をいっそう高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	フランス語 II A	この授業は、フランス語I (A・B・C) においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIAはとくにフランス語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIIBの授業と連動して進められる。IIAとIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	フランス語 II B	この授業は、フランス語I (A・B・C) においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIBはIIAの授業で修得したフランス語の文法知識を一層身につけるために、読解・発話・作文などフランス語の実践的活用に重点を置く。IIAとIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	フランス語 II C	この授業は、フランス語I (A・B・C) においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIICは対話中心の教科書を使用し、フランス語の会話力を向上させることに重点を置く。IIAとIIBの授業を踏まえて、実践力をさらに高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 I A	この授業は、中国語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIAはとくに中国語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIB・会話力を向上させるICの授業と連動して進められる。言語レベルとしては、学期末に中国政府公認の中国語検定試験である漢語水平考「HSK」1級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 I B	この授業は、中国語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このIBは、IAの授業で修得した中国語の文法知識を身につけるために、読解・発話・作文など中国語の実践的活用に重点を置く。言語レベルとしては、学期末に中国政府公認の中国語検定試験である漢語水平考「HSK」1級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 I C	この授業は、中国語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する一連の入門授業(A・B・C)の一つである。このICは対話テキスト中心の教科書を使用し、中国語の会話力を向上させることに重点を置く。IAとIBの授業を踏まえて、実践力をいっそう高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に中国政府公認の中国語検定試験である漢語水平考「HSK」1級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 II A	この授業は、中国語I (A・B・C) において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIAはとくに中国語の文法規則の修得に重点を置き、その実践的活用に重点を置くIIB・会話力を向上させるIICの授業と連動して進められる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK」2級か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中国語 II B	この授業は、中国語 I (A・B・C) において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIIBはIIAの授業で修得した中国語の文法知識を一層身につけるために、読解・発話・作文など中国語の実践的活用に重点を置く。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考試「HSK」2級か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標とする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 II C	この授業は、中国語 I (A・B・C) において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する一連の基礎的授業(A・B・C)の一つである。このIICは対話中心の教科書を使用し、中国語の会話力を上達させることに重点を置く。IIAとIIBの授業を踏まえて、実践力をさらに高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考試「HSK」2級か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標とする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	TOEIC 500 I	TOEIC400点以下に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 500 II	TOEIC400点以下に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 600 I	TOEIC400～550点に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 600 II	TOEIC400～550点に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 700 I	TOEIC550～650点に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 700 II	TOEIC550～650点に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	TOEIC 800+	TOEIC650～800点未満に準ずる英語レベルの学生が対象で、各パートの出問形式を抑え、目標スコアに応じた文法力、語彙力、速読力、タイムマネジメント力を習得する。英語を英語で考えるトレーニング法により、英語コミュニケーションにおける瞬発力や語句の使い分けが同時に養われることを期待している。TOEIC®L&R TESTは進学・留学・就職等で指標とされることが多く、英語でのコミュニケーション能力を判定するテストである為、このテストにおいて目標スコアを取得し、将来あらゆる分野でグローバルに活躍できる英語力を養うことを目的としている。	
	IELTS I	This course aims to introduce and expand upon skills and techniques used in the IELTS test by practising test-taking strategies and example questions for each test section. Over the semester, we will conduct mock test papers for each section while also focusing further attention on the speaking and writing sections of the test. The class will be split into an 'input' and a 'practice' session; the first 60 minutes will focus on knowledge of the test and exam techniques, while the final 30 minutes will be dedicated to practising past exam questions. (和訳) 本コースでは、IELTSテストで用いられるスキルやテクニックを理解し、テスト攻略法や各セクションの例題を演習することで、さらに実力を伸ばすことを目的とする。学期中には、各セクションの模擬試験を実施し、さらにスピーキングとライティングのセクションに重点を置いて学習する。授業は「インプット」と「実践」に分かれ、最初の60分はテストの知識と試験テクニックに焦点を当て、最後の30分は過去の試験問題の演習に充てる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語リテラシー科目C	IELTS II	This course aims to further expand and develop skills and techniques used in the IELTS test by practising test-taking strategies and example questions for each test section. Throughout this semester students will study more advanced vocabulary and other content to further increase their chances of a higher score. Students will also gain further experience by taking mock test papers of each section while focusing more attention on the speaking and writing sections of the test. The class will be split into an 'input' and a 'practice' session; the first 60 minutes will focus on knowledge of the test and exam techniques, while the final 30 minutes will be dedicated to practising past exam questions. (和訳) 本コースでは、IELTSテストで用いられるスキルやテクニックをさらに向上させるため、テスト攻略法や各テストセクションの例題を使った演習を行う。この学期を通して、より高度な語彙やその他の内容を学習し、より高いスコアを獲得することを目指す。また、スピーキングとライティングに重点を置きながら、各セクションの模擬試験を受け、さらに経験を積みます。授業は「インプット」と「実践」に分かれ、最初の60分はテストの知識と試験テクニックに焦点を当て、最後の30分は過去の試験問題の演習に充てられる。	
	TOEFL iBT I	This course is designed for students who aim to improve their results on the TOEFL test. While this is the primary goal, the overall content of the course will continue to improve the students' overall communicative competency in spoken and written English. Students will learn the basic structure of the TOEFL test through tasks that are designed to improve performance in the four sections: reading, listening, speaking, and writing. Students will frequently do timed activities that follow the structure of the TOEFL test. Students will complete several full-length practice tests in and outside of class. In each lesson, there will be Q&A sessions to discuss the answers to the class activities and practice tests. The structure of this class is similar to the fall semester; however, the content of activities and tasks are different. (和訳) 本コースでは、TOEFLテストの成績を向上させることを目的としている。それが主たる目標ですが、コースの全体的な内容は、生徒の英語の話し言葉と書き言葉の総合的なコミュニケーション能力を継続して向上させるものである。学生は、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4つのセクションのパフォーマンスを向上させるためのタスクを通じて、TOEFLテストの基本構造を学ぶ。また、TOEFLテストの構成に沿った時間制限のあるアクティビティを繰り返し行い、クラス内外で数回の模擬試験を実施する。各レッスンでは、アクティビティや模擬テストの解答について話し合うための質疑応答の時間を設けます。このクラスの構成は TOEFL iBT II と同様だが、アクティビティや 課題の内容は異なる。	
	TOEFL iBT II	This course is designed for students who wish to improve results on the TOEFL test. While this is the primary goal, the overall content of the course will continue to improve the students' overall communicative competency in spoken and written English. Students will learn the basic structure of the TOEFL iBT test through tasks that are designed to improve performance in all of the four sections: reading, listening, speaking, and writing. Students will frequently do timed activities that follow the structure of the TOEFL test. Students will complete several full-length practice tests in and outside of class. Each lesson, there will be Q&A sessions to discuss the answers to the class activities and practice tests. The structure of this class is similar to the spring semester; however, the content of activities and tasks are different. (和訳) 本コースでは、TOEFLテストの結果を向上させたいと考えている学生のためのコースです。これが第一の目標ですが、コースの全体的な内容は、生徒の英語の話し言葉と書き言葉の総合的なコミュニケーション能力を向上させることに変わらない。学生は、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4つのセクションすべてのパフォーマンスを向上させるためのタスクを通じて、TOEFL iBTテストの基本構造を学ぶ。また、TOEFLテストの構成に沿った時間制限のあるアクティビティを頻繁に行い、クラス内外で数回の模擬試験を実施する。各レッスンでは、アクティビティや模擬試験の解答について話し合う質疑応答を行う。このクラスの構成は TOEFL iBT I と同様だが、アクティビティや課題の内容は異なる。	
	資格ドイツ語 I	本学部では、ドイツ語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格ドイツ語Iの授業では、能力レベルの上限をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1に設定し、目指す外部試験に合わせて具体的に準備を行う。具体的には、学習者の総学習時間に相応しいドイツ語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にドイツ語の総合的能力を養成する。この試験は筆記問題と聞き取り問題から成るが、すべて選択式で解答する試験形態をとっており、授業では、適語補充や文構成、正誤判定など数多くの練習問題を利用して訓練する。	
	資格ドイツ語 II	本学部では、ドイツ語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格ドイツ語IIの授業では、能力レベルの上限をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA2に設定し、目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、ドイツ語技能検定試験3級試験から登場するやや複雑な文法についての訓練を重視する。受検が望ましい試験及びその水準は、1) ドイツ語技能検定試験の3級、2) オーストリア政府が公認したドイツ語資格試験であるÖSDあるいはGoethe ZertifikatのA2である。	
	資格ドイツ語 III	本学部では、ドイツ語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格ドイツ語IIIの授業では、能力レベルの上限をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のB1に設定し、目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、個人で学習するのが難しい口頭試験の訓練を重視する。受検が望ましい試験及びその水準は、1) ドイツ語技能検定試験の2級、2) オーストリア政府が公認したドイツ語資格試験であるÖSDあるいはGoethe ZertifikatのB1である。	
	資格フランス語 I	本学部では、フランス語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格フランス語Iの授業では、能力レベルの上限をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1に設定し、目指す外部試験に合わせて具体的に準備を行う。具体的には、学習者の総学習時間に相応しい実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にフランス語の総合的能力を養成する。この試験は筆記問題と聞き取り問題から成るが、すべて選択式で解答する試験形態をとっており、授業では、適語補充や文構成、正誤判定など数多くの練習問題を利用して訓練する。	
	資格フランス語 II	本学部では、フランス語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格フランス語IIの授業では、能力レベルの上限をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA2に設定し、具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、仏検3級試験から登場するやや複雑な時制や語法についての訓練を重視する。受検が望ましい試験及びその水準は、1) 実用フランス語技能検定試験の3級か準2級、2) フランス国民教育省が公認したフランス語資格試験であるDELFあるいはTCF（英語のTOEICに相当する試験）のA2である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	資格フランス語 III	本学部では、フランス語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格フランス語IIIの授業では、能力レベルの上限をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のB1に設定し、具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、個人で学習するのが難しい口頭試験の訓練を重視する。受検が望ましい試験及びその水準は、1) 実用フランス語技能検定試験の準2級か2級、2) フランス国民教育省が公認したフランス語資格試験であるDELFあるいはTCF（英語のTOEICに相当する試験）のB1である。	
	資格中国語 I	本学部では、中国語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格中国語Iの授業では、能力レベルの上限を漢語水平考「HSK」2級や中国語検定試験「中検」準4級に設定し、目指す外部試験に合わせて具体的に準備を行う。具体的には、学習者の総学習時間に相応しい漢語水平考「HSK」2級か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標に中国語の総合的能力を養成する。この試験は筆記問題と聞き取り問題から成るが、すべて選択式で解答する試験形態をとっており、授業では、適語補充や文構成、正誤判定など数多くの練習問題を利用して訓練する。	
	資格中国語 II	本学部では、中国語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格中国語IIの授業では、能力レベルの上限を漢語水平考「HSK」3級や中国語検定試験「中検」4級に設定し、具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、漢語水平考「HSK」3級や中国語検定試験「中検」4級試験から登場するやや複雑な時制や語法についての訓練を重視する。受検が望ましい試験及びその水準は、「HSK」3級や「中検」4級である。	
	資格中国語 III	本学部では、中国語学習者の習熟段階を客観的に測定するために、社会的に認知された外部試験を受験することを義務化している。この資格中国語IIIの授業では、能力レベルの上限を漢語水平考「HSK」4級や中国語検定試験「中検」3級に設定し、具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。具体的に目指す外部試験に合わせて準備を行う。とくに、個人で学習するのが難しい口頭試験の訓練を重視する。受検が望ましい試験及びその水準は、「HSK」4級や「中検」3級である。	
	日本語 I	本講義は日本語（JSL: Japanese Sign Language）という言語の概要の説明とその語学の授業の2部構成からなる。前半と後半の内容は、次のとおりである。 （オムニバス方式／全15回） （135 原大介／2回） 日本語とはどのような言語なのであるかということについてその歴史、現在の日本国内での位置付け、人工内耳との関係性を説明し、日本語が日本語対应手話とどう異なるのか、なぜ日本語は自然言語と認定できるのかについて説明する。 （146 松浦佳代／13回） 日本語のネイティブスピーカーによる日本語の語学の講義を行う。これはいわゆるナチュラルアプローチという手法による授業であり、日本語に関する知識が全くない状態から日本語を日本語で教えるというものである。	オムニバス方式
	日本語 II	本講義は日本語（JSL: Japanese Sign Language）という言語の概要の説明とその語学の授業の2部構成からなる。前半と後半の内容は、次のとおりである。 （オムニバス方式／全15回） （135 原大介／2回） 日本語とはどのような言語なのであるかということについて現在の日本でのろう者の教育背景、世界の手話との関係性から説明し日本語は自然言語としての性質を説明する。また世界の手話言語ということに関連し、国際手話がIS (International Sign) であり、ISL (International Sign Language) ではないことについても言及する。 （146 松浦佳代／13回） 日本語のネイティブスピーカーによる日本語の語学の講義を行う。これはいわゆるナチュラルアプローチという手法による授業であり、日本語に関する知識が全くない状態から日本語を日本語で教えるというものである。	オムニバス方式
言語アカデミック実践演習科目	言語アカデミック実践演習 A	この授業は、学部共通の「言語リテラシー科目」（A、B、C）において段階的に向上させてきた複数言語能力（英語に加え、ドイツ語あるいはフランス語あるいは中国語）を専門領域における研究に統合して、外国語による研究や調査を実践するための第1段階の演習授業である。一次資料や研究論文の収集と検討、またそれらを踏まえての、外国語をも利用した文書や口頭での発表と議論、などが中心となる。とりわけ、現代の人文科学研究において、インターネットを介した外国語の資料検索とそのようにして入手した資料の適切な利用の技法の修得は不可欠であり、この授業ではこうして点での実践的指導も重視する。	
	言語アカデミック実践演習 B	この授業は、「言語アカデミック実践演習I」を履修した学生を対象に、外国語を介した研究能力をいっそう発展させることを目的としている。一次資料や研究論文の収集と検討、またそれらを踏まえての、外国語をも利用した文書や口頭での発表と議論、などが中心となる。とりわけ、現代の人文科学研究において、インターネットを介した外国語の資料検索とそのようにして入手した資料の適切な利用の技法の修得は不可欠であり、この授業ではこうして点での実践的指導も重視する。次年度、外国語学部の最終年次において本格化する卒業論文作成のために必須の前提授業として位置付けられる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
グローバルスタディーズ科目	グローバル化論	現代をグローバル化の時代と捉えたうえで、国民国家や国民経済といった近代社会の前提となる枠組と、カネ・ヒト・モノの移動と矛盾から生まれた諸問題について考察する。国籍とシティズンシップ、国境管理、普遍的な人権と国家主権、(不法)移民の排斥、難民とディアスポラ、ポピュリズムと人種主義、多文化主義のジレンマ、移民国家日本の課題、といったテーマを取り上げ、とりわけ2つの世界大戦以降の世界が人種差別にどのように取り組んできたのかに焦点をあてる。	
	グローバル・エシックス	この講義では、まず規範倫理学の基本的な三類型(得倫理学・功利主義・義務論)を紹介した上で、応用倫理学としてのグローバル・エシックスとは何かをまずは「地球規模の問題に回答できる倫理学の構築」と位置づけて、グローバル化の急激な進展などに伴って生じた問題を明らかにするとともに、SDGsなどに含意されている人間の尊厳の尊重という倫理規範をカントの世界市民法思想にまで遡って検討する。こうした検討を通してグローバル化の問題点を理解することを目指す。	
	グローバル・ヒストリー	この授業は、21世紀の地球市民にふさわしい歴史認識をもつために、基礎的な知識と思考態度を共有することを目的としている。「日本史」・「フランス史」といったナショナル・ヒストリーの通念はもちろん、通常「世界史」と呼ばれる構造も再検討されることになる。地球的規模での世界が一体化した近現代世界は、その中心に西欧が位置し、非西欧世界の各地はそれをめぐる衛星と化し、一国民史であれ世界史であれ、そうした中心と衛星というシステムを基盤として構築されてきたと考えられる。この授業は何よりもこのシステムを相対化する作業を通して、現代世界の多様な問題を総合的に意識し、今後の世界を構想する方向を考えたい。	
コミュニケーションスタディーズ科目	異文化コミュニケーション論	本講義の目的は、異なる文化背景を持つ者同士のコミュニケーションにおいて、相互理解がいかに困難なことであるかを知り、その原因となる文化のちがいが人間のコミュニケーション行動におよぼす力の大きさを知ることにある。また、「文化」と「コミュニケーション」の関係を知ることで、異文化間における人間関係のあり方やその形成のしかた、そしてそれを発展させるための知識を獲得する。具体的には、まず、「異文化コミュニケーション」を理解するための枠組みとなる「文化」と「コミュニケーション」について理解を深める。次に、人間のコミュニケーション行動に現れる文化の影響を G. ホフステットの「文化可変性の指標(個人主義的文化-集団主義的文化/不確実性回避文化/権力格差文化/男らしい文化-女らしい文化/長期志向-短期志向)」を用いて理解する。また、文化によるコミュニケーション・スタイルのちがいで、E. T. ホールの「高/低コンテクスト・コミュニケーション・スタイル」を紹介する。	
	言語の機能	本講義では言語がどのように機能しているのかについて言語学全般に及ぶ観点から説明する。具体的には言語学の中でも、統語論、意味論、音韻論、語用論、言語習得論、社会言語学の観点から言葉の機能を説明する。各講義の中では、なぜ上記のような区分が必要になるのかを説明し、講義担当者がその概要を説明するだけでなく、各学生が自分の使用する言語が実際にどのように機能しているのかを分析する。言葉の成り立ちや機能をミクロな視点(理論言語学)とマクロな視点(応用言語学)から具体的に観察し分析することにより、我々の言葉の多面的な性質を理解することができる。	
	記号とコミュニケーション	「ことば」の研究と「文化」の研究を橋渡しする学問である記号学、記号論の基礎を理解し、その考え方をもとに文化とコミュニケーションとを学問的に分析する能力を養う。観察力を鍛える、コミュニケーションの文脈を操作する、心を動かす技術(=レトリック)を学ぶ、という三つの視点からコミュニケーションを研究する。言葉にとどまらず動画をも分析対象として、言葉・映像・音の組み合わせによってコミュニケーションをデザインする方法を学び、文化発信の能力を身につける。	
多元文化科目	多元文化論 A	この授業では、民族や宗教の次元におけるマジョリティ=マイノリティ関係を検討する。対象の中心に置くマイノリティ集団は、地球的規模で移動を繰り返してきたユダヤ人である。ディアスポラ・ユダヤ人は長くキリスト教社会とイスラム社会の中で差別や迫害を受けつつも、一神教の先駆者としてそれなりの位置づけを与えられてマイノリティ集団として存続してきた。そして20世紀半ば、国連の支持も受けてイスラエル国家を樹立し、そこでは自らマジョリティとなって内部にアラブ人集団をマイノリティとして抱え込むことになった。この授業では、そうしたグローバルに展開したユダヤ人の歴史を検討しながら、民族的・宗教的共生の困難について理解を深め、解決の方策を考察する。	
	多元文化論 B	英語圏の文学・文化を題材とし、それらがいかに多様な背景から生まれてきたのかを、英米の歴史や社会との関わりを通じて学んでいく。とくに小説の誕生やジャンルの展開に近代の社会がどのように関わっていたのか、そこに人種やジェンダーなどのアイデンティティ・ポリティックスがどのように寄与していたのかなどを分析することで、文化表象の背後にある多元的な要素やレイヤーを読み取る力を涵養する。	
	多元文化論 C	この科目は、公共圏における「表現の自由」について考察することを目的とする。公共圏における自由な言論や表現活動は、もともと質の異なる多元性に基づいているから、古来より現在に至るまで幾度となく摩擦が生じ、社会への影響力の大きさから政権による検閲の対象となってきた。この授業ではとくに公共圏の形成と深くかかわりながら発展した演劇に焦点をあて、古代ギリシャから現代までのおもに西洋演劇を扱い、「表現の自由」をめぐる公共圏の問題について、毎回別の国・時代の具体的なケースを講義および受講生による議論をもとに検討していく。	
海外文化研修プログラム	海外文化研修プログラム A	この科目は、海外協定校・機関でのさまざまな研修を通じて、外国語力のさらなる向上はもちろん、交流や異文化体験を通して、課題を見出す力、異なる背景の人たちと協働して課題を解決する力を養うことを目的とする。研修への参加により、毎日24時間外国を使用する環境の中で、外国語の運用能力を飛躍的に伸ばし、現地の社会、歴史などへの理解を深め、世界の中の日本という視点を獲得することができる。現地には4~7か月滞在し、600時間以上、以下のいずれか、もしくは複数の種類の研修を行う。1. 提携大学での授業の聴講、2. 文化交流プログラムへの参加、3. 語学研修機関における外国語の研修、4. その他、TAなどを含むボランティア等	
	海外文化研修プログラム B	この科目は、海外協定校・機関でのさまざまな研修を通じて、外国語力のさらなる向上はもちろん、交流や異文化体験を通して、課題を見出す力、異なる背景の人たちと協働して課題を解決する力を養うことを目的とする。研修への参加により、毎日24時間外国を使用する環境の中で、外国語の運用能力を飛躍的に伸ばし、現地の社会、歴史などへの理解を深め、世界の中の日本という視点を獲得することができる。現地には8~10週間滞在し、100時間以上、以下のいずれか、もしくは複数の種類の研修を行う。1. 提携大学での授業の聴講、2. 文化交流プログラムへの参加、3. 語学研修機関における外国語の研修、4. その他、TAなどを含むボランティア等	
	海外文化研修プログラム C	この科目は、海外協定校・機関でのさまざまな研修を通じて、外国語力のさらなる向上はもちろん、交流や異文化体験を通して、課題を見出す力、異なる背景の人たちと協働して課題を解決する力を養うことを目的とする。研修への参加により、毎日24時間外国を使用する環境の中で、外国語の運用能力を飛躍的に伸ばし、現地の社会、歴史などへの理解を深め、世界の中の日本という視点を獲得することができる。現地には4週間滞在し、100時間以上、以下のいずれか、もしくは複数の種類の研修を行う。1. 提携大学での授業の聴講、2. 文化交流プログラムへの参加、3. 語学研修機関における外国語の研修、4. その他、TAなどを含むボランティア等	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
海外文化研修プログラム 学部共通専門	Special Topics in English A	This course aims to develop students' speaking and critical thinking skills in conversation while developing an awareness of different aspects of filmmaking. Students will enhance their critical thinking by analysing stories, characters and other elements of films and discussing and debating these in small student-led groups. Students will engage in collaborative projects involving discussions to create and edit short films produced by the students. Over the semester, students will watch parts of a movie and look at different aspects of the film, such as character archetypes, filming location, sound effects and movie soundtracks. Students will analyse and discuss these different movies and create and edit their own short films. This course combines teacher-led discussion with a learner-centred discovery approach based on Task-Based Learning, Cooperative Learning while using all four skills. (和訳) 本コースでは、映画制作のさまざまな側面に対する認識を深めながら、会話におけるスピーキングと批判的思考のスキルを向上させることを目的としています。映画のストーリー、キャラクター、その他の要素を分析し、学生主体の小グループで議論することにより、批判的思考を高めます。学生は、学生が制作した短編映画の作成と編集のために、ディスカッションを含む共同プロジェクトに取り組みます。学期中、学生は映画の一部を鑑賞し、キャラクターの原型、撮影場所、音響効果、映画のサウンドトラックなど、映画のさまざまな側面に注目します。生徒は、これらの異なる映画を分析し、議論し、独自の短編映画を作成し編集します。このコースは、教師主導のディスカッションと、タスクベースラーニング、コーポレーティブラーニングに基づく学習者中心の発見アプローチを組み合わせ、四技能をすべて活用しながら学びます。	
	Special Topics in English B	This course is conducted in English. The furusato image occupies an important place in the political and cultural imagination of Modern Japan. It is a familiar trope in Japanese movies, songs and literature from the Meiji Period until the present day. The furusato has generally served as a sign of unease and sense of loss that many experienced as Japan modernized. This course examines various ways in which the furusato has function during the last 150 years. For example, some literary authors during the late Meiji, Taishō and early Showa periods employed the furusato as a rural idyll in order to criticise the negative aspects of everyday life in urban Japan. In reality, they were contributing to a general debate over idealized versions of Japan national identity. The course also explores representations of the furusato in post-1945 Japan in advertising, travel brochures, revisionist histories, as well as literary texts. Far from articulating any 'true' version of the past, the furusato image often points to a politically conservative and nativist vision of the future. This course aims to help students develop a stronger sense their own relationship with the past, and to point to deeper questions about what it means to be Japanese in the contemporary age. (和訳) この授業は、すべて英語で行い、近代日本における「ふるさと」をテーマとする。「ふるさと」のイメージは、近代日本の政治的・文化的想像力の中で重要な位置を占め、明治時代から現代に至るまで、日本の映画、歌、文学の中では馴染み深い表現である。「ふるさと」は一般に、日本が近代化する過程で多くの人が経験した不安や喪失感の表れとされてきたが、この授業では、この150年間に「ふるさと」がどのように機能してきたかを検証する。明治末から昭和初期の文学者は、都市への批判のために、「ふるさと」を農村の牧歌的な風景として利用したが、実際には、日本のナショナル・アイデンティティの理想像をめぐる一般論に貢献している。この授業では、1945年以降の日本における広告、旅行パンフレット、歴史修正主義者、文学作品における「ふるさと」の表象について検討し、受講生自身が過去と現在との関係へ理解を深め、現代、日本人であることの意味を問うことを目的とする。	
	Special Topics in German	この講義ではすべての内容をドイツ語で行う。取り上げるトピックは基本的にドイツ社会およびドイツ語をより良く理解できるための内容に工夫する。具体的には「ドイツ連邦基本法」の特徴を簡単に紹介し、そしてそれを踏まえてドイツ社会がどのようにナチスの過去と向き合ってきたのかや、どのように人間の尊厳を尊重してきたのかをヴァイツゼッカーの『荒野の40年』を通して紹介すると同時に、今般のコロナ禍でメルケルが2020年3月18日のテレビ演説でどのような人権政策を打ち出したのかを具体的にできるだけ分かりやすく分析して理解させる。	
	Special Topics in French	この授業は海外フランス語短期研修に参加しない学生を対象に、現地研修に近いプログラムを実践することを目的としている。担当教員はフランス語母語話者であり、教授言語はフランス語のみとし、受講者も教室内ではフランス語のみを使用することが原則となる。教科書としては、「外国語としてのフランス語」(FLE)を教えるフランス語教育機関でよく使用されている、日本人向けには特化していないものを使用する。受講者は教室をフランス語社会とイメージして履修することが望まれ、能力を越えた言語状況への対応力も高めることに努める。現代フランスの社会と文化の多様な側面に触れる機会となるよう、インターネットの活用、ゲームやスキットの実践、なども組み入れる。	
	Special Topics in Chinese	この授業は海外中国語短期研修に参加しない学生を対象に、現地研修に近いプログラムを実践することを目的としている。担当教員は中国語母語話者であり、教授言語は中国語のみとし、受講者も教室内では中国語のみを使用することが原則となる。教科書としては、「外国語としての中国語」を教える中国語教育機関でよく使用されている、日本人向けには特化していないものを使用する。受講者は教室を中国語社会とイメージして履修することが望まれ、能力を越えた言語状況への対応力も高めることに努める。現代中国の社会と文化の多様な側面に触れる機会となるよう、インターネットの活用、ゲームやスキットの活用、実践、なども組み入れる。	
	国際キャリアデザイン A	国内外問わずグローバルビジネスの場で、多国籍メンバーと意思疎通をはかり、プロジェクトを一緒に行うことを想定して、「世界標準」のコミュニケーションスキルを習得する。前半は1対1～数人の少人数の対話、議論、交渉の仕方を学ぶ。後半は、1対多数のコミュニケーションをテーマに、文化を問わず聴衆の心を動かすスピーチやプレゼンの仕方を学び、実践できるようにする。他文化の理解を深めるだけでなく、自分自身のコミュニケーション特性や日本文化の特徴を理解し、単なる欧米のコミュニケーションの模倣ではない、自分の強みを活かしたUniversal Communicationを確立する。	
国際キャリアデザイン B	前期で学んだ内容をベースに、グローバルビジネス(国内外含め)の場で直面する課題を発見し、解決策を考える力を養成する。また、新規ビジネス起ち上げのプロセスを6つのステップに分け段階的に学ぶことで、ビジネスの仕組みや仕事の意味を考え、社会課題解決としてビジネスを理解できるようにする。「社会課題とビジネス機会」→「ユーザーニーズ」→「提供する価値」→「仮説の設定と検証」→「試行錯誤と方針決定」→「効果的なピッチ」という6ステップをシミュレーションとして体験し、グローバルビジネスに必須のコミュニケーション力、課題解決力、発想力、発信力を身につける。		

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 キャリア 科目	国際キャリアデザイン C	「International House Career College」において、本学学生のため開講されるJ-SHINE一児童英語教育教授法講座に参加する。授業は午前と午後に分かれ、午前中の授業では日本人講師によって日本の小学校での英語教育に関する講義と実技指導が行われる。午後の授業ではカナダ講師によって児童英語教育に関する講義と実技指導が行われる。参加者はカナダ人宅にホームステイし、生活全般を通して英語運用能力の向上に努める。希望者はさらに2週間バンクーバーに滞在し、現地の教育施設において2週間の教育実習を行うこともできる。4週間プログラムの参加者は履修後J-SHINEに申請することにより「小学校英語指導者資格」を、また6週間プログラムの参加者は同様にして「小学校英語指導者資格」を取得することができる。	
	国際キャリアデザイン D	本授業では、音声認識ツールやAIの新たな可能性を探り、その結果として、卒業後のキャリアの中で包摂性が何を意味するのかを学生が自分自身で理解し学ぶ。授業の中では、音声認識ツールやAIの開発を行う企業と連携し、実験を通して音声認識ツールやAIの優位性や弊害を体感する。実験結果について議論・分析・発表するだけでなく、実験の過程を含む授業中に起こるすべての出来事について、授業に関わる全ての人たち（学生、企業のスタッフ、教員、ゲストスピーカー）が主体的に議論することで、まだ誰も気づいていない音声認識ツールやAIの可能性を掘り起こす。同時に、そういったツールの可能性や存在意義を追求することで浮き彫りになる人間の存在や思考の価値、社会のありようやその方向性を考察し、包摂性という現代のキーワードの本質に迫る。	
	国際キャリアデザイン E	この授業では、受講生は主にフランス・アルザス地方に滞在し、フランスにも拠点を置く日本企業関係者による、各社の展開する企業活動についての英語によるセミナーを受講する。また、企業訪問を通して、実際の業務の展開する現場に立ち合い、関係者と意見交換も行う。ヨーロッパ市場進出を見据えた日本企業へのサポートも行っているアルザス・欧州日本学研究所（CEEJA）の協力を得て行われる海外研修であり、英語力・異文化コミュニケーション力を大きく伸ばせることはもちろん、日本とは異なるビジネスの現状と将来について、理解をもつことができる。	
	国際キャリアデザイン F	航空事業の特性とそのオペレーションに関わる業務、顧客との接点を通じてサービスを提供する部門の業務内容を理解する。（現役のグランドスタッフや客室乗務員などから直接業務について話を聞く機会も設定し理解を深める。） 昨今、あらゆる産業で重要視されている「ホスピタリティ」について、概念から学び、エアラインにおけるホスピタリティの実践（おもてなし）例を通じて理解を深める。さらにホスピタリティを発揮する上で重要なコミュニケーションについて、講義と実習で体得する。グローバルかつ、変化のスピードが早く、予想が困難な時代の中で様々な人々の多様性に合わせて「ホスピタリティ」を発揮する意義について理解し、自ら考え行動できるようになることを目指す。	
	国際キャリアデザイン G	この授業では、あらゆる組織にとっての最重要課題であるDE&I（多様性・公平性・包摂）について、アクティブラーニング形式で実践的に学ぶ。DE&Iの中でも特に「エクイティ」概念に着目し、出発点からの不公平が存在している現代社会において、誰もが潜在的な力を発揮できるように障壁を取り除いていこうとする組織的な取り組みについて検討する。国内外の時事的な話題、メディア表象、企業の動向など、同時代的な事例を参照しながら、社会的少数者が直面している問題と、それを克服するための取り組みについて、ディスカッションや演習を通じて理解を深める。	
	社会関与プロジェクト A	ホスピタリティ系の職種をめざす学生を対象とした実践型授業で、客室乗務員のキャリアをもつ複数の講師が授業を担当する。授業テーマは「印象形成」で、バーバル・コミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーションにおける印象形成、自分自身の印象の意識化、自分の能力の可視化としての印象形成、好ましい印象を与えるための話し方、聞き方、自分自身がそうなりたい理想印象の作り方とめざし方、コミュニケーションを取るうえでの基準の明示化、などのスキルを実践的に学ぶ。	
	社会関与プロジェクト B	名古屋市の東山植物園ならびに星が丘テラスを運営する東山遊園とのコラボによる、産学官連携授業として実施。植物園と東山遊園が連携して進める「ボタニカルタウン」推進に大学が寄与することを目的に、実践課題を提示してのグループワークによる課題解決型授業をおこなう。持続可能な社会の実現という世界的課題と、自然との共生で育まれたサステナブルな日本の生活文化とを結びつけた新しい文化の創造と発信に寄与し、そうした文化を基盤とした国際交流を進めることがテーマである。このため、植物の生態や日本固有の花文化を学び直し外国人に説明できる知識を身につけると共に、文化交流や文化発信を行う英語力とコミュニケーション能力を養う。	
	社会関与プロジェクト C	倭寇のようにマイナス面で捉えられることも多いが鎌倉・室町時代九州・四国および日本海側新潟県付近の水上生活者の交易圏は現在の中国南東部・韓国・北朝鮮からモンゴルにまで及んでいた。これらの外国から輸入された絵画や漢籍は五山文学など寺院の文芸に、壺や茶碗は茶道具として、庶民の茶の湯に、織物は青織として能楽など芸能に大きな質的転換をもたらし、また日本の芸能人と渡来人社会は文化的に大きな影響を与えた。この様相を、主に室町期の漢詩・和歌と能・狂言について読みやすい絵入の版本を輪読しつつ演習形式で社会と文学との関わりについて考えたい。雅楽田楽能狂言神楽などは東海地域の民衆に伝えられ、地域の寺や神社の檀家や氏子に伝えられて市町村や県の無形民俗文化財となっているものが多い。令和の時代、これら民俗文化財の芸能は寺院や神社を離れ、小学校中学校高校などのクラブ活動を基盤として街の魅力発信を行い、次世代への継承を図っている。和歌や俳句なども市町村の文化協会所属の実作サークルが継承している。本講義では能狂言・棒の手・三河万歳など地元の小学校などで教えている地元の師匠やイベントプランナーの方にゲスト講師を積極的にお願ひして東海地域における無形民俗文化財の伝承の方法と未来への期待、現状の課題とこの講義を聴く祖山生への期待について語っていただく。受講生には伝統芸能や古典は地域に生きる庶民の愛好により伝えられていることに気づき、自分達が愛好者や習い伝える子供たちの父兄として関わることもあることを自覚し地域文化を守り育てる知識人階級としての指向性を涵養したい。	
	社会関与プロジェクト D	受け手の心を動かすエンターテインメントについて文章表現・視覚表現から考え、それらを形にして社会に発信することを旨とする。使用する言語が異なれば通用しない文章表現のみでなく、より多くの人に伝わりやすい視覚表現も対象とし、それでも留意すべき点は何かを考えて行く。自分が発信したいことと、想定される受け手のニーズを、どのように合致させるかについて、様々な要素を想定して考えを深める。また、思考を形にする手法についても学んでいく。実際にエンターテインメントの発信に関わるゲストスピーカーから指導を通して、発信者としての自意識を獲得する。	
社会関与プロジェクト E	日本における二大テーマパークである東京ディズニーランドと大阪にあるユニバーサルスタジオ・ジャパンは、もともとアメリカ由来のものである。自然をそのまま楽しむのではなく、文化性を持ったテーマに基づき最新テクノロジーによって人工的に造られたものの中で楽しみを得る仕掛けを有している。とりわけディズニーランドは、その本質は完全な環境コントロールに基づく非日常性を有し、そのコントロールの原則が現代社会の不安定で予測不能な要素を最小化する手法として多くの分野で取り入れられているという。本プロジェクトでは、本学部での学びの中にある文化性を人工的に再現し体験させるようなテーマパークを愛知県のセントレア空港に隣接する常滑臨空都市に建造する企画をグループで立て、その内容をプレゼンテーションするものである。このような経験を通して、「企画」に必要なリサーチ力や創造力、さらにはそのプロセスで発生するコミュニケーション力を養いたい。		

専門
教育
科目

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会関与プロジェクト F	本授業では、学生自身が、学外で英語教育や、異文化交流、多文化共生の理念を広げるための活動を計画し、プロジェクトの実践を通して、地域社会に貢献することを目指す。グローバル社会の中で、異なる文化的背景を持つ他者とも共感し合い、多様性を受け入れながらコミュニケーションを紡いでいくという姿勢を、学外の一般社会で広げていくためにはどうすれば良いのか。この課題に取り組む、学生が互いの個性を尊重しながら目的に向かって討議と準備を重ね、学外の教育機関への支援を通して、理念を広げる活動を実践する。	
学科 基幹 科目	国際教養研究基礎	日本文学や文化の発展には異文化接触が大きな影響を与えている。そこで、漢字受容と発展、平仮名・片仮名表記と文学と文化の関り、仏教受容と神仏習合や本地垂迹と日本文化の変容（浦島太郎など室町時代物語をテーマとする）、絵画表現など美術品と東アジアの影響、中世後期の西欧との接触と文化変容や美の概念の受容と発展、出版文化、特に絵写本や古活字本、木版印刷の発展と文字表現、和紙とは何かなどのトピックから日本と諸外国との接触により日本文化がどのように変化し、現代日本の基礎が形成されているかを考察する。なお、それぞれのトピックはできるだけ、現物を触り、その違いを感じたり、和紙の研修旅行、美術館での研修などでその変容の過程を実際に見る授業を実行する。	
	ドイツ語 コミュニケーション I	この授業は、ドイツ語I (A・B・C) においてドイツ語の入門的な知識と運用能力を身につけ、ドイツ語II (A・B・C) においてドイツ語能力の上達をはかりつつある学生を対象にして、ドイツ語の実践的能力をいっそう向上させることを目的としている。教室内の使用言語は、原則ドイツ語オンリーとする。内容的には比較的単純な日常生活の場面でのコミュニケーションが中心となるが、基礎的なドイツ語を使用して社会的行動者となる言語的・文化的能力の修得が重要となる。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標とする。	
	ドイツ語 コミュニケーション II	この授業は、ドイツ語I、ドイツ語II、およびドイツ語コミュニケーションIをすでに受講し、またドイツ語III (A・B・C) においてドイツ語能力の上達をはかっている学生を対象にして、ドイツ語の実践的能力をいっそう向上させることを目的としている。教室内の使用言語は、原則ドイツ語オンリーとする。内容的にはやや複雑な日常生活の場面でのコミュニケーションが中心となるが、基礎的なドイツ語を使用して社会的行動者となる言語的・文化的能力の修得が重要となる。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験3級に合格点を取れることを目標とする。	
	ドイツ語 III A	この授業は、ドイツ語II (A・B・C) においてドイツ語の基礎的な知識と運用能力を身につけ始めた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎教育課程最終段階の一連の授業(A・B・C)の一つである。このIIIAは、ドイツ語の基礎的な文法知識の修得を完了することに重点を置き、その実践的活用に重点を置くIIIBの授業と連動して進められる。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験3級に合格点を取れることを目標とする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	ドイツ語 III B	この授業は、ドイツ語II (A・B・C) においてドイツ語の基礎的な知識と運用能力を身につけ始めた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎教育課程最終段階の一連の授業(A・B・C)の一つである。このIIIBはIIIAの授業で修得したドイツ語の文法知識を一層身につけるために、読解・発話・作文などドイツ語の実践的活用に重点を置く。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験3級に合格点を取れることを目標とする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	ドイツ語 III C	この授業は、ドイツ語II (A・B・C) においてドイツ語の基礎的な知識と運用能力を身につけ始めた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎教育課程最終段階の一連の授業(A・B・C)の一つである。このIIICは対話中心の教科書を使用し、ドイツ語の会話を獲得することに重点を置く。IIIAとIIIBの授業を踏まえて、実践力をさらに高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験3級に合格点を取れることを目標とする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるドイツ語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	ドイツ語 IV A	この授業は、ドイツ語III (A・B・C) においてドイツ語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する発展的授業(A・B)の一つである。内容的には日常的な事柄を越えて、時事問題や学術的テーマについて、ドイツ語で対応できる能力を修得することに重点を置くが、このIVAではとくに、インタビューやニュース番組の聞き取り、文書や口頭による意見の表明、などの上達に力を注ぐ。言語レベルとしては、IVA・IVBを終了後にドイツ語技能検定試験2級に合格点を取れることを目標とする。また、グローバル化の進む現代世界について、ドイツ語を媒介にして理解を深め、自ら発信できる能力を養うこともこの授業の重要な目的となる。	
	ドイツ語 IV B	この授業は、ドイツ語III (A・B・C) においてドイツ語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する発展的授業(A・B)の一つである。内容的には、日常的な事柄を越えて、時事問題や学術的テーマについて、ドイツ語で対応できる能力を修得することに重点を置くが、このIVBでは、とくに新聞記事や論述文の読解などの上達に力を注ぐ。言語レベルとしては、学期末にドイツ語技能検定試験2級に合格点を取れることを目標とする。また、グローバル化の進む現代世界について、ドイツ語を媒介にして理解を深め、自ら発信できる能力を養うこともこの授業の重要な目的となる。	
	フランス語 コミュニケーション I	この授業は、フランス語I (A・B・C) においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけ、フランス語II (A・B・C) においてフランス語能力の上達をはかりつつある学生を対象にして、フランス語の実践的能力をいっそう向上させることを目的としている。教室内の使用言語は、原則フランス語オンリーとする。内容的には比較的単純な日常生活の場面でのコミュニケーションが中心となるが、基礎的なフランス語を使用して社会的行動者となる言語的・文化的能力の修得が重要となる。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標とする。	
	フランス語 コミュニケーション II	この授業は、フランス語I、フランス語II、およびフランス語コミュニケーションIをすでに受講し、またフランス語III (A・B・C) においてフランス語能力の上達をはかっている学生を対象にして、フランス語の実践的能力をいっそう向上させることを目的としている。教室内の使用言語は、原則フランス語オンリーとする授業である。内容的にはやや複雑な日常生活の場面でのコミュニケーションが中心となるが、基礎的なフランス語を使用して社会的行動者となる言語的・文化的能力の修得が重要となる。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験3級に合格点を取れることを目標とする。	
フランス語 III A	この授業は、フランス語II (A・B・C) においてフランス語の基礎的な知識と運用能力を身につけ始めた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎教育課程最終段階の一連の授業(A・B・C)の一つである。このIIIAは、フランス語の基礎的な文法知識の修得を完了することに重点を置き、その実践的活用に重点を置くIIIBの授業と連動して進められる。IIIAとIIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験3級に合格点を取れることを目標とする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科共通基礎 外国語科目	フランス語 III B	この授業は、フランス語II (A・B・C) においてフランス語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎教育課程最終段階の一連の授業(A・B・C)の一つである。このIIIBはIIIAの授業で修得したフランス語の文法知識を一層身につけるために、読解・発話・作文などフランス語の実践的活用に重点を置く。IIIAとIIIBは共通教科書を使用する。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験3級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	フランス語 III C	この授業は、フランス語II (A・B・C) においてフランス語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎教育課程最終段階の一連の授業(A・B・C)の一つである。このIIICは対話中心の教科書を使用し、フランス語の会話力を獲得することに重点を置く。IIIAとIIIBの授業を踏まえて、実践力をさらに高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験3級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	フランス語 IV A	この授業は、フランス語III (A・B・C) においてフランス語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する発展的授業(A・B)の一つである。内容的には日常的な事柄を越えて、時事的問題や学術的テーマについて、フランス語で対応できる能力を修得することに重点を置くが、このIVAではとくに、インタビューやニュース番組の聞き取り、文書や口頭による意見の表明、などの上達に力を注ぐ。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験準2級から2級に合格点を取れることを目標にする。また、グローバル化の進む現代世界について、フランス語を媒介にして理解を深め、自ら発信できる能力を養うこともこの授業の重要な目的となる。	
	フランス語 IV B	この授業は、フランス語III (A・B・C) においてフランス語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する発展的授業(A・B)の一つである。内容的には、日常的な事柄を越えて、時事的問題や学術的テーマについて、フランス語で対応できる能力を修得することに重点を置くが、このIVBでは、とくに新聞記事や研究論文の読解などの上達に力を注ぐ。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験準2級から2級に合格点を取れることを目標にする。また、グローバル化の進む現代世界について、フランス語を媒介にして理解を深め、自ら発信できる能力を養うこともこの授業の重要な目的となる。	
	中国語 コミュニケーション I	この授業は、中国語I (A・B・C) において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけ、中国語II (A・B・C) において中国語能力の上達をはかりつつある学生を対象にして、中国語の実践的能力をいっそう向上させることを目的としている。教室内の使用言語は、原則中国語オンリーとする。内容的には比較的単純な日常生活の場面でのコミュニケーションが中心となるが、基礎的な中国語を使用して社会的行動者となれる言語的・文化的能力の修得が重要となる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK」2級か、中国語検定試験「中検」準4級に合格点を取れることを目標にする。	
	中国語 コミュニケーション II	この授業は、中国語I、中国語II、および中国語コミュニケーションIをすでに受講し、また中国語III (A・B・C) において中国語能力の上達をはかっている学生を対象にして、中国語の実践的能力をいっそう向上させることを目的としている。教室内の使用言語は、原則中国語オンリーとする授業である。内容的にはやや複雑な日常生活の場面でのコミュニケーションが中心となるが、基礎的な中国語を使用して社会的行動者となれる言語的・文化的能力の修得が重要となる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK」3級か、中国語検定試験「中検」4級に合格点を取れることを目標にする。	
	中国語 III A	この授業は、中国語II (A・B・C) において中国語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎教育課程最終段階の一連の授業(A・B・C)の一つである。このIIIAは、中国語の基礎的な文法知識の修得を完了することに重点を置き、その実践的活用に重点を置くIIIB・会話力を上達させるIIICの授業と連動して進められる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK」3級か、中国語検定試験「中検」4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 III B	この授業は、中国語II (A・B・C) において中国語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎教育課程最終段階の一連の授業(A・B・C)の一つである。このIIIBはIIIAの授業で修得した中国語の文法知識を一層身につけるために、読解・発話・作文など中国語の実践的活用に重点を置く。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK」3級か、中国語検定試験「中検」4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 III C	この授業は、中国語II (A・B・C) において中国語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎教育課程最終段階の一連の授業(A・B・C)の一つである。このIIICは対話中心の教科書を使用し、中国語の会話力を獲得することに重点を置く。IIIAとIIIBの授業を踏まえて、実践力をさらに高める授業であり、担当教員にはネイティブ話者を充てる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK」3級か、中国語検定試験「中検」4級に合格点を取れることを目標にする。また、この一連の授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	中国語 IV A	この授業は、中国語III (A・B・C) において中国語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する発展的授業(A・B)の一つである。内容的には日常的な事柄を越えて、時事的問題や学術的テーマについて、中国語で対応できる能力を修得することに重点を置くが、このIVAではとくに、インタビューやニュース番組の聞き取り、文書や口頭による意見の表明、などの上達に力を注ぐ。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK」4級か、中国語検定試験「中検」3級に合格点を取れることを目標にする。また、グローバル化の進む現代世界について、中国語を媒介にして理解を深め、自ら発信できる能力を養うこともこの授業の重要な目的となる。	
	中国語 IV B	この授業は、中国語III (A・B・C) において中国語の基礎的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する発展的授業(A・B)の一つである。内容的には、日常的な事柄を越えて、時事的問題や学術的テーマについて、中国語で対応できる能力を修得することに重点を置くが、このIVBでは、とくに新聞記事や研究論文の読解などの上達に力を注ぐ。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考「HSK」4級か、中国語検定試験「中検」3級に合格点を取れることを目標にする。また、グローバル化の進む現代世界について、中国語を媒介にして理解を深め、自ら発信できる能力を養うこともこの授業の重要な目的となる。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際教養学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語文献読解 (日本論) A	<p>この授業は、日本近現代文化と海外文化との接触や影響関係を考察することを目指している。これまでに学習してきた知識や英語力、分析力を活用しながら、「日本文化」として認識してきたものが、いかに他文化と融合し形成してきたかを考える。具体的には、英語と日本語の小説や詩、映画など芸術作品を用い、哲学理論と批評を参照しながら、比較的な観点から議論をしていく予定である。</p> <p>この授業を通じて、以下の目標を達成することを期待している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、文化表象を歴史的、社会的文脈において理解すること。 2、取り上げたテーマや問題について、批評的な観点を得ること。 3、授業を通じて習得した分析法や理論などを用いて、論点を述べるができること。 4、1～3について、英語文献を正確に参照しながら、適切な用語と論理を用いて議論できること。 	
	英語文献読解 (日本論) IB	<p>In conjunction with 英語文献読解(日本論)I, this course aims to explore and examine aspects of Japanese culture that have been influential outside the Japanese context. Building on knowledge, skills and techniques students have developed elsewhere while extending and expanding knowledge and understanding, students will examine the influences of Japanese culture beyond the shores of Japan. In addition, students will look at how these influences have in turn shaped attitudes towards Japan. Students will do so by examining texts (fiction, non-fiction and poetry) and visual media (art, film, TV) and discussing the context (historical, cultural, artistic), content, and language. On the successful completion of this class, students should be able to have a greater understanding of the historical, cultural, artistic, and personal contexts of the texts and media, and to think more critically about the topics, themes and issues raised. They will move towards forming nuanced and sophisticated interpretations by using various techniques and critical thinking approaches acquired throughout the course. They will also discuss and share opinions in English regarding the topics, themes and issues raised.</p> <p>(和訳)</p> <p>この授業は、英語文献読解(日本論)Iと合わせて、日本文化の中で国外に影響を与えた面を探ることを目的とする。これまで学んだ知識や技能をもとに、日本文化が海外に及ぼした影響について考察する。さらに、こうした影響が日本に対する考え方をどのように形成したかを検討する。テキスト(フィクション、ノンフィクション、詩)および視覚メディア(アート、映画、テレビ)、その文脈(歴史、文化、芸術)、内容、言語について議論することにより、考察を行う。受講生はこの授業で、テキストやメディアにおける歴史的、文化的、芸術的、個人の文脈を理解し、トピック、テーマを批判的に思考する力を養うことができるだろう。ここで学んだ様々な手法や批判的思考を用いて、繊細かつ洗練された解釈が可能になる。トピックやテーマについては、英語で議論し、意見交換する。</p>	
	Active English A	<p>This course aims to build on students' fundamental English skills and knowledge needed to express themselves confidently in a real English-speaking environment. This course maintains a well-balanced use of the four pillars of English education, reading, writing, listening, and speaking as well as providing practical opportunities to improve students' English knowledge and confidence.</p> <p>(和訳)</p> <p>このコースは、リアルな英語環境において学生が自信を持って自己表現するために必要とされる基本的な英語スキルと知識を身につけることを目的とする。英語教育の柱となる4技能、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングをバランスよく学び、学生の英語に対する知識と自信とを高める実践的な機会を提供する。</p>	
	Active English B	<p>This course aims to build on students' fundamental English skills and knowledge needed to express themselves confidently in a real English-speaking environment. This course maintains a well-balanced use of the four pillars of English education, reading, writing, listening, and speaking as well as providing practical opportunities to improve students' English knowledge and confidence. The structure of this class is similar to the spring semester; however, the content of activities and tasks are different.</p> <p>(和訳)</p> <p>このコースは、リアルな英語環境において学生が自信を持って自己表現するために必要とされる基本的な英語スキルと知識を身につけることを目的とする。英語教育の柱となる4技能、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングをバランスよく学び、学生の英語に対する知識と自信とを高める実践的な機会を提供する。授業の構成はActive English Aとほぼ同じだが、アクティビティと作業の内容が異なる。</p>	
	English for Academic Purposes Project and Research	<p>This course aims to teach basic skills of academic research in English, in addition to a variety of methods for presentation and standardisation. Students will explore a number of research topics both guided and free as groups and individuals before presenting their findings to the class. Emphasis will be on discussion and debate, as well as improving critical thinking skills. The course will in effect be collaborative as students will be expected to bring new knowledge to the classroom and take on the role of instructor with their peers. On successful completion of this course, students should have a greater understanding of methods of academic research across science and the humanities as well have a greater understanding of different presentation methods and the merits of each. They will move towards understanding academic style, register and standardisation, thinking critically about a range of topics and will broaden their world perspective and cultural understanding. They will also debate and discuss ideas relating to a variety of topics.</p> <p>(和訳)</p> <p>このコースは、英語による学術研究の基本的スキルはもとより、研究発表および研究の規格化のためのさまざまな方法を教えることを目的とする。学生は教師の指導のもと、さらにグループ単位あるいは個人で自由に、多数の研究トピックを探究して教室でその成果を発表する。重視するのは、ディスカッションとディベート、さらにはクリティカルシンキングの技法を高めることである。学生は新しい知識を教室に持ち込み、他の学生に対して教師の役割を果たすことを期待されるので、授業は実質的に共同でつくりあげていくものになる。授業の目的を成功裡に達成するため、学生は人文学のみならずサイエンスについても学術研究の方法をより深く理解すると共に、それぞれの異なる発表方法とそのメリットについてより深く理解しなければならない。授業が進むにつれ、学生は学術的文体、専門用語、研究の規格化された形式を理解し、一連のトピックについてクリティカルに考え、自分の視野と文化的理解とを広げることになる。授業ではさまざまなトピックに関連する考え方についてディベートとディスカッションをおこなう。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Advanced English A	<p>This course continues from second-year classes in the CEP to develop students' communication skills in conversation, discussion, debate, and presentations. By applying project planning techniques, students will organize the topic, focus and content of a variety of written and oral projects, covering both academic and practical themes. Throughout the course, students will have the opportunity to apply critical thinking, problem solving, and collaborative skills as they work individually and in groups to complete future-ready projects. Students will self-select project topics that are based on the themes from sociology, sociolinguistics, culture, economics, business, psychology, and linguistics. These learning skills encourage students to analyse, adapt, and take the initiative to improve processes that are common in study and employment contexts. Through frequent discussions and presentations, students will advance their non-verbal digital communication. In addition, they will further develop information literacy and logical arguments while formulating and then answering research questions. This will continue in debates that are supported with appropriate evidence gained through research that they conducted, and gathered from a variety of resources.</p> <p>(和訳) このコースは、CEPの2年目の授業に引き続き、会話、ディスカッション、ディベートおよびプレゼンテーションにおけるコミュニケーション能力を養う。ここではプロジェクトプランニングのテクニックを応用し、学術的および実用的なテーマのもとで、さまざまな文書や口頭でのプロジェクトにおけるトピック、焦点、内容を企画する。コース全体を通して、未来志向のプロジェクトの完成に取り組みながら、受講生は個人またはグループで活用する批判的思考、問題解決、共同作業のスキルを使うことになる。また社会学、社会言語学、文化、経済学、ビジネス、心理学、言語学などに基づいたプロジェクトのテーマを自分で選ぶ。受講生はこれにより、研究や就業の場で要求されるようなプロセスを分析・適応し、率先して改善する能力を身につけ、ディスカッションやプレゼンテーションを頻繁に行うことで、非言語的なデジタルコミュニケーション能力を向上させる。さらに、研究課題を設定しそれに答えることで、情報リテラシーと論理的な議論をさらに深める。ここでは、自分たちが行った調査や、さまざまなリソースから収集した適切な証拠に基づいて議論を継続する。</p>	
	Advanced English B	<p>The goal of this course is to help students to carry on from the second year of the CEP to build on fluency in reading and writing at an academic level. Students will also further develop critical thinking skills and to plan clear, well-organized essays in a variety of genre. The class will focus on researching, note-taking, argument development, outlining an academic essay, and structure and content to familiarize the students with writing strategies. Students will apply reading strategies using various media and academic sources. Also, students will work on developing a working knowledge of information literacy.</p> <p>(和訳) このコースの目標は、CEPの2年目に引き続き、アカデミックなレベルでの流暢なリーディングとライティングの能力を身につけることである。また、様々なジャンルにおける明確でよく整理されたエッセイを構想するための批判的思考力をさらに高めることを目指す。このクラスでは、ライティングストラテジーに慣れるため、調査、ノートの取り方、論旨の展開、学術的なエッセイの概要や構成・内容に焦点を当てる。受講生は様々なメディアや学術的な情報源を用いて、読解のストラテジーを適用し、情報リテラシーの知識もあわせて身につける。</p>	
	Advanced English C	<p>Students will continue to develop interpersonal skills as they work individually and in groups on a variety of practical and academic projects. These future ready projects will assist students in their university studies and for life after graduation. Projects will cover a variety of presentation genres such as poster presentations for a conference or trade show style. In addition, this class will perform a dynamic role play. To successfully complete this project, students will research and prepare for an employment interview in English as both an interviewer and interviewee. Students will also work on web-based multimedia materials that will require technology literacy by applying good design technique with appropriate technology. The students will have to research, select, and then learn the appropriate applications for various projects. These projects will be shared with students in the faculty.</p> <p>(和訳) 学生は、個人またはグループでさまざまな実用的・学術的プロジェクトに取り組みながら、対人関係スキルを高めていく。これらの未来志向のプロジェクトは、大学での学習や卒業後の人生に役立つものである。プロジェクトは、学会でのポスター発表やトレードショー形式のような様々なプレゼンテーションのジャンルをカバーする。さらに、このクラスではダイナミックなロールプレイを行う。このプロジェクトを成功させるために、受講生は面接官と面接を受ける人の両方の役割となって英語で就職の面接を調査し、準備する。また、ウェブベースのマルチメディア教材に取り組む。この教材は、適切なテクノロジーを用いた優れたデザイン技術を適用することによるテクノロジーリテラシーを必要とする。受講生は、様々なプロジェクトに適したアプリケーションを調べ、選択し、そして習得する必要がある。これらのプロジェクトは、学部内の学生たちと共有することになる。</p>	
	Advanced English D	<p>Academic Reading & Writing D is a course designed to train students to comprehend a wide range of reading and writing assignments as well as to acquire the analytical skills necessary for effective scholarship across the curriculum. Research writing skills and intensive/extensive reading skills will be emphasized. Students are expected to build their academic focused vocabulary using the New Academic Word List (NAWL). Also, students will work in small groups for discussion and presentations on the topics covered in this class.</p> <p>(和訳) Academic Reading & Writing Dは、カリキュラムに沿った効果的な研究活動に必要な分析能力を身につけるだけでなく、幅広い分野のリーディングとライティングの課題を把握・理解するためのコースである。ここではリサーチ・ライティングとインテンシブ/エクステンシブ・リーディングのスキルが重視される。また、New Academic Word List (NAWL)を用いて、受講生にはアカデミックな語彙を増やすことが期待される。また、このクラスで扱ったトピックについて、少人数のグループでディスカッションやプレゼンテーションを行う。</p>	
	比較文学概論	<p>この授業では、文学の国際関係を研究する比較文学の、歴史・手法・意義について基礎的な知識を修得する。一般に文学研究は現代においても「日本文学」、「ドイツ文学」、「フランス語圏文学」というように、国境や言語圏で区画されている。しかし、近現代に限らず作家の創作活動は、地球上の多様な事象に触発され、古今東西の作品にインスピレーションを得て、豊穣化し続けてきた。比較文学はその創造的動きを広く視野に入れるべく、影響関係研究と対比研究という二つの手法を定石としてきた。この授業では、まずこうした研究手法について実例に即して理解することを目指す。また、比較文学は、文学と美術、文学と音楽といったようなジャンルの融合性や、あるいは文学と政治的・社会的文脈との関係性にも大きな関心を払ってきた。こうした論点も検討して、比較文学が何よりもテキストをコンテキストの網の目の中に追究する学問であることを理解したい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際教養専門科目	漢字文化圏概論	日本は日常的に漢字を用いるが、当然ながら漢字の発祥は中国である。この授業では、中国を中心とする東アジア世界における、漢字文化の発展の過程について講義する。前半では漢字の書体の変遷や書法文化の発達などを扱い、後半では中国が発祥である印刷文化を中心的にとりあげる。なお特に印刷文化については、朝鮮半島・日本とも深く関わるので、中国のみならず、東アジア世界全体を視野に入れた内容とする。	
	世界哲学史	この講義では、西洋哲学史と東洋哲学史という従来の枠組みを一度取り払って、「世界」という観点から哲学の動向を古代から現代まで概観する。その場合に、古代中国（孔子・老荘思想など）・古代インド論理学・古代ギリシア（プラトン・アリストテレスなど）・西洋中世（トマス・アクィナスなど）・中国近世（朱子学など）・西洋近代（デカルト・ホブズ・ライブニッツ・カントなど）・中国哲学（特に朱子学）の近代ドイツ哲学への影響・現代哲学（ハイデガー・ヤスパース・西田幾多郎・和辻哲郎など）を重点的に取り上げて分析する。	
	東西交流史	いずれの文明も、内部におけるモノや人の移動で完結するのではなく、外部の文明との交流が存続に作用する。この授業では、特にユーラシア大陸における各文明相互の交流の歴史を学ぶ。具体的には、古代・中世におけるシルクロードを中心とした東西交流や、インドから東アジア方面への仏教の伝播、モンゴル帝国によって形成された世界経済などを扱う。現在の我々が世界史を観察する場合、今の各国を分け隔てる国境線などを無意識に前提としてしまい、正確な把握ができなくなる傾向が少なくない。この授業ではそうした固定観念を克服し、地球規模の歴史の流れをそのまま認識することを目指す。	
	ヨーロッパ研究入門	この授業の目的は、ヨーロッパの社会と文化について専門的に研究を開始するにあたり必要とされる基礎的な知識を習得することにある。近現代世界において、ヨーロッパは、政治・経済はもとより、科学・技術・思想・文学・芸術・ポピュラーカルチャーなど多様な領域で世界の指導的地位を長らく維持してきた。この授業では、まず、そうしたヨーロッパの文化的多様性について検討する。他方また、そうした多様性を貫通する共通性もヨーロッパには持続し、その伝統的な統合軸の中では、ギリシア＝ローマの文化伝統とユダヤ＝キリスト教的伝統についての理解が不可欠となる。	
	世界の中のヨーロッパ	ヨーロッパが地球世界の中心となった時代以降、近代化＝文明化＝西欧化という等式が成立し、現代においても近代ヨーロッパの遺産はグローバル文明の基盤を形成し、また、多くの領域で今なお牽引力を発揮している。しかし、地球の各地で進行した現実の歴史過程を踏まえて近現代の西欧文明を見直してみると、その文明の「進歩」的輝きの裏面に様々な問題点が明らかになる。この授業では、西欧と非西欧世界の政治的・文化的関係を検討することを通して、西欧近代文明の光と闇を解剖する。西欧における異文化表象、非西欧地域各地で生じた西欧志向、あるいはそれに対立する伝統志向の解明が重要になる。	
	多元文化論 (ヨーロッパ) A	この講義では、ヨーロッパ文化に含まれる多元性に関して、特に「自然」をヨーロッパがどのように多元的/重層的に理解してきたのか/理解しているのかという観点から紹介する。その場合に、多様な自然理解をヨーロッパの様々な哲学者・文学者などの重要な著作などで提起された具体的な議論を整理して、そうした整理を通してそれらの議論の特徴を具体的に分析する。基本的にクレプスの「自然倫理学」の構想的議論に依拠しながら、この分類整理を示した上で、それを具体的に評価し議論の素材とする。ヨーロッパの自然理解は主客二元論に基づくとして批判の対象になるが、しかし現実には多様で重層的であることを理解できるようにする。	
	多元文化論 (ヨーロッパ) B	フランスには、キリスト教社会、その後の近代市民社会を通して、ユダヤ人がずっと存続し、様々な領域で目覚ましい活動を展開して、フランスの文化に影響を及ぼしてきた。しかし、ユダヤ人集団は決して単一で均質であるわけではなく、歴史も祭儀も生活習慣も言語も異なる、いくつかのユダヤ人集団が存在している。この授業では、1) ディアスポラの中で西欧に早くから定住した人々、2) レコンキスタで改宗や追放を被った人々、3) ボゴロムやジェノサイドの中で東欧からやって来た人々、4) 北アフリカの諸国の植民地独立戦争の中でやって来た人々、など文化的に多様ユダヤ人の様相を明らかにしながら、フランスの社会的環境の中で展開したユダヤ人の社会的・文化的活動について考察する。	
	現代ヨーロッパ社会論	この講義では、現代ヨーロッパの超国家的supranationalな枠組みや法制度についてEUの歴史を振り返りながら考えると共に、他方では国家を介さずに広がりを見せるトランスナショナルtransnationalな繋がりや実践について、言語・文化の多様性や越境性、移住現象の例を通して考えていく。EUを構成するフランスやスペイン、非加盟国でありながらEUと密接な関係を持つイギリスなどを事例にして、現代のヨーロッパが持つ個々の国民国家の連合という側面と、国境を越え、複雑で互に入り組んだ多層的社会という側面とを考察する。	
	西洋芸術論	この授業は、西洋の芸術について、古典的芸術概念や、近現代に生じた新たな諸ジャンルを含め、総合的に理解を持つこととを目的とする。特に重要とみなされる作品については具体的な形式と内容の両面から考察を進める。講義ではまず「芸術」という言葉が内包する概念の多様性を確認した上で、20世紀のフランスにおける「第七芸術/映画」やバンド・デシネ、アニメーション、メディア・アートの特徴を取り上げる。そこから時代を遡る形で、西欧の文学、絵画、舞踊、建築等が世界に与えた影響、およびアジアや日本の文化との相互関係を探ることで、受講生が芸術への関心をより高められるようにする。	
	イギリスの歴史	「イギリス文化」とされるものの形成、変転の過程を辿る。その構成要素が決して不動のものではなく、むしろ歴史的な変遷を経て今日に至っており、なおその途上にある点を明らかにする。前提として、イギリス史の基本的な流れと重要事項を確認する。次に一歩進んで、言語や法制度、さらには生産、消費、交換、あるいは家族形成のパターン、およびそれらに即応しつつ形成された人びとの思考、行動の様式を把握する。学んだ内容の中から、今を生きる私たちが、人間や社会のあり方を思索する際に役立つヒントを得る。	
	イギリス文学	この科目は、近現代イギリス文学を舞台芸術との関連において理解することを目的とする。ミュージカルやコメディなど、さまざまな舞台芸術は、文学のジャンル、戯曲をもとに上演されたものである。ここでは、とくにイギリスの社会思想劇を取り上げ、近現代のイギリス演劇が政治史・思想史との関連において、どのように展開したかを理解する。授業では、イギリス社会思想劇についての講義、戯曲(原文)の精読、舞台映像や映画作品の参照および受講生による議論により、イギリス文学と視覚文化である舞台とのかかわりを探求する。	
	イギリス文化論	この科目は、ヨーロッパ、旧大英帝国植民地との関係において歴史的に構築された、イギリス文化における国民意識の考察を目的とする。現代イギリス社会における国民意識形成に大きな影響を及ぼしたと考えられる「国民的」文学、「イギリスを代表する」芸術、国立劇場での上演、「イギリス」映画、「イギリス的」ファッションなどを取り上げ、そこに表象された統合的な国民意識、また同時に潜在する階級・移民・人種・ジェンダー・宗教の分断を照射する。授業では、講義および受講生による議論により、さまざまな文化表象のケースを具体的に取り上げ、世界との関係におけるイギリス固有の国民意識について理解を深める。	

学科共通科目

ヨーロッパ専門科目

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アジア 専門 科目	現代思想論	この講義では、第2次世界大戦後のヨーロッパ思想、とりわけドイツ現代思想を、ハイデガー（技術論など）やアーレント（人間論/人権論/アイヒマン論など）、ハーバーマス（討議理論/コミュニケーション的行動論/生命倫理学/歴史修正主義批判など）やホネット（相互承認論など）に関して彼/彼女らの主要著作の分析を通して具体的に分かりやすく概観する。その場合に一つの評価軸としてナチス・ドイツをどのように理解して批判してきたのか（ハイデガーの場合には受容してきたのか）を設定して彼/彼女らの思想的配置図を描いてみる。	
	ドイツの思想と文学	この講義では、ドイツの思想と文学がいかに密接に連関し合っているのかを、具体的な事例を通して分析する。この場合に具体的事例として1755年の「リスボン大地震」を取り上げる。東日本大震災に匹敵する規模のこの大地震はヨーロッパの思想や文学に大きな影響を及ぼした。そうした思想的影響と文学的影響の交差を、ヴォルテール・ルソー・カント・ゲーテ・クライストらの思想的著作や文学作品を具体的に分析することを通して紹介する。このことによって地震という自然災害を哲学と文学が相互に交流しながらどのように受け止め、思想のパラダイムを転換していったかを提示する。	
	フランスの思想と文学	フランス人の精神性と深い関わりを持つ「思想」と「文学」を歴史的観点から概観し、それらが現代の人間に与える影響や効果について考察する。授業では、中世から21世紀にかけての思想史と文学史をクロノロジックに学んでいくが、特に重要と考えられる思想家（モンテーニュ、デカルト、パスカル）や小説家（バルザック、フロベール、プルースト）、並びに象徴派の詩人や不条理劇の作家の作品については原書も含め詳細に言及する。また、近年の文学賞受賞作やフランクフォニー作家の作品を通して、世界文学としてのフランス文学の豊かさと展望を明らかにする。	
	翻訳論	この授業では、様々な翻訳作品（小説、戯曲、児童文学等）の精読を通して、言語と社会との密接な関係性を知ることが主目的とする。国によって異なる「翻訳の位置付け」や「翻訳者の役割」を比較検討することで異文化への理解を深め、既訳が複数存在する本については、それらの間にどのような共通点と相違点があるのかを分析し、未邦訳の作品については現代や未来の社会で受け入れられる表現の可能性を見出す。また、進化し続ける機械翻訳やインターネット上の伝達表現と人間の意識との関係を見つめることで「人間が想像/創造しうる作品とは何か」、「他者の心に響く言葉とは何か」についても考察する。	
	アジア研究入門	この授業ではアジアコースにおける諸科目を理解するための基礎を形成するため、高校世界史の中国・東アジア史部分や、高校政治経済の中国・東アジア部分を中核として、中国を中心とするアジアの歴史や現代の中国について学ぶ。具体的には、中国における殷の時代から中華人民共和国建国に至るまでのアジア史を通観した後、現代中国のシステムを観察する。授業内容は中国を中心とするが、朝鮮半島・モンゴルなどの中国以外の東アジア諸国の歴史も適宜とりあげる。	
	アジア交流論	日本の高校歴史教育は、日本史・世界史・歴史総合の三種があるが、日本史は日本一国の歴史にとどまり、世界史は実質的に日本を除いた世界の歴史となっている。また歴史総合は日本を含めた世界の歴史を扱うが、時代としては近現代史に限定されている。すると現状では近世以前の日本と世界の交流を学ぶ機会が極端に限定されていることとなる。そこでこの授業では、日本と中国の交流史をとりあげる。中国は、歴史的に日本との交流が盛んに行われた外国の一つであり、日本の歴史を中国との関わりという視点をとりいれて観察し直し、新たな日本像を見いだすことを目指す。	
	中国の歴史	歴史的に中国は東アジア地域の中核を占めており、周辺諸国へのその文化・経済的影響は大きい。そこでこの授業では中国の歴史を取り扱う。経済・軍事などの面で大国化しつつある中国であるが、具体的にどのようなプロセスを経てかような国になったのか、それを歴史的な視点を養いつつ、時系列的に追究していく。中国の歴史を把握することで、日本をはじめとする東アジアにおける周辺諸国の歴史も、そこからの文化的影響を強く受けているだけに、より深く理解するための要素となるであろう。	
	世界の中の中国	今日中国はGDP世界第二位の経済大国であり、国際社会における存在感を高めている。しかしながら中国はこれまで国際社会においてどのような位置づけにあったのだろうか。この授業では、中国の近現代史を通観しつつ、国際社会と中国の関係について紹介する。国際社会という「空間」的要素と歴史という「時間」的要素をともに踏まえることで、現在中国の置かれている立場をより深く理解することが可能となるであろう。	
	東洋思想	中国では、儒教を初めとして、独特の思想体系が形成されてきた。この授業では、中国を中心とした東アジアの思想史について講義する。初の体系的な中国思想は春秋時代末期の孔子によって創出された儒家思想であり、やがて諸子百家の戦国時代を迎える。漢代には儒教が「国教化」されるが、続く魏晉南北朝・隋唐時代には仏教が伝播し、道教が台頭する。宋代に入ると理学が発達し、やがてそれは朱熹によって完成される（朱子学）。明代には反朱子学としての陽明学が誕生する。こうした中国思想の流れを歴史的に観察する。なお授業では朝鮮朱子学や日本の朱子学・陽明学も扱う。	
	現代中国論	中国の政治・社会や文化は日本のそれらとは大きく異なっている。例えば政治システムについて、日本は三権分立の議会制民主主義であるが、中国は事実上中国共産党の一元支配体制となっている。空間的に両国は比較的近くに所在し、同じ漢字文化圏であるにもかかわらず、現代の日中両国は相違する点が多岐にわたる。この授業では、現代中国の特質を解明し、自らの住む日本との根本的な差について理解する。現在の中国を理解することは、将来の中国をはじめとする東アジア世界の動向を予測するための重要な材料となるであろう。	
植民帝国論	21世紀世界において地球的課題に取り組もうとする時、総体としての人類文明の一体化が進んだ近現代の歴史過程についての理解が不可欠であり、とりわけ、その一体化をリードした西欧近代諸国による帝国支配について十分な知識をもつことが重要になる。スペイン、ポルトガル、オランダに続き地球的規模で植民支配を展開し、最大版図を実現したのは、いわゆる大英帝国である。この授業では、ヴィクトリア朝時代の「パックス＝ブリタニカ」を中心に、大英帝国の政治・経済・文化、またそのアジア・アフリカ地域との関係などを考察して、20世紀後半以降に強まるポストコロニアリズムの論調の理解に結び付けたい。		
多元文化論 (アジア) A	本科目は韓国のポップカルチャーを題材として、韓国の現代文化がその社会や歴史のなかでどう形成されてきたかを学ぶ。韓国の音楽産業や映画産業における日本やアメリカからの影響、軍事政権による抑圧、民主化以降の文化振興政策などが、韓国の文化産業の誕生や発展にどのように寄与してきたか、その中で韓国独自の文化表現がどう形成されてきたのかを分析していく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科共通専門	多元文化論 (アジア) B	この授業は、植民地朝鮮や台湾の文学、満州文学、アイヌ文学、沖縄文学の代表的作品を読みながら、近現代日本の社会文化をアジアの文脈において考察するものである。近代化とグローバル化の過程において、日本とアジア諸地域の文化がいかに相互に関連しながら形作られ、それぞれのナショナル・アイデンティティがいかに形成してきたか、文学という側面を通じて議論していきたい。 授業を通して、以下の目標を達成することを期待している。 1、多角的な視点において、近現代日本の歴史、社会、文化を理解できること。 2、今日の日本とアジア諸地域の関係について批評的な視点を獲得し、他者への想像力と寛容性を高めること。 3、文学作品や関連芸術に対する分析の視点を得ると同時に、表現文化の意義を積極的に見出せること。	
	多元文化論 (アジア) C	中国は広大な領土と多数の人口を抱えた国であるが、現状は中国共産党が一元的な支配を行っている。しかしながら一方で、中国は多数の方言がある他、漢民族以外の少数民族などが存在し、またイスラム教徒が国内にあり、言語・文化・宗教など、多様性の国でもある。この講義では、中国国内の各方面における多様性を把握し、それに政治・社会がどのように接してきたかを、歴史的な視点を踏まえつつ観察していく。	
	東洋文化論	漢字文化圏を中心に中国・日本・韓国における言語、文学、芸術、風習について講義する。関連する文献だけではなく、ビデオやスライドショーなどの映像資料も利用し、作品・事例をとりあげながら観察、比較、分析を行う。それによって、東洋文化の代表的な伝統と個々の特徴を認識できるようになることを到達目的とする。主に、中国・日本・韓国の文化における共通点を探ると共に、個々の独自性を見出し、それぞれの特徴を考察する。特に悠久の歴史の中、文化の輸出→輸入→再輸出、受容→変容を経て、国々の独特な民族性を形作るに至った過程を観察し、異文化への理解を深めると同時に、東洋文化への関心も高める。	
	中国文学	中国はいままでも漢字文化の国であるが、それをベースとして様々な文学が創出されてきた。この授業では中国文学について学ぶ。中国の最初の詩集は『詩経』であり、また聖人や帝王などの言行録として『尚書』があった。また中国の南方ではこれらとは別の系統の韻文である『楚辞』があらわれている。漢代に入ると、『楚辞』をベースとした賦が発達し、魏晉南北朝・隋唐時代には詩文化が発展する。宋代には漢文復古運動が開始し、元代には元曲が発達する。こうした中国文学の歴史を時系列で通観する。特に詩は韻文であり、韻を踏むという文化が言語の構造の問題から日本人からは理解しにくい、それをきちんと理解するために、中国の音韻学も扱う。	
	国際日本研究入門	日本研究が国際的にどのように行われ、日本のどのジャンルに興味を持たれているかを欧米を中心に紹介する。そして、絵巻や奈良絵本、絵本、挿絵などの絵画表現を中心に、可視化される様々なテーマがどのような意味を内包していたのかを分析する方法論を学び、世界の中の日本研究を深める学びを実践する。さらに、東西の出会い、イエズス会宣教師と日本、活版印刷技術の日本導入、中国経由で日本に入った西歐的方法論と日本文化の発展や西歐での日本研究の関り、アジア学の発展などトピックを設け、日本文化・文学研究を中心とした欧米の日本研究の進展も明らかとする。	
	アジアの中の日本	現在名古屋市蓬左文庫に収められる本で徳川家康や徳川義直など初期の名品のコレクションは圧倒的に漢籍が多い。分野も本草や博物学、茶道具、絵画、薬品に関する書物など多岐にわたる。本講義では室町時代から江戸末までの徳川美術館など国内にある輸入品の優品コレクションから、日本は東アジアの諸国から何を輸入してどのように変容させて受容したのかを主に漢詩・和歌などの文芸と音楽・歌舞伎などの芸能の面から調べ、講義してゆきたい。	
	世界の中の日本	江戸時代は鎖国政策により、国際的に孤立していたイメージが日本にはある。しかし、中国、朝鮮、オランダと結び付き、多くの文化交流が行われているのである。そこで、欧米を中心に美術館に所蔵のある江戸時代製作の屏風、染織型紙、陶磁器、浮世絵、版本表紙、団扇、扇子などの道具を中心に分析し、その中に世界の文化がどのように織り込まれているのか、なぜ織り込まれたのか、さらに、世界の中で日本がどのように興味を持たれ、意識されていたのかを考察する。その学びから、日本文化の特徴と東アジアも含めた世界との関係を構築し、さらに江戸における東アジアと日本の関係史から日本文化の発展への寄与や道具に使用される和紙の成立までを考察する。	
	日本の歴史	日本の歴史を東アジアや西欧との交流史を中心に学ぶ。そこで、「記紀神話」における古代朝鮮や東アジアの中の古代日本、朝鮮半島や中国との関係史などを学び、相互の関係を考察する。その中では仏教史、文学や文字史も含め、日本の発展と東アジアの繋がりを探る。そして、宋、明や朝鮮の日本文化への寄与への考察などを行う。なお、この授業では、奈良、平安、鎌倉、室町、江戸と各時代と諸外国とのつながりのトピック（宋・明、南蛮船、朝鮮通信使など）を取りあげ、授業を展開する。その理由が学習者の広がりのある学びの視点の獲得に繋げ、国際的な歴史理解の幅を養うことを目的とするからである。	
	現代日本論	激動する21世紀には、先進国での高齢化・少子化が急速に進み、社会が大きく変わろうとしている。この講義では、日本社会の国際化に焦点を当て、20世紀末から21世紀初頭にかけて、日本社会がどのように高齢化・少子化問題に対応し、外国からの人材の受け入れを拡大しながら、文化的多様性や相互理解を促進しているかを考察する。また、日本人でも、日本を離れて就職し、言語能力のみならず様々なスキルや異文化の知識を身につけようとして海外での長期滞在をしている人々が年々増えている。この授業の目的は、国際化に関する様々なトピックに触れながら、日本の現代社会や国際社会に関する知識を深めることである。	
	比較日本文学	日本近現代文学は、日本国内で多くの映画化やアニメ化、二次創作が行われているだけでなく、アジア各地域においてもしばしば改作されてきた。この授業は、日本近現代文学作品をめぐるアダプテーション（改作）を、アジアの越境的な文脈において考察するものである。 授業を通じて、以下の目標を達成することを期待している。 1、詩や小説、記録、映画など、複数の表現手法を比較し、分析できるようになること。 2、文芸表現を社会の文脈に還元して考察できるようになること。 3、アダプテーションに関わる言語翻訳の問題について知見を得ること。 4、日本とアジア諸地域における文化形成のダイナミズムを理解すること。	

授 業 科 目 の 概 要 (外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 日本 専門 科目	Japanese Literature	This is an introductory course that covers the main developments in Japanese literature from 1868 to the present day. A range of representative writers and major works will be read and discussed. All texts are in English translation. We examine the emergence of the modern novel during the Meiji Period, and we will see how various literary movements—Romanticism, Naturalism, Modernism, Proletarian Literature, and Postmodernism—have reflected shifting cultural and political values in a changing Japanese historical environment. The course will also touch on specific Japanese literary developments, such as the rise of the I-Novel (shishōsetsu) and the ‘Return to Japan’ (Nihon kaiki) Movement. The course makes particular reference to the emergence of women writers as an important driving force in contemporary Japan. The course aims to develop students’ critical vocabulary for discussing literature, and to promote their sensitivity towards cultural differences and broader aspects of Japanese culture and history as expressed through literature. No previous experience of studying literature is required. Most important is that students must be willing to read the weekly set texts, and to explore their own reactions to those texts during discussion in class and in their written assignments. (和訳) 1868年から今日までの日本文学がどのように展開したかを扱う入門の授業である。日本文学の代表的な作家のテキストを英語で読み、議論する。ここでは明治期の近代小説の出現、ロマン主義、自然主義、モダニズム、プロレタリア文学、ポストモダニズムといった様々な文学運動が、近代日本の変化する環境において、文化や政治の価値の移り変わりをどのように反映してきたかを探る。私小説、日本帰郷運動また特に、現代日本における重要な推進力としての女性作家も扱い、文芸批評の言語を学び、文学を通して表現された文化の違いや日本の文化や歴史の広い側面に対する感受性の促進を目的とする。毎週指定のテキストを読み、ディスカッションやレポート課題によって、受講生は文学研究への意欲を育てることが重視される。	
	比較芸術論	同じ六条の御息所が葵上に祟る内容を筋としているものでも源氏物語では葵上は生霊の祟りで亡くなるが、能では横川の小型の折子によって御息所が成仏して終わる。本講義では日本の物語・能狂言・歌舞伎・日本舞踊・文楽・浪花節など、同じ筋立てをもとにジャンルを変えて上演されるときに物語の筋や登場人物がどのように変えられるのか、ジャンルによる違いを日本の古典芸能の範疇内で調べて講義したい。	
	Minority Studies	It is sometimes argued that Japanese society is populated by a largely undifferentiated and conflict-free community of citizens. This course aims to throw a light on various minority cultures within Japan in order to challenge that myth of Japanese homogeneity. We will examine a range of ‘outsider’ texts, both literary and historical, in order to gain a more complex understanding of what Japanese identity actually entails in the modern world. These texts include the experiences of Ainu, Okinawan, same-sex (queer), burakumin, Zainichi Kankokujin, and female communities within Japan. The texts will be placed within a broader context of the social, historical and political environments from which they emerged. By pushing students to question the conventional understanding of Japanese-ness, the course aims to demonstrate that Japanese society is not actually a single, undifferentiated body. Rather, Japanese society is formed from a range of conflicting voices, and no single one of these voices can speak on behalf of the whole of society. Indeed, it is the very diversity of these voices that creates the richness of Japanese culture. By participating fully in class discussions, students will learn how to make sense of literary texts from a wide range of social and cultural perspectives. (和訳) 日本社会は、分断や紛争のない社会であると主張されることもあるが、この講義では、日本国内の様々なマイノリティ文化に光を当て、日本人の均質性の神話に挑戦することを目的とする。ここでは、現代社会における日本人のアイデンティティとは何かを深く理解するために、文学的・歴史のないいわゆる「アウトサイダー」のテキストを検討する。アイヌ、沖縄、クィア、被差別部落、在日韓・朝鮮人、日本女性などの経験が含まれるテキストを、社会的、歴史的、政治的な広い文脈の中に置く。日本社会は相反するさまざまな声によって形成されており、その多様性こそが日本文化の豊かさと考えられる。本講義では、受講生が議論へ参加することで、文学作品を様々な社会的・文化的視点で理解する方法を学ぶ。	
	クロスカルチュラルスタディーズ	本講義は、人間の暮らす世界のさまざまな側面に既存の文化や社会の枠組みを超える視点で光を当てる。テーマとしては、文化・社会を筆頭に人文が対象とする多様な問題を取り扱う。学生は本講義を通し、主体的にもの考え、自分で答えを造る力を養成する。同時に、世界の多様な問題とその多様な捉え方に触れることで、固定観念に縛られず、自分で考えるということ、自分で価値を創るということがどのようなことかを理解する。	
	多元文化論（日本）A	この授業は、外国人作家による日本語文学や、日本人作家が海外で創作した文学作品を読む。文学を通じて、国境を跨いだ多様な人間活動を知ると同時に、日本社会の多元性、および国際社会における日本文化の位置づけを考察する。 授業を通して、以下の目標を達成することを期待している。 1、日本語文学について広い知見を得ると同時に、日本文化の多元性を理解すること。 2、日本社会と国際社会のさまざまな問題について批評的な視点を獲得し、他者への想像力と寛容性を高めること。 3、文学作品や関連芸術に対する分析の視点を獲得すると同時に、表現文化の意義を積極的に見出せること。	
	多元文化論（日本）B	現代日本の若者を中心に享受されているアニメやゲーム、キャラクターなどの「ポップカルチャー」は、外国文化の影響を受けながら発展してきた歴史を持つと同時に、外国語圏にも多くの受容者・愛好者を持ち、海外でも「日本文化」を代表するものとして認知されている。本授業では、国籍や人種、ジェンダー、セクシュアリティなどをめぐる既存の価値観を攪乱しながら、新しい価値を創造する契機となるポップカルチャーの潜勢力について学び、理解を深めていく。それによって、地域に根ざしつつグローバルに物事を考える能力を養い、積極的に地域や社会に貢献する態度をとれるようにする。	
多元文化論（日本）C	倭寇のようにマイナス面で捉えられることも多いが鎌倉・室町時代九州・四国および日本海側新潟県付近の水上生活者の交易圏は現在の中国南東部・韓国・北朝鮮からモンゴルにまで及んでいた。これらの外国から輸入された絵画や漢籍は五山文学など寺院の文芸に、壺や茶碗は茶道具として、庶民の茶の湯に、織物は唐織として能楽など芸能に大きな質的転換をもたらし、また日本の芸能人社会と渡来人社会は文化的に大きな影響を与え合った。この様相を、主に室町期の漢詩・和歌と能・狂言について具体的に実相を明らかにしつつ講義したい。		

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際教養	多元文化論 (日本) D	現代日本の表現文化を支えるメディアミックスの現状について、脚本家・編集者・映像ディレクターといった現場で働くゲストスピーカーを交えて考える。以前は活字メディアとテレビによって独自の発展を示してきた日本のエンターテインメント文化は、インターネットの出現により動画配信や投稿サイト、スマホのアプリ等を含め、多面的に展開され、誰もが容易に全世界に発信する立場に立つことができるものに変化した。様々な文化的な背景を持つ人々にエンターテインメントが同時に発信される現状の中で、それぞれの制作の現場では何が起きているのかを知り、その展望と問題点について掘り下げて行く。	
	Japanese Traditional Culture	There are several good reasons to learn Japanese traditional culture in English. For most people "Japanese Tradition" sounds too far from their common life, but by using English to learn, it will be more comprehensible. All culture that is so called "traditional" is once a "popular" culture. Since so many people loved it, the culture has been preserved for a long time, and people's lives have been changed and the explanation became necessary. Well, what has been so fascinating? By learning in English, we could learn more objectively, and could grasp the culture systematically. (和訳) 日本の伝統文化を英語で学ぶことにはいくつかの意義がある。そもそも伝統文化は外国文化のように遠く感じるが、英語だと違った理解ができるのだ。伝統は、その昔はポップカルチャーだった。大衆が愛したからこそ、今なお伝統として生き延びているのだ。何がその時の人々の心をとらえたのか？その魅力を現代のように味わうには、一度英語にしてみると客観的に、体系的にとらえることができて、わかりやすくなる。	
	Japanese Contemporary Culture	Since the 1980s, many students who study Japanese culture at overseas universities name manga and anime as the first sparks that drew their attention to Japan. And the positive image of what has been called 'Cool Japan' has extended further into western society. For instance, the healthy and fashionable eating options of bento and sushi have sprung up in most major cities of the world; there is a positive appreciation of Japanese high tech and robotic industries; and authors such as Murakami Haruki and Yoshimoto Banana have gained such acclaim that their novels are worldwide bestsellers. More recently, 'Cool Japan' has been linked to the British genre of Grime Music. This course explores the highly controlled and commercialized nature of this cultural slogan, which has been employed very effectively to highlight a positive Japanese national identity. In particular, the Japanese government has consciously associated 'Cool Japan' with the concept of an unthreatening and uncontroversial worldwide image, thereby promoting the potential of its tourist and other industries. The course will help students develop interpretive skills that will enhance their critical appreciation of the 'Cool Japan' brand through a range of media, including manga, anime and literary texts. (和訳) 授業は、グローバル社会に出たときには自分のバックグラウンドの魅力を外国の人々に説明できるようになることを目標とする。日本の伝統を学びながら、現代社会の外国と日本の違いも理解が出来るようになる。クラスは対話を中心としたアクティブラーニングで進められ、自分からのアウトプットに即活かすことができ、自分自身の考えもアップデートできる。	
	Translation Studies	This course addresses translation studies from both theoretical and practical perspectives. On the theoretical side, we explore the cultural and philosophical assumptions that underpin what might, on the surface, appear to be the 'simple' act of translation. We examine how some important Western theoretical writers established the guidelines by which later generations interpreted, reinterpreted and recreated texts. We consider some major theoretical writers of the twentieth century such as Walter Benjamin, Gideon Toury and Lawrence Venuti. We also look at translation theory from the specific cultural and historical context of Japan. Even in the fifth century, Japan was already borrowing from Chinese characters (kanji), Chinese writing styles (kanbun) and Chinese culture (poetry, the arts) in order to 'translate' its own Japanese culture into texts. And this predilection to translate the Japanese experience through external cultures continued into the Meiji Period, when translation played a vital role in the process of modernization. We also explore how Translation Studies has emerged in the last few decades as a field of study within Japan itself. On the practical side, students will be required to translate a range of texts—literary, historical, and factual—both from Japanese into English, and from English into Japanese. (和訳) この授業では、翻訳学を理論と実践の両面を取り上げる。理論面では、「単純」な行為に見える翻訳を支える文化的、哲学的な前提を探る。ヴァルター・ベンヤミン、ギデオン・トゥーリ、ローレンス・ヴェヌーティなど西洋の重要な理論家によって、テキスト解釈、再解釈、また再創造するガイドラインをどのように確立されたかを検証する。また、5世紀の時点で、日本はすでに漢字、漢文、中国文化(詩、芸術)を引用し、日本文化をテキストに「翻訳」していたという日本の文化的・歴史的背景、翻訳が近代化の過程で重要な役割を果たした明治時代まで続いた点について検討し、この数十年の間の翻訳学の展開を探る。実践面では、文学、歴史、事実など様々なテキストを日本語から英語へ、英語から日本語へ翻訳の実践を行う。	
	日本語実践演習A	創作を通して、実践的な日本語の使用法を身につける。最初に日本語の特徴を理解し、日本語で創作して行く意味から考える。第一の課題として感情表現を軸に自分に起きた事柄を描写するエッセイを作成し、起承転結のある短文を完結させる。次に無から世界を作り上げる小説創作を体験する。経験を通して人が習得する物語スキーマの実際について、発達心理学の知見も踏まえて学ぶ。スキーマを通して、類似の物語が繰り返される背景を知り、創作の過程で自分の持つ様々なスキーマをどう利用するかを考える。最終的には完結した物語を作成することを目的とする。	
	日本語実践演習B	「文章にできることは何か」を根本的な問いとして、更に洗練された作品作りを目指す。メディアミックスが常態化し、それを前提としたプロデュースがされる文化発信の現状を理解して、それぞれのメディアの長所短所を考えると、言葉だけで表現される作品の果たす役割が見えてくる。様々な媒体が物語を作る中で、小説を小説たらしめる条件は何かを自らに問いかけながら、言葉だけで世界を創る意味を考える。作品を発表する機会を数回設けるが、自発的な発表の場として授業を活用することも歓迎する。	
	国際教養研究A	この授業では、卒業論文提出に向け、基礎的な研究方法を学ぶ。受講者が選択した分野について研究するにあたり、その分野でどのようなことが具体的に研究されているか、どのように研究していくのかなど、基礎的な知識を身につけ、また方法論を学んでいく。ゼミナール形式をとり、受講者は適宜口頭発表などを行う。これらを行うことで、より具体的な研究テーマ決定に必要な知見を蓄える。	
	国際教養研究B	この授業では国際教養演習Iで学んだことを基礎として、さらに発展させ、より応用的な作業に取り組む。自身の関心に基づきながら、卒業論文のテーマを決定し、各分野に即した調査や、先行研究の収集などを行いつつ、途中経過を口頭発表する。そこで担当教員の指導を受けながら、より具体的な作業を進め、研究内容を高度化することを目指す。この授業の終了時には、卒業論文の大まかな構成が決定していることが望ましい。	

授 業 科 目 の 概 要 (外国語学部国際教養学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
	演習科目	卒業研究A	この授業では本格的に卒業論文執筆に取りかかる。国際教養演習Ⅱまでに調べた内容やアイデアを整理し、調査・考察を進めながら、論文の具体的なテーマを設定し、章立てなど、構成をさらに整えていく。そして作業内容を口頭発表し、担当教員の指摘を踏まえて修正しつつ、論文を執筆していく。この授業の終了時は卒業論文提出期限まで半年を切っているため、最低でも章立てなどの構成は決定していることが望ましい。	
		卒業研究B	卒業論文提出までの数か月間に相当するこの授業では、卒業論文の完成と提出を目指す。国際教養演習Ⅲまでの作業を進めて執筆を続行し、途中担当教員の指導を受け、また場合によっては口頭発表を行う。これらの結果を踏まえて執筆し、期日までに完成させ、卒業論文として提出する。提出までの最終段階に相当するこの授業では、卒業論文完成・推敲に特化するのが望ましい。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。